



# 研修プログラムガイド 2014



四国地区大学教職員能力開発ネットワーク





## 研修プログラムガイド2014の発刊にあたって

「四国地区大学教職員能力開発ネットワーク（SPOD）」は、平成20年度文部科学省戦略的・大学連携支援事業の採択を機に設立されました。平成23年度からは、加盟校からの分担金による自主運営体制に切り替わり、四国地区にある高等教育機関が連携して取組を継続しています。

本ガイドブックは、SPODネットワーク内で開催され、かつ加盟校が参加可能な全85のFD/SDプログラムを掲載しているものです。平成21年度より毎年作成され、加盟校の全教職員約7,000名に配布されています。ここに掲載されているプログラムは、授業改善のためのスキルや、学生支援の実践とコツ、カリキュラム改善や組織改善に関するものまで、実践的で多様な内容であり、各加盟校の抱える実状や教職員のニーズに応じて受講できるものとなっています。

平成23年度よりスタートしたSPOD内講師派遣プログラムは、SPOD内の大学から加盟校に研修講師を派遣する取組で、各機関のFD/SD活動の発展のため、多くの加盟校にご利用いただいております。また、講師派遣プログラムは他のSPOD加盟校にも開放しているものが多く、開催校の教職員だけでなく、他の加盟校の教職員が参加することにより、他大学の講師や受講者との交流が生まれ、学内の教職員が刺激を受け、FD/SD活動が活性化しているとの意見も出ています。

昨年度、SPODが提供したプログラムの受講者は延べ2,300人を超えました。参加者は毎年増え続けており、四国地区の多くの教職員の皆様にSPOD事業をご活用いただいていることに深く感謝いたします。

平成24年6月に文部科学省から示された「大学改革実行プラン」では、国公立大学の設置形態を超えた連携の本格展開の必要性が掲げられています。これまでもSPODの取組は大学間連携の好個の先行事例として注目を集めておりますが、今後も活動の質を高め、全国の高等教育機関の教育力向上を牽引する役割を担えるよう尽力して参ります。

引き続き加盟校の皆様には、ご協力・ご支援をいただきますよう、よろしく願い申し上げます。

「四国地区大学教職員能力開発ネットワーク」会長  
愛媛大学長 柳澤康信

# 研修プログラムガイド2014目次

研修プログラムガイド利用の手引き	3	学生の学びを引き出すためのシラバスの書き方	42
SPOD(四国地区大学教職員能力開発ネットワーク)について	4	授業効果を高めるために授業の最初にすべきこと～質問が出る教室づくり～	42
はじめてSPOD研修プログラムを利用される方へ	9	初年次科目のためのグループワークの技法	43
日程別プログラム一覧	10	能動的学習支援者必須!グループワークのためのファシリテーション入門	43
開催大学別プログラム一覧	12	大人数講義を魅力的にするテクニック	44
テーマ別プログラム一覧	14	<b>New!!</b> 小グループ・ペア学習を取り入れた授業デザイン～考え方と進め方～	44
SPOD加盟校内講師派遣プログラム一覧	16	<b>FD/SDプログラム(教職員対象)</b>	45
研修プログラム		学生の自立を促す学生支援のコツ	46
FDプログラム(教員対象)	17	クリッカーで教育・研究が変わる!	46
<b>New!!</b> 授業設計ワークショップ	18	学生を眠らせない講義法のコツ	47
ティーチング・ポートフォリオ作成ワークショップ<東四国対象>	19	メンタルヘルス研修	47
学生の学びを促すシラバスの書き方	19	<b>New!!</b> プロジェクトマネジメント	48
学生の学ぶ意欲を引き出す授業とは?	20	ルーブリック評価入門-ブレない・速い・楽チン成績評価のスズメ	48
クラスルームコントロール	20	講義のための話し方入門	49
教えないで成績を上げるTBL(チーム基盤型学習)という授業方法	21	学習者の学習意欲を高める授業設計を行うための	
新任教員研修会「よりよい授業のためのFDワークショップ」	22	インストラクショナル・デザイン(ID)入門-ARCS動機づけモデルの活用-	49
授業へのグループワークの効果的な導入	23	大人数講義法の基本	50
学生の参加を促す授業方法	23	障がい学生支援	50
大人数講義を魅力的にするテクニック	24	eラーニング活用(入門編)-Moodleソフトを活用して	
基礎から学ぶ学習評価法	24	きめ細やかな学習支援を実現しよう-	51
学生の学びを促すシラバスの書き方	25	パワーポイント2010基本技・便利技	51
「プレゼンテーションの方法」の教え方	25	動画教材作成法	52
「レポートの書き方」の教え方	26	<b>New!!</b> アクティブラーニング入門	52
「日本語技法」の教え方①	26	学生の授業時間外学習を促すシラバス作成法	53
「日本語技法」の教え方②	27	教職員のためのPowerPoint	
協同学習の基本(入門編)	27	-分かりやすい話の組み立て方・資料作成・分かり易い話し方-	53
「情報整理の方法」の教え方	28	<b>New!!</b> マインドマップ入門講座	54
教えないで成績を上げるTBL(チーム基盤型学習)という授業方法	28	<b>SDプログラム(職員対象)</b>	55
学生の学ぶ意欲を引き出す授業とは?	29	次世代リーダー養成ゼミナール	56
効果的なグループワークの進め方	30	大学・社会人としての基礎力養成プログラム研修(レベルI)	
学生の能力を高める評価法のコツ	30	【新任職員研修】第1回	58
<b>New!!</b> 会議マネジメント	31	大学・社会人としての基礎力養成プログラム研修(レベルI)第2回	59
授業デザインワークショップ	32	大学・社会人としての基礎力養成プログラム研修(レベルII)	60
ティーチング・ポートフォリオ更新ワークショップ	33	大学・社会人としての基礎力養成プログラム研修(レベルIII)	61
学習評価の基本	33	大学・社会人としての基礎力養成プログラム研修(共通科目)	62
英語で授業をしたい教員のためのワークショップ	34	若手・中堅職員のための判断力・決断力養成講座	63
<b>New!!</b> 効果的なeラーニング活用方法(超入門編)	34	学務系職員養成プログラム研修(レベルI)	63
ティーチング・ポートフォリオ作成ワークショップ<西四国対象>	35	大学職員のための企画力養成講座	64
アカデミック・ポートフォリオ作成ワークショップ	35	職員のための講師養成講座	65
ティーチング・ポートフォリオ作成ワークショップ<高専対象>	36	<b>New!!</b> 職員が輝くSDの実践事例	66
学生の学ぶ意欲を引き出す授業とは?	37	<b>ブレFDプログラム(大学院生対象)</b>	67
<b>New!!</b> 小グループ・ペア学習を取り入れた授業デザイン～考え方と進め方～	37	TA講習	68
学生の学びを促すシラバスの書き方	38	ファシリテーション力養成道場	69
基礎から学ぶ学習評価法	38	<b>総合プログラム</b>	71
ティーチング・ポートフォリオ入門～教育実践のリフレクション～	39	大学教育カンファレンス in 徳島	72
<b>New!!</b> 事例から見た、学生・保護者から信頼される高専教育	39	愛媛大学教育改革シンポジウム	73
学生の学びを支援する授業準備ワークショップ	40	SPODフォーラム2014	74
講義に小グループ・ペア学習を取り入れた授業デザイン～考え方と進め方～	41	<b>学内向け研修プログラム</b>	75
コミュニケーションで知識を蓄えるTBLチーム基盤型学習法	41	<b>各種研修プログラムの</b>	
		お申し込み・お問い合わせについて	82



# SPOD(四国地区大学教職員能力開発ネットワーク)について

## ◇概要

四国地区大学教職員能力開発ネットワークは、FD/S D事業のネットワークであり、平成20年度の文部科学省戦略的の大学連携支援事業としてスタートし、現在、四国地区にある33の全ての高等教育機関が加盟するネットワークへと成長しています。

四国地区大学教職員能力開発ネットワークは、「Shikoku Professional and Organizational Development Network in Higher Education」の頭文字をとって「SPOD」と呼ばれています。

## ◇目標

SPODの全加盟校が連携してネットワーク事業を展開し、FDとS Dという2つの事業の効率化、高度化、実質化を行うことで、教育の質の保証を図り、学生の豊かな学びと成長を支援する、実践的な力量をもった高等教育のプロフェッショナルの輩出を目指しています



## ◇運営体制

SPODは、安定した運営体制に特徴があります。徳島大学、香川大学、愛媛大学、高知大学の4大学をネットワークコア校とし、FD/S D/事務担当者が月に1回程度集まり、ネットワークコア運営協議会を開催し、教職協働で事業の実施、運営上の諸課題を協議しています。このことが、ネットワークコア校間の教職員の関係を密にし、事業の推進力となっています。ネットワークコア校は、各県内加盟校のとりまとめや、県内加盟校会議を通じての情報提供のほか、各加盟校に対して、各種プログラムを提供し、プログラムに対する意見収集や、ニーズ把握調査の実施により、SPOD加盟校全体のニーズに対応できるよう日々プログラムの見直しを行っています。また、ネットワークコア校のFD/S D担当者が直接、加盟校を訪問する研修講師派遣事業も行っています。

さらに、全加盟校へ本事業の情報を提供するため、ホームページ上への研修講師プロフィールの掲載や研修資料の提供、定期的なメールマガジンの配信を行っています。

SPODでは、取組をよりよいものに改善していくため、外部の有識者5名で構成される事業評価委員会を設置しています。事業評価委員会では、毎年、SPODが作成した活動報告書をもとに、書面により事業評価を行っています。その評価結果をもとに、事業の改善や推進を行っています。

## ◇取組内容

(FD)

1. 全学的なFDの実践的指導者であるFDer（ファカルティ・ディベロッパー；FDファシリテーター）を養成するための体系的プログラムの開発，実施
2. 教員としてのキャリアパスの早い段階において，基礎的な内容を学習できるように新任教員，大学院生，ポスドク向け標準的FD・プレFDプログラムの開発，実施  
※特に，新任教員を対象とする研修の標準化を目指し取組に力を入れています。
3. 各種FDプログラムの体系化・標準化に向けた開発，実施
4. 教員の教育業績記録を可視化するためのティーチング・ポートフォリオの開発  
※1～3の取組を進めるにあたり，国立教育政策研究所高等教育研究部での研究成果を積極的に活用し，SPOD内のみならず，日本全国のモデルになるようプログラム開発を推進しています。また4は，大学評価・学位授与機構と連携しながら取組を推進しています。

(SD)

1. 階層別，専門分野別のSDプログラムの開発，実施
  - a) 経営者，管理者養成プログラムの開発，実施
  - b) 専門職養成プログラムの開発，実施
  - c) 次世代リーダー養成ゼミナールの開発，実施
2. 職員の職歴や業績を可視化するためのスタッフ・ポートフォリオ（職員業績記録）の開発
3. 1と2の取組を実質化するための職員キャリアアップサポートの実施  
具体的には，開発したスタッフ・ポートフォリオを活用しながら，キャリアアップ支援の実施や，国公私を通じた職員人事交流などを実施していきます。  
※SDを実践的に指導・支援するSDC（SDコーディネーター）の養成も行っています。

(SPODフォーラム) ※p.74参照

SPODが，大学・高専の教職員自らの能力開発のために，多種多様で質の高いFD／SDプログラムを集中的に実施し，組織を超えた持続的な相互交流・関係づくりの場として毎年夏期3日間にわたり提供しているイベントで，本事業の目玉企画です。

## SPOD-FDについて

### 【SPOD-FDの定義】

SPODにおけるFDは，教育・学習効果を最大限に高めることを目指した，(1)授業改善，(2)カリキュラム改善，(3)組織整備・改革 への組織的な取組の総称です。

#### (1) 授業改善 (Instructional Development)

個々の授業をより良いものにするための取組みです。具体的には，授業評価アンケート，教員相互の授業参観，授業コンサルテーション，教授法に関する講演会，シンポジウム，ワークショップ，セミナーなどがこれにあたります。

〈SPODでの取組例〉

・新任教員研修 ・各種スキルアップ系研修 ・各種公開セミナー

〈各大学での取組例〉

・教員相互の授業参観，授業講評会 ・学生による授業評価アンケート  
・各種セミナー ・学生との意見交換会

#### (2) カリキュラム改善 (Curriculum Development)

学部，学科，課程，コース等において提供されるカリキュラムや教育プログラムをより良いものにするための取組です。具体的には，カリキュラム・ポリシーの制定，授業科目の新設・改廃，授業科目間の関連性の検討，カリキュラムの現状診断・評価・開発，またこれらに関わるセミナーなどがこれにあたります。

〈SPODでの取組例〉

・ファカルティ・ディベロッパー \* 養成講座  
・カリキュラム改善に関するセミナー

〈各大学での取組例〉

・カリキュラム・ポリシー制定に関する学内FD研修会

- ・カリキュラム・ポリシーに対応した各授業科目の授業内容の検討
- ・カリキュラム・マップの作成 ・副専攻制導入の検討

### (3) 組織の整備・改革 (Organizational Development)

教育・学生支援に関わる組織の構造や組織間の関係をより機能的なものにするための取組です。具体的には、教育・学生支援に関わる委員会の設置・改廃、各委員会の役割の検討、組織の現状診断・評価・再編、組織間での連携協力、管理職等を対象とした各種研修会がこれにあたります。

〈SPODでの取組例〉

- ・ファカルティ・ディベロッパー\* 養成講座

〈各大学での取組例〉

- ・SPODに関するFD実施体制の構築
- ・FD委員会等組織の見直し
- ・学科・コースの再編及びそれに伴う教員の再配置
- ・教育重点型教員の配置

(1), (2)においては、組織レベルのみならず教員個人レベルにおける取組も重要です。そして、(1), (2), (3)いずれにおいても、常にPDCAサイクルを意識して、持続的に改善を図る姿勢が肝要であると考えます。

\*ファカルティ・ディベロッパー (FDer) とは、FDの責任者として、各種研修プログラムの企画・実施や各教員への教育技術の支援を行う専門家です。教育技術のみならず、カリキュラムの改善や組織整備等も担います。高等教育センター等に所属しますが、学部にも所属している教員が、FDファシリテーターとして兼任でその役割を担うことも多くあります。

### 【SPOD-FDプログラムのレベルについて】

国立教育政策研究所が開発したFDマップを利用して、本ガイドブックに掲載されているSPOD-FDプログラムのレベル分類をおこなっています。FDマップとは、FDプログラムを体系的に整理できる枠組です(図参照)。FDマップでは、横軸にFDプログラムを実施する対象を示し、「ミクロ・レベル(授業・教授法の開発)」「ミドル・レベル(カリキュラム・プログラム開発)」「マクロ・レベル(組織の教育環境・教育制度の開発)」に分類しています。そして縦軸にFDを実施する対象者の能力開発の段階を示し、「Ⅰ. 導入(気づく・わかる)」「Ⅱ. 基本(実践できる)」「Ⅲ. 応用(開発・報告できる)」「Ⅳ. 支援(教えられる)」と4つのフェーズに分かれています。

本ガイドブック「テーマ別索引」(p.14)に、各プログラムのレベルとフェーズを提示しておりますのでご参照ください。

レベル フェーズ	ミクロ 個々の教員 授業・教授法	ミドル 教務委員 カリキュラム・ プログラム	マクロ 管理者 組織の教育環境・ 教育制度
Ⅰ. 導入 (気づく・わかる)			
Ⅱ. 基本 (実践できる)			
Ⅲ. 応用 (開発・報告できる)			
Ⅳ. 支援 (教えられる)			

図. FDマップのフレームワーク

参考・引用文献

国立教育政策研究所 FDer研究会『大学・短大でFDに携わる人のためのFDマップと利用ガイドライン』国立教育政策研究所, 2009

## SPOD-SDについて

### (1) SPOD-SDの定義

SPOD-SDとは、地域の「知の拠点」である四国内の大学等の職員が組織的に共同開発した職員養成プログラムにより、『大学、短期大学、高等専門学校ジェネラリストとしての広汎な素養に加え、スペシャリストとして特定の分野における能力開発を行うことにより、高等教育のプロフェッショナルを育成する』取組を指す。このSPOD-SDにおける職員養成プログラムをSPOD-SDプログラムという。

学士課程答申では、大学職員の職能開発について現状と課題を整理し、改善に向けた方策を示しています。SPOD-SDにおいては、この現状と課題を踏まえ、大学等の職員として一般的に求められる大学人・社会人基礎力及び大学等における複数の業務領域での知見（総務、財務、人事、企画、教務、研究、社会連携、生涯学習など）を持ち、大学等における問題に関する知識・理解などを備えたジェネラリストの育成に加え、教育方法の改革の実践を支える人材、経営を支援する人材、国際交流を支援する人材及び地域連携を支援する人材など、特定の分野において、より高度な専門性を備えたスペシャリストの育成を目指しています。

また、SPOD-SDでは、大学等の職員に必要な資質とは、ジェネラリスト的な要素とスペシャリスト的な要素を統合したハイブリッドな要素を備えることであり、これが、高等教育のプロフェッショナルの養成につながると考えております。このため、SPOD-SDの定義を「大学等のジェネラリストとしての広汎な素養に加え、スペシャリストとして特定の分野における能力開発を行うことにより、高等教育のプロフェッショナルを育成する」こととしました。

### (2) SPOD-SDプログラムの開発

高等教育機関の職員は、大学人として社会人基礎力を持ち、高等教育を取り巻く環境や職員の果たすべき役割を的確に把握し、企画立案等に積極的に参画できる資質が求められています。このためSPOD-SDプログラムでは、管理運営や教育・研究支援までを含めた資質向上のための組織的な取組を可視化し、職場外研修（OFF-JT）及び職場内研修（OJT）を「意図的・計画的・持続的」に実施することにより、職員の能力開発の実質化を図ります。

なお、SPOD-SDプログラム等の開発・実施は、全加盟校による協働を目指しています。各県のコア校が中心となり、1) 職員がSDプログラム開発手法を学び、2) その上で、具体的なSDプログラムを開発し、3) 開発されたSDプログラムを実施し、4) 実施したSDプログラムの評価・改善を行います。

### (3) SPOD-SDプログラムの構成

SPOD-SDプログラムは次の3つの柱で構成されています。

#### 1) SPOD-SD大学（OFF-JT）

SPODにおける職員養成プログラムは、その養成プログラム全体を大学における課程の履修と想定しています。そのカリキュラムは共通教育、専門教育及び大学院における履修方式をとることとし、その課程認定については、認定必要単位を設定しています。

具体的には、SPOD-SD大学としてSDプログラムの単位認定制度を図のように構想しています。専門職養成課程として共通教育と専門教育の各プログラムを構築し、リーダー養成課程として次世代リーダー養成ゼミナール及び管理者・経営者養成プログラムを構築しました。

## 1. 専門職養成課程

大学職員の専門性を育成するSDプログラムを学士、修士、博士課程として位置づける。そのため、各専門領域を学部や研究科として位置づける。

	専門教育 (専門職養成プログラム)	共通教育 (基礎力養成プログラム)
学士課程 レベル1 専門〇〇単位 共通〇〇単位	学務学部(研究科) 研究協力学部(研究科) 総務学部(研究科) 財務学部(研究科) 施設学部(研究科) 図書学部(研究科) 国際交流学部(研究科) 情報処理学部(研究科) 医事学部(研究科) . . .	大学人・社会人としての基礎力を養成するための共通研修科目
修士課程(専門) レベル2 専門〇〇単位 共通〇〇単位		
博士課程(専門) レベル3 専門〇〇単位 共通〇〇単位		

## 2. リーダー養成課程

大学のミドルリーダー、トップリーダーに必要な知識・技術・姿勢を育成するSDプログラムを修士、博士課程として位置づける。なお、修士課程(リーダー)を受講する際は、修士課程(専門)以上のプログラムを受講中または修了していることを原則とする。

修士課程(リーダー) 〇〇単位	次世代リーダー養成ゼミナール
博士課程(リーダー) 〇〇単位	経営者・管理者養成プログラム(高等教育トップリーダーセミナー)

図. SPOD – SD 大学構想図

さらに、SPOD – SDプログラムにより知識・能力を身につけた職員自らが、次のSPOD – SDプログラムの講師となり、次世代の職員を育成していくというサイクルを確立することで、SPOD – SDの取組を継続的に実施していくことが可能となります。

### 2) スタッフ・ポートフォリオ（職員業績記録）の作成（OJT）

職員個々人のキャリア形成に向けて、スタッフ・ポートフォリオ（職員業績記録）を作成します。これにより、大学等職員としての自己認識と方向性を明確にします。スタッフ・ポートフォリオの導入に当たっては、職員のキャリア・アップの参考となるものとします。

### 3) 職員キャリア・アップ・サポート制度（OJT）

キャリア・アップ・サポートとして、スタッフ・ポートフォリオに掲げる職員としてのビジョン及びゴールの目標設定や目標達成に向けて、上司が部下に対して相談、助言等を行うメンター制度を導入します。これにより、大学等の組織と職員個人の方向性を近づけることが可能となります。さらに、キャリア・アップを目指す職員が他大学への人事交流を希望する場合等のSPOD加盟校間における連絡・調整など、人事交流を円滑に推進するなどのサポートも実施します。

SPOD – SDプログラムは、国内の大学等における本格的な職員養成プログラムとなることを目指しています。このため、四国内における大学等の協働だけでなく、国内の各関係機関や学会等とも連携し、教員と職員が協働して開発することが肝要であると考えます。

## はじめて SPOD 研修プログラムを利用される方へ

### ◇授業を担当して間もない方へのおすすめプログラム

※シラバスの書き方や評価法、様々な授業方法などについて総合的・集中的に学ぶことができます。

プログラム名	開催日時	開催大学	詳細
授業設計ワークショップ	6月28日(土)～29日(日)	徳島大学	p.18
新任教員研修会「よりよい授業のためのFDワークショップ」	9月18日(木)～19日(金)	香川大学	p.22
授業デザインワークショップ(第22回, 第23回)	7月5日(土)～6日(日)	愛媛大学	p.32
	9月1日(月)～3日(水)		
学生の学びを支援する授業準備ワークショップ	9月1日(月)～2日(火)	高知大学	p.40

### ◇授業の基本から学びたい方へのおすすめプログラム

※授業の基本について目的別に短時間で学ぶことができます。

プログラム名	開催日時	開催大学	詳細
大人数講義を魅力的にするテクニック	9月30日(火)	香川大学	p.24
学生の学びを促すシラバスの書き方	12月25日(木)	香川大学	p.25
学習評価の基本	8月19日(火)	愛媛大学	p.33
基礎から学ぶ学習評価法	6月19日(木)	松山大学	p.38
学生の学びを引き出すためのシラバスの書き方	1月21日(水)	高知大学	p.42
講義のための話し方入門	8月22日(金)	愛媛大学	p.49
大人数講義法の基本	9月9日(火) (遠隔配信のみ)	愛媛大学	p.50

### ◇授業に参加型学習を取り入れたい方へのおすすめプログラム

プログラム名	開催日時	開催大学	詳細
学生の参加を促す授業方法	9月29日(月)	香川大学	p.23
効果的なグループワークの進め方	4月3日(木)	愛媛大学	p.30
小グループ・ペア学習を取り入れた授業デザイン～考え方と進め方～	7月22日(火)	愛媛県立医療技術大学	p.37
	7月29日(火)	高知工業高等専門学校	p.44
講義に小グループ・ペア学習を取り入れた授業デザイン～考え方と進め方～	9月3日(水)	高知大学	p.41

### ◇大学職員として基礎的能力を身につけたい方へのおすすめプログラム

プログラム名	開催日時	開催大学	詳細
大学人・社会人としての基礎力養成プログラム研修(レベルI) 【新任職員研修】第1回	5月14日(水)～16日(金)	徳島大学	p.58
大学人・社会人としての基礎力養成プログラム研修(レベルI) 第2回	10月23日(木)～24日(金)	愛媛大学	p.59
学務系職員養成プログラム研修(レベルI)	7月24日(木)～25日(金)	四国大学・ 四国大学短期 大学部	p.63

# 日程別プログラム一覧

日程	プログラム名	開催大学	内容	ページ
<b>4月</b>				
4月3日(木)	学生を眠らせない講義法のコツ<春期FD・SDスキルアップ講座>	愛媛大学	FD/SD	p.47
4月3日(木)	効果的なグループワークの進め方<春期FD・SDスキルアップ講座>	愛媛大学	FD	p.30
4月4日(金)	学生の能力を高める評価法のコツ<春期FD・SDスキルアップ講座>	愛媛大学	FD	p.30
4月4日(金)	会議マネジメント<春期FD・SDスキルアップ講座>	愛媛大学	FD	p.31
4月25日(金)	クラスルームコントロール	徳島工業短期大学	FD	p.20
<b>5月</b>				
5月14日(水)~16日(金)	大学人・社会人としての基礎力養成プログラム研修(レベルI)【新任職員研修】第1回	徳島大学	SD	p.58
5月22日(木)~24日(土)	次世代リーダー養成ゼミナール(第1回)	愛媛大学	SD	p.56
<b>6月</b>				
6月10日(火)	職員が輝くSDの実践事例	高知大学	SD	p.66
6月10日(火)	事例から見た、学生・保護者から信頼される高専教育	新居浜工業高等専門学校	FD	p.39
6月12日(木)~13日(金)	職員のための講師養成講座(第1回)	愛媛大学	SD	p.65
6月19日(木)	基礎から学ぶ学習評価法	松山大学・松山短期大学	FD	p.38
6月26日(木)	若手・中堅職員のための判断力・決断力養成講座	徳島大学	SD	p.63
6月28日(土)~29日(日)	授業設計ワークショップ	徳島大学	FD	p.18
6月上旬	メンタルヘルス研修	愛媛大学	FD/SD	p.47
<b>7月</b>				
7月3日(木)~4日(金)	大学人・社会人としての基礎力養成プログラム研修(レベルIII)	愛媛大学	SD	p.61
7月5日(土)~6日(日)	授業デザインワークショップ(第22回)	愛媛大学	FD	p.32
7月7日(月)	ティーチング・ポートフォリオ更新ワークショップ	愛媛大学	FD	p.33
7月17日(木)~19日(土)	次世代リーダー養成ゼミナール(第2回)	徳島大学	SD	p.56
7月22日(火)	小グループ・ペア学習を取り入れた授業デザイン ~考え方と進め方~	愛媛県立医療技術大学	FD	p.37
7月24日(木)~25日(金)	学務系職員養成プログラム研修(レベルI)	四国大学・四国大学短期大学部	SD	p.63
7月29日(火)	小グループ・ペア学習を取り入れた授業デザイン ~考え方と進め方~	高知工業高等専門学校	FD	p.44
<b>8月</b>				
8月19日(火)	プロジェクトマネジメント<夏期FD・SDスキルアップ講座>	愛媛大学	FD/SD	p.48
8月19日(火)	学習評価の基本<夏期FD・SDスキルアップ講座>	愛媛大学	FD	p.33
8月19日(火)	学生の学ぶ意欲を引き出す授業とは?	香川県立保健医療大学	FD	p.29
8月22日(金)	ルーブリック評価入門~速い・楽な成績評価のスズメ<夏期FD・SDスキルアップ講座>	愛媛大学	FD/SD	p.48
8月22日(金)	講義のための話し方入門<夏期FD・SDスキルアップ講座>	愛媛大学	FD/SD	p.49
8月27日(水)~29日(金)	SPODフォーラム2014	高知大学	FD/SD	p.74
<b>9月</b>				
9月1日(月)	クリッカーで教育・研究が変わる!	香川大学	FD/SD	p.46
9月1日(月)~2日(火)	学生の学びを支援する授業準備ワークショップ	高知大学	FD	p.40
9月1日(月)~3日(水)	授業デザインワークショップ(第23回)	愛媛大学	FD	p.32
9月3日(水)	大学職員のための企画力養成講座	高松大学・高松短期大学	SD	p.64
9月3日(水)	講義に小グループ・ペア学習を取り入れた授業デザイン ~考え方と進め方~<秋期FDセミナー>	高知大学	FD	p.41
9月4日(木)	コミュニケーションで知識を蓄えるTBLチーム基盤型学習法<秋期FDセミナー>	高知大学	FD*	p.41
9月5日(金)	学習者の学習意欲を高める授業設計を行うためのインストラクショナルデザイン(II)入門-ARCS動機づけモデルの活用-<夏期FD・SDスキルアップ講座>	愛媛大学	FD/SD	p.49
9月9日(火)	英語で授業をしたい教員のためのワークショップ<夏期FD・SDスキルアップ講座>	愛媛大学	FD	p.34
9月9日(火)	マインドマップ入門講座	高知学園短期大学	FD/SD	p.54
9月9日(火)	大人数講義法の基本<夏期FD・SDスキルアップ講座>	愛媛大学★	FD/SD	p.50
9月11日(木)	学生の学ぶ意欲を引き出す授業とは?	徳島文理大学・徳島文理大学短期大学部	FD	p.20
9月11日(木)~12日(金)	大学人・社会人としての基礎力養成プログラム研修(共通科目)	愛媛大学	SD	p.62
9月16日(火)	効果的なeラーニング活用方法(超入門編)<夏期FD・SDスキルアップ講座>	愛媛大学	FD	p.34
9月16日(火)	障がい学生支援<夏期FD・SDスキルアップ講座>	愛媛大学	FD/SD	p.50
9月17日(水)~18日(木)	ティーチング・ポートフォリオ作成ワークショップ<西四国対象>	愛媛大学	FD	p.35
9月17日(水)~18日(木)	アカデミック・ポートフォリオ作成ワークショップ	愛媛大学	FD	p.35
9月18日(木)~19日(金)	新任教員研修会「よりよい授業のためのFDワークショップ」	香川大学	FD	p.22

日程	プログラム名	開催大学	内容	ページ
9月18日(木)~19日(金)	職員のための講師養成講座(第2回)	愛媛大学	SD	p.65
9月19日(金)	eラーニング活用(入門編)-Moodleソフトを活用してきめ細やかな学習支援を実現しよう<夏期FD・SDスキルアップ講座>	愛媛大学	FD/SD	p.51
9月24日(水)	教職員のためのPowerPoint -分かりやすい話の組み立て方・資料作成・分かり易い話し方-	高知工科大学	FD/SD	p.53
9月24日(水)	パワーポイント2010基本技・便利技<夏期FD・SDスキルアップ講座>	愛媛大学	FD/SD	p.51
9月25日(木)	ティーチング・ポートフォリオ入門~教育実践のリフレクション~	今治明德短期大学	FD	p.39
9月25日(木)	動画教材作成法<夏期FD・SDスキルアップ講座>	愛媛大学	FD/SD	p.52
9月26日(金)	学生の学び意欲を引き出す授業とは?	愛媛大学	FD	p.37
9月29日(月)	授業へのグループワークの効果的な導入	香川大学	FD	p.23
9月29日(月)	学生の参加を促す授業方法	香川大学	FD	p.23
9月30日(火)	大人数講義を魅力的にするテクニック	香川大学	FD	p.24
9月30日(火)	TA講習	高知大学	プレFD	p.68
9月中旬	学生の自立を促す学生支援のコツ	四国大学・四国大学短期大学部	FD/SD	p.46
9月(予定)	大人数講義を魅力的にするテクニック	高知県立大学・高知短期大学	FD	p.44
<b>10月</b>				
10月23日(木)~24日(金)	大学人・社会人としての基礎力養成プログラム研修(レベルI)第2回	愛媛大学	SD	p.59
10月31日(金)~11月2日(日)	ティーチング・ポートフォリオ作成ワークショップ<高専対象>	愛媛大学	FD	p.36
10月上旬	大学人・社会人としての基礎力養成プログラム研修(レベルII)	愛媛大学	SD	p.60
<b>11月</b>				
11月6日(木)~8日(土)	次世代リーダー養成ゼミナール(第3回)	愛媛大学	SD	p.56
11月下旬(予定)	教えないで成績を上げるTBL(チーム基盤型学習)という授業方法	阿南工業高等専門学校	FD	p.21
<b>12月</b>				
12月25日(木)	基礎から学ぶ学習評価法	香川大学	FD	p.24
12月25日(木)	学生の学びを促すシラバスの書き方	香川大学	FD	p.25
12月中	アクティブラーニング入門	愛媛大学	FD/SD	p.52
12月~1月中	大学教育カンファレンス in 徳島	徳島大学	FD*/SD	p.72
<b>1月</b>				
1月14日(水)	学生の授業時間外学習を促すシラバス作成法	愛媛大学	FD/SD	p.53
1月21日(水)	学生の学びを引き出すためのシラバスの書き方<春期FDセミナー>	高知大学	FD	p.42
1月22日(木)~23日(金)	次世代リーダー養成ゼミナール(第4回)	香川大学	SD	p.56
<b>2月</b>				
2月中	ファシリテーション力養成道場	高知大学	プレFD	p.69
<b>3月</b>				
3月24日(火)	授業効果をもとめるために授業の最初にすべきこと~質問が出る教室づくり~<春期FDセミナー>	高知大学	FD*	p.42
3月25日(水)	初年次科目のためのグループワークの技法<春期FDセミナー>	高知大学	FD	p.43
3月26日(木)	能動的学習支援者必須! グループワークのためのファシリテーション入門<春期FDセミナー>	高知大学	FD*	p.43
3月30日(月)	TA講習	高知大学	プレFD	p.68
3月上旬	「プレゼンテーションの方法」の教え方	香川大学	FD	p.25
3月上旬	「レポートの書き方」の教え方	香川大学	FD	p.26
3月上旬	「日本語技法」の教え方 ①	香川大学	FD	p.26
3月上旬	「日本語技法」の教え方 ②	香川大学	FD	p.27
3月上旬	協同学習の基本(入門編)	香川大学	FD	p.27
3月上旬	「情報整理の方法」の教え方	香川大学	FD	p.28
3月中	ティーチング・ポートフォリオ作成ワークショップ<東四国対象>	徳島大学	FD	p.19
3月中	愛媛大学教育改革シンポジウム	愛媛大学	FD*/SD	p.73
<b>その他・未定</b>				
未定	学生の学びを促すシラバスの書き方	鳴門教育大学	FD	p.19
未定	教えないで成績を上げるTBL(チーム基盤型学習)という授業方法	香川大学	FD	p.28
未定	学生の学びを促すシラバスの書き方	聖カタリナ大学・聖カタリナ大学短期大学部	FD	p.38

内容についての説明	FD …………… 教員対象	SD …………… 職員対象
	FD* …………… 教員対象(学生・院生も参加可能)	プレFD …… 大学院生対象
	FD/SD …… 教職員対象	★ …………… 遠隔配信のみのため愛媛大学内では受講不可

# 開催大学別プログラム一覧

大学名	プログラム名	日程	遠隔配信	プログラムNo.	ページ
徳島大学	授業設計ワークショップ	6月28日(土)~29日(日)		T-001	p.18
	ティーチング・ポートフォリオ作成ワークショップ<東四国対象>	3月中		T-002	p.19
	大学人・社会人としての基礎力養成プログラム研修(レベルI)【新任職員研修】第1回	5月14日(水)~16日(金)		T-003	p.58
	次世代リーダー養成ゼミナール(第2回)	7月17日(木)~19日(土)		T-004	p.56
	大学教育カンファレンス in 徳島	12月~1月中		T-005	p.72
	若手・中堅職員のための判断力・決断力養成講座	6月26日(木)		T-006	p.63
鳴門教育大学	学生の学びを促すシラバスの書き方	未定		T-007	p.19
四国大学・ 四国大学短期大学部	学生の自立を促す学生支援のコツ	9月中旬		T-008	p.46
	学務系職員養成プログラム研修(レベルI)	7月24日(木)~25日(金)		T-009	p.63
徳島文理大学・徳島文理 大学短期大学部	学生の学ぶ意欲を引き出す授業とは？	9月11日(木)		T-010	p.20
徳島工業短期大学	クラスルームコントロール	4月25日(金)		T-011	p.20
阿南工業高等専門学校	教えないで成績を上げるTBL(チーム基盤型学習)という授業方法	11月下旬(予定)		T-012	p.21
香川大学	新任教員研修会「よりよい授業のためのFDワークショップ」	9月18日(木)~19日(金)		K-001	p.22
	授業へのグループワークの効果的な導入	9月29日(月)		K-002	p.23
	学生の参加を促す授業方法	9月29日(月)		K-003	p.23
	大人数講義を魅力的にするテクニック	9月30日(火)		K-004	p.24
	基礎から学ぶ学習評価法	12月25日(木)		K-005	p.24
	学生の学びを促すシラバスの書き方	12月25日(木)		K-006	p.25
	「プレゼンテーションの方法」の教え方	3月上旬		K-007	p.25
	「レポートの書き方」の教え方	3月上旬		K-008	p.26
	「日本語技法」の教え方 ①	3月上旬		K-009	p.26
	「日本語技法」の教え方 ②	3月上旬		K-010	p.27
	協同学習の基本(入門編)	3月上旬		K-011	p.27
	「情報整理の方法」の教え方	3月上旬		K-012	p.28
	教えないで成績を上げるTBL(チーム基盤型学習)という授業方法	未定		K-013	p.28
	クリッカーで教育・研究が変わる！	9月1日(月)		K-014	p.46
	次世代リーダー養成ゼミナール(第4回)	1月22日(木)~23日(金)		K-015	p.56
香川県立保健医療大学	学生の学ぶ意欲を引き出す授業とは？	8月19日(火)		K-016	p.29
高松大学・高松短期大学	大学職員のための企画力養成講座	9月3日(水)		K-017	p.64
愛媛大学	効果的なグループワークの進め方<春期FD・SDスキルアップ講座>	4月3日(木)		I-001	p.30
	学生の能力を高める評価法のコツ<春期FD・SDスキルアップ講座>	4月4日(金)		I-002	p.30
	会議マネジメント<春期FD・SDスキルアップ講座>	4月4日(金)		I-003	p.31
	授業デザインワークショップ(第22回)	7月5日(土)~6日(日)		I-004	p.32
	授業デザインワークショップ(第23回)	9月1日(月)~3日(水)		I-005	p.32
	ティーチング・ポートフォリオ更新ワークショップ	7月7日(月)		I-006	p.33
	学習評価の基本<夏期FD・SDスキルアップ講座>	8月19日(火)		I-007	p.33
	英語で授業をしたい教員のためのワークショップ<夏期FD・SDスキルアップ講座>	9月9日(火)		I-008	p.34
	効果的なeラーニング活用方法(超入門編)<夏期FD・SDスキルアップ講座>	9月16日(火)		I-009	p.34
	ティーチング・ポートフォリオ作成ワークショップ<西四国対象>	9月17日(水)~18日(木)		I-010	p.35
	アカデミック・ポートフォリオ作成ワークショップ	9月17日(水)~18日(木)		I-011	p.35
	学生の学ぶ意欲を引き出す授業とは？	9月26日(金)		I-012	p.37
	ティーチング・ポートフォリオ作成ワークショップ<高専対象>	10月31日(金)~11月2日(日)		I-013	p.36
	学生を眠らせない講義法のコツ<春期FD・SDスキルアップ講座>	4月3日(木)		I-014	p.47

大学名	プログラム名	日程	遠隔配信	プログラムNo.	ページ
愛媛大学	メンタルヘルス研修	6月上旬		I-015	p.47
	プロジェクトマネジメント<夏期FD・SDスキルアップ講座>	8月19日(火)		I-016	p.48
	ルーブリック評価入門ーブレない・速い・楽チン成績評価のススメ<夏期FD・SDスキルアップ講座>	8月22日(金)		I-017	p.48
	講義のための話し方入門<夏期FD・SDスキルアップ講座>	8月22日(金)		I-018	p.49
	学習者の学習効果を高める授業設計を行うためのインストラクショナルデザイン(I D)入門-ARCS 動機づけモデルの活用<夏期FD・SDスキルアップ講座>	9月5日(金)		I-019	p.49
	大人数講義法の基本<夏期FD・SDスキルアップ講座>	9月9日(火)	 遠隔配信のみ	I-020	p.50
	障がい学生支援<夏期FD・SDスキルアップ講座>	9月16日(火)		I-021	p.50
	eラーニング活用(入門編)-Moodleソフトを活用してきめ細やかな学習支援を実現しよう<夏期FD・SDスキルアップ講座>	9月19日(金)		I-022	p.51
	パワーポイント2010基本技・便利技<夏期FD・SDスキルアップ講座>	9月24日(水)		I-023	p.51
	動画教材作成法<夏期FD・SDスキルアップ講座>	9月25日(木)		I-024	p.52
	アクティブラーニング入門	12月中		I-025	p.52
	学生の授業時間外学習を促すシラバス作成法	1月14日(水)		I-026	p.53
	次世代リーダー養成ゼミナール(第1回)	5月22日(木)~24日(土)		I-027	p.56
	職員のための講師養成講座(第1回)	6月12日(木)~13日(金)		I-028	p.65
	大学人・社会人としての基礎力養成プログラム研修(レベルⅢ)	7月3日(木)~4日(金)		I-029	p.61
	大学人・社会人としての基礎力養成プログラム研修(共通科目)	9月11日(木)~12日(金)		I-030	p.62
	職員のための講師養成講座(第2回)	9月18日(木)~19日(金)		I-031	p.65
	大学人・社会人としての基礎力養成プログラム研修(レベルⅡ)	10月上旬		I-032	p.60
	大学人・社会人としての基礎力養成プログラム研修(レベルⅠ)第2回	10月23日(木)~24日(金)		I-033	p.59
	次世代リーダー養成ゼミナール(第3回)	11月6日(木)~8日(土)		I-034	p.56
愛媛大学教育改革シンポジウム	3月中		I-035	p.73	
愛媛県立医療技術大学	小グループ・ペア学習を取り入れた授業デザイン ~考え方と進め方~	7月22日(火)		I-036	p.37
聖カタリナ大学・聖カタリナ大学短期大学部	学生の学びを促すシラバスの書き方	未定		I-037	p.38
松山大学・松山短期大学	基礎から学ぶ学習評価法	6月19日(木)		I-038	p.38
今治明德短期大学	ティーチング・ポートフォリオ入門~教育実践のリフレクション~	9月25日(木)		I-039	p.39
新居浜工業高等専門学校	事例から見た、学生・保護者から信頼される高専教育	6月10日(火)		I-040	p.39
高知大学	学生の学びを支援する授業準備ワークショップ	9月1日(月)~2日(火)		Y-001	p.40
	講義に小グループ・ペア学習を取り入れた授業デザイン~考え方と進め方~<秋期FDセミナー>	9月3日(水)		Y-002	p.41
	コミュニケーションで知識を蓄えるTBLチーム基盤型学習法<秋期FDセミナー>	9月4日(木)		Y-003	p.41
	学生の学びを引き出すためのシラバスの書き方<春期FDセミナー>	1月21日(水)		Y-004	p.42
	授業効果を高めるために授業の最初にすべきこと~質問が出る教室づくり~<春期FDセミナー>	3月24日(火)		Y-005	p.42
	初年次科目のためのグループワークの技法<春期FDセミナー>	3月25日(水)		Y-006	p.43
	能動的学習支援者必須! グループワークのためのファシリテーション入門<春期FDセミナー>	3月26日(木)		Y-007	p.43
	TA講習	9月30日(火)		Y-008	p.68
	ファシリテーション力養成道場	2月中		Y-009	p.69
	TA講習	3月30日(月)		Y-010	p.68
	職員が輝くSDの実践事例	6月10日(火)		Y-011	p.66
	SPODフォーラム2014	8月27日(水)~29日(金)			p.74
高知県立大学・高知短期大学	大人数講義を魅力的にするテクニック	9月(予定)		Y-012	p.44
高知工科大学	教職員のためのPowerPoint -分かりやすい話の組み立て方・資料作成・分かり易い話し方-	9月24日(水)		Y-013	p.53
高知学園短期大学	マインドマップ入門講座	9月9日(火)		Y-014	p.54
高知工業高等専門学校	小グループ・ペア学習を取り入れた授業デザイン ~考え方と進め方~	7月29日(火)		Y-015	p.44

# テーマ別プログラム一覧

プログラム名 (FDプログラム)	レベル・フェーズ			開催場所	ページ
	マイクロ	ミドル	マクロ		
<b>授 業 の 基 本</b>					
授業設計ワークショップ	I II			徳島大学	p.18
学生の学びを促すシラバスの書き方	I II			鳴門教育大学	p.19
学生の学ぶ意欲を引き出す授業とは？	I II			徳島文理大学・徳島文理大学短期大学部	p.20
クラスルームコントロール	I II			徳島工業短期大学	p.20
教えないで成績を上げるTBL(チーム基盤型学習)という授業方法	I II			阿南工業高等専門学校	p.21
新任教員研修会「よりよい授業のためのFDワークショップ」	I II			香川大学	p.22
大人数講義を魅力的にするテクニック	I II			香川大学	p.24
基礎から学ぶ学習評価法	I II			香川大学	p.24
学生の学びを促すシラバスの書き方	I II			香川大学	p.25
「プレゼンテーションの方法」の教え方	I II			香川大学	p.25
「レポートの書き方」の教え方	I II			香川大学	p.26
「日本語技法」の教え方 ①	I II			香川大学	p.26
「日本語技法」の教え方 ②	I II			香川大学	p.27
「情報整理の方法」の教え方	I II			香川大学	p.28
教えないで成績を上げるTBL(チーム基盤型学習)という授業方法	I II			香川大学	p.28
学生の学ぶ意欲を引き出す授業とは？	I II			香川県立保健医療大学	p.29
学生の能力を高める評価法のコツ<春期FD・SDスキルアップ講座>	I II			愛媛大学	p.30
授業デザインワークショップ(第22回)	I II			愛媛大学	p.32
授業デザインワークショップ(第23回)	I II			愛媛大学	p.32
学習評価の基本<夏期FD・SDスキルアップ講座>	I II			愛媛大学	p.33
学生の学ぶ意欲を引き出す授業とは？	I II			愛媛大学	p.37
学生の学びを促すシラバスの書き方	I II			聖カタリナ大学・聖カタリナ大学短期大学部	p.38
基礎から学ぶ学習評価法	I II			松山大学・松山短期大学	p.38
学生の学びを支援する授業準備ワークショップ	I II			高知大学	p.40
学生の学びを引き出すためのシラバスの書き方<春期FDセミナー>	I II			高知大学	p.42
授業効果を高めるために授業の最初にすべきこと～質問が出る教室づくり～<春期FDセミナー>	I II			高知大学	p.42
大人数講義を魅力的にするテクニック	I II			高知県立大学・高知短期大学	p.44
学生を眠らせない講義法のコツ<春期FD・SDスキルアップ講座>	I II			愛媛大学	p.47
ルーブリック評価入門ーブレない・速い・楽チン成績評価のスズメー<夏期FD・SDスキルアップ講座>	I II			愛媛大学	p.48
講義のための話し方入門<夏期FD・SDスキルアップ講座>	I II			愛媛大学	p.49
学習者の学習意欲を高める授業設計を行うためのインストラクショナルデザイン(ID)入門ーARCS 動機づけモデルの活用ー<夏期FD・SDスキルアップ講座>	I II			愛媛大学	p.49
大人数講義法の基本<夏期FD・SDスキルアップ講座>	I II			愛媛大学	p.50
学生の授業時間外学習を促すシラバス作成法	I II			愛媛大学	p.53
教職員のためのPowerPoint 一分かりやすい話の組み立て方・資料作成・分かり易い話し方ー	I II			高知工科大学	p.53
<b>参 加 型 学 習</b>					
授業へのグループワークの効果的な導入	I II			香川大学	p.23
学生の参加を促す授業方法	I II			香川大学	p.23
協同学習の基本(入門編)	I II			香川大学	p.27
効果的なグループワークの進め方<春期FD・SDスキルアップ講座>	I II			愛媛大学	p.30
小グループ・ペア学習を取り入れた授業デザイン ～考え方と進め方～	I II			愛媛県立医療技術大学	p.37
講義に小グループ・ペア学習を取り入れた授業デザイン ～考え方と進め方～<秋期FDセミナー>	I II			高知大学	p.41
コミュニケーションで知識を蓄えるTBLチーム基盤型学習法<秋期FDセミナー>	II			高知大学	p.41
初年次科目のためのグループワークの技法<春期FDセミナー>	I II			高知大学	p.43
能動的学習支援者必須！グループワークのためのファシリテーション入門<春期FDセミナー>	I II			高知大学	p.43
小グループ・ペア学習を取り入れた授業デザイン ～考え方と進め方～	I II			高知工業高等専門学校	p.44
アクティブラーニング入門	I II			愛媛大学	p.52
<b>I C T</b>					
効果的なeラーニング活用方法(超入門編)<夏期FD・SDスキルアップ講座>	I II			愛媛大学	p.34
クリッカーで教育・研究が変わる！	I II			香川大学	p.46
eラーニング活用(入門編)ーMoodleソフトを活用してきめ細やかな学習支援を実現しようー<夏期FD・SDスキルアップ講座>	I II			愛媛大学	p.51

プログラム名 (FDプログラム)	レベル・フェーズ			開催場所	ページ
	マイクロ	ミドル	マクロ		
パワーポイント2010基本技・便利技<夏期FD・SDスキルアップ講座>	I II			愛媛大学	p.51
動画教材作成法<夏期FD・SDスキルアップ講座>	I II			愛媛大学	p.52
<b>多様な学生への支援</b>					
英語で授業をしたい教員のためのワークショップ<夏期FD・SDスキルアップ講座>	I II			愛媛大学	p.34
学生の自立を促す学生支援のコツ	I II	I II		四国大学・四国大学短期大学部	p.46
障がい学生支援<夏期FD・SDスキルアップ講座>	I II	I II		愛媛大学	p.50
<b>高専プログラム</b>					
事例から見た、学生・保護者から信頼される高専教育	I II	I II		新居浜工業高等専門学校	p.39
<b>総合プログラム</b>					
大学教育カンファレンス in 徳島	I II III IV	I II III IV	I II	徳島大学	p.72
愛媛大学教育改革シンポジウム	I II III IV	I II III IV	I II	愛媛大学	p.73
SPODフォーラム2014	I II III IV	I II III IV	I II	高知大学	p.74
<b>プレFD</b>					
TA講習	I			高知大学	p.68
TA講習	I			高知大学	p.68
ファシリテーション力養成道場	I II			高知大学	p.69
<b>ポートフォリオ</b>					
ティーチング・ポートフォリオ作成ワークショップ<東四国対象>	II III			徳島大学	p.19
ティーチング・ポートフォリオ更新ワークショップ	III IV			愛媛大学	p.33
ティーチング・ポートフォリオ作成ワークショップ<西四国対象>	II III			愛媛大学	p.35
アカデミック・ポートフォリオ作成ワークショップ	II III			愛媛大学	p.35
ティーチング・ポートフォリオ作成ワークショップ<高専対象>	II III			愛媛大学	p.36
ティーチング・ポートフォリオ入門～教育実践のリフレクション～	I			今治明德短期大学	p.39
<b>マネジメント</b>					
会議マネジメント<春期FD・SDスキルアップ講座>	I II			愛媛大学	p.31
プロジェクトマネジメント<夏期FD・SDスキルアップ講座>	I II			愛媛大学	p.48
<b>学習スキル</b>					
マインドマップ入門講座	I II			高知学園短期大学	p.54
<b>職場における多様性と健康</b>					
メンタルヘルス研修	I II			愛媛大学	p.47

プログラム名 (SDプログラム)	開催場所	ページ
<b>ビジネススキル</b>		
大学人・社会人としての基礎力養成プログラム研修(レベルI)【新任職員研修】第1回	徳島大学	p.58
若手・中堅職員のための判断力・決断力養成講座	徳島大学	p.63
学務系職員養成プログラム研修(レベルI)	四国大学・四国大学短期大学部	p.63
大学職員のための企画力養成講座	高松大学・高松短期大学	p.64
大学人・社会人としての基礎力養成プログラム研修(レベルI)第2回	愛媛大学	p.59
大学人・社会人としての基礎力養成プログラム研修(レベルII)	愛媛大学	p.60
大学人・社会人としての基礎力養成プログラム研修(レベルIII)	愛媛大学	p.61
大学人・社会人としての基礎力養成プログラム研修(共通科目)	愛媛大学	p.62
<b>リーダーシップ・組織開発</b>		
次世代リーダー養成ゼミナール(第1回)	愛媛大学	p.56
次世代リーダー養成ゼミナール(第2回)	徳島大学	p.56
次世代リーダー養成ゼミナール(第3回)	愛媛大学	p.56
次世代リーダー養成ゼミナール(第4回)	香川大学	p.56
職員のための講師養成講座(第1回)	愛媛大学	p.65
職員のための講師養成講座(第2回)	愛媛大学	p.65
職員が輝くSDの実践事例	高知大学	p.66

# SPOD加盟校内講師派遣プログラム一覧

大学等名	プログラム名	対象校	区分	ページ
<b>徳島</b>				
徳島大学	若手・中堅職員のための判断力・決断力養成講座	SPOD全加盟校	SD	p.63
鳴門教育大学	学生の学びを促すシラバスの書き方	SPOD全加盟校	FD	p.19
四国大学・四国大学短期大学部	学生の自立を促す学生支援の実践とコツ	SPOD全加盟校	FD/SD	p.46
徳島文理大学・徳島文理大学短期大学部	学生の学ぶ意欲を引き出す授業とは？	SPOD加盟校 (徳島・香川県内)	FD	p.20
徳島工業短期大学	クラスルームコントロール	SPOD全加盟校	FD	p.20
阿南工業高等専門学校	教えないで成績を上げるTBL(チーム基盤型学習)という授業方法	SPOD加盟校 (高専のみ)	FD	p.21
<b>香川</b>				
香川大学	教えないで成績を上げるTBL(チーム基盤型学習)という授業方法	SPOD全加盟校	FD	p.28
香川県立保健医療大学	学生の学ぶ意欲を引き出す授業とは？	SPOD全加盟校	FD	p.29
高松大学・高松短期大学	大学職員のための企画力養成講座	SPOD全加盟校	SD	p.64
香川高等専門学校	事例から見た、学生・保護者から信頼される高専教育	学内向け	FD	
<b>愛媛</b>				
愛媛大学	学生の学ぶ意欲を引き出す授業とは？	SPOD全加盟校	FD	p.37
愛媛県立医療技術大学	小グループ・ペア学習を取り入れた授業デザイン～考え方と進め方～	SPOD全加盟校	FD	p.37
聖カタリナ大学・聖カタリナ大学短期大学部	学生の学びを促すシラバスの書き方	SPOD全加盟校	FD	p.38
松山大学・松山短期大学	基礎から学ぶ学習評価法	SPOD全加盟校	FD	p.38
今治明德短期大学	ティーチング・ポートフォリオ入門～教育実践のリフレクション～	SPOD全加盟校	FD	p.39
環太平洋大学短期大学部	学生の学ぶ意欲を引き出す授業とは？	学内向け	FD	
新居浜工業高等専門学校	事例から見た、学生・保護者から信頼される高専教育	SPOD加盟校 (高専のみ)	FD	p.39
弓削商船高等専門学校	担任教員に求められること～担任スキル開発ワーク～	学内向け	FD	
<b>高知</b>				
高知大学	職員が輝くSDの実践事例	SPOD全加盟校	SD	p.66
高知県立大学・高知短期大学	大人数講義を魅力的にするテクニック	SPOD全加盟校	FD	p.44
高知工科大学	教職員のためのPowerPoint 一分かりやすい話の組み立て方・資料作成・分かり易い話し方	SPOD全加盟校	FD/SD	p.53
高知学園短期大学	マインドマップ入門講座	SPOD全加盟校	FD/SD	p.54
高知工業高等専門学校	小グループ・ペア学習を取り入れた授業デザイン～考え方と進め方～	SPOD全加盟校	FD	p.44

[本件に関するお問い合わせ先]

SPOD事務局(愛媛大学教育企画課)

TEL: 089-927-9154 E-mail: spod@stu.ehime-u.ac.jp



# FDプログラム

(教員対象)

プログラム番号 T-001

New!!

## 授業設計ワークショップ

FD

## \*主な対象

新任教員

## \*対象校

SPOD全加盟校

## \*目標

1. FD活動の理念、活動計画を理解することができる
2. 授業を計画し、実施し、評価する方法を体得することができる
3. 授業研究の仕方を理解し、実践することができる
4. FD参加者同士の仲間づくりができる

## \*講師

川野卓二、宮田政徳、吉田博、上岡麻衣子 他（徳島大学 総合教育センター）

## \*日時

6月28日(土)～29日(日)

## \*場所

徳島大学 大学開放実践センター  
2階（6号館 201）

## \*受講定員

30名

## \*主催

徳島大学 FD委員会

## \*その他

要問い合わせ

## \*申込先・問合せ

徳島大学 総合教育センター  
TEL 088-656-9865  
E-mail : t-spod@cue.  
tokushima-u.ac.jp

## \*内容\*

## 1日目

1. オリエンテーション  
研修のねらいと意義  
進め方とスタッフ紹介
2. アイスブレイク  
参加者自己紹介・交流
3. 講義&ワーク さまざまな授業方法  
学生の主体的な学習を促進する授業方法
4. 講義Ⅰ よりよい授業実施のために  
授業設計と評価  
シラバス・授業計画書の作成方法  
模擬授業の計画と準備
5. ワークⅠ 模擬授業・授業検討会  
グループごとに分かれて実施



## 2日目

6. 模擬授業実施（全体共有）  
グループ代表による模擬授業
7. プログラムのまとめ  
活動のふりかえり  
修了証授与  
アンケート



(備考)

※二日間続けての参加が必須です。  
一日だけの参加はできません。

## ▶参考資料

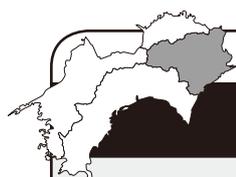
徳島大学FD推進ハンドブック（第1巻～第4巻）

## ▶受講者の声（2013年度 アンケートから得られた意見）

- ・シラバスの作り方など、これまであまり教わる機会がなかったことを、事前準備の段階で詳しい資料によって学ぶことができよかったです。他の参加者の模擬授業も参考になった。
- ・授業する自分を客観的に見る機会ができ、建設的な意見をもらう事ができた。
- ・自分の授業を他の先生方に見て頂き、コメントをもらえたところは良かった。また、他の先生の授業を見て、自分の授業に取り入れられるところなど、学ぶべき所が多かった。
- ・同じ大学の教員でも領域がちがうと交流がないので、色々な科目、色々な先生がおられることが分かり、視野が広がったと思います。自分の領域を知ってもらい良い機会にもなりました。

## ▶準備物等

事前に普通の授業（あるいは今後担当予定、担当したい授業）のシラバス、ある日の授業計画（講義1回分）の準備が必要になります。また、初日に模擬授業を行いますので、ご自身が選ばれた担当授業の中からワンシーンを選び、スライド等をご準備頂くことになります。



プログラム番号 T-002

## ティーチング・ポートフォリオ作成ワークショップ (東四国対象)

FD

## \*主な対象

東四国加盟校教員

## \*対象校

SPOD加盟校  
(東四国：徳島県、香川県)

## \*目標

右記参照

## \*講師

川野卓二、宮田政徳、吉田博 (総合教育センター)

## \*日時

3月中(2日間または3日間)

## \*場所

徳島大学 大学開放実践センター  
2階(6号館 201)

## \*受講定員

10名

## \*主催

徳島大学 FD委員会

## \*メ切

要問い合わせ

## \*申込先・問合せ先

徳島大学 総合教育センター  
E-mail: t-spod@cue.  
tokushima-u.ac.jp

## \*目標\*

- ティーチング・ポートフォリオとは何かを理解する。
- ティーチング・ポートフォリオの必要性・有効性について知る。
- ティーチング・ポートフォリオ作成の要点と手順を理解する。
- ティーチング・ポートフォリオを作成する。

## ▶参考資料

TP完成サンプル

## \*内容\*

2日間または3日間を通しての参加となります。  
メンターによるメンタリングを行いながら作成します。

## &lt;1日目&gt;

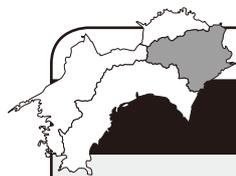
1. オリエンテーション
2. 昼食会
3. 意見交換
4. メンタリング
5. TP作成作業

## &lt;2日目&gt;

1. TP作成作業
2. メンタリング
3. 昼食会・意見交換
4. TP作成作業  
(夜) 情報交換会 (任意)

## &lt;3日目&gt;

1. TP作成作業
2. メンタリング
3. 昼食会・意見交換
4. TP作成作業
5. TP披露・修了式



プログラム番号 T-007

## 学生の学びを促すシラバスの書き方

FD

## \*主な対象

全教員

## \*対象校

SPOD全加盟校

## \*目標

右記参照

## \*講師

宮田政徳 (徳島大学総合教育センター・教育改革推進部門)

## \*日時

未定

## \*場所

鳴門教育大学講義棟

## \*受講定員

200名

## \*主催

鳴門教育大学 学部・大学院ファカルティ・ディベロップメント委員会

## \*メ切

要問い合わせ

## \*申込先・問合せ先

鳴門教育大学  
教務企画課学部教務係  
E-mail: gakubu@  
naruto-u.ac.jp

## \*目標\*

- この研修では、次の三つの目標を達成することを目指しています。
1. シラバスとはどのようなものなのかが分かる。
  2. シラバスの書き方のポイントが分かる。
  3. グラフィック・シラバスの概念が分かる。

## \*内容\*

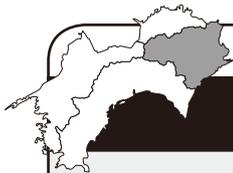
この研修は、より良いシラバスを作るために、シラバスに関する講演と参加者間の話し合いやワークを交えながら進めていきます。まずシラバス理解のため、最近の高等教育の現状についてそのトレンドを概観します。その後、参加者の皆さんにシラバスは何のために書くのかを話し合ってもらいながら、シラバスとはどのようなものなのかについて講演を行います。その後、参加者自身のシラバスが重要なポイントを押さえて書かれているかを、シラバス・チェックリストに従って、参加者同士でチェックします。最後にシラバスの限界を超えたグラフィック・シラバスの概念を導入して紹介し、参加者にグラフィック・シラバスを書いてもらい、それを発表して頂きます。

## ▶参考資料

『成長するティップス先生』(池田輝政他, 玉川大学出版会, 2001)

## ▶準備物

参加者が担当する授業のシラバス



プログラム番号 T-010

## 学生の学ぶ意欲を引き出す授業とは？

## \*主な対象

教員

## \*対象校

SPOD加盟校（徳島・香川県内）

## \*目標

右記参照

## \*講師

岩中貴裕（香川大学 大学教育開発センター）

## \*日時

9月11日(木)13:00~15:00

## \*場所

徳島文理大学徳島キャンパス  
徳島文理大学香川キャンパス（遠隔配信）

## \*受講定員

両キャンパスでそれぞれ40名  
（4人組×10グループ）  
（香川キャンパスへは遠隔配信）

## \*主催

徳島文理大学FD研究部会

## \*メー

要問い合わせ

## \*申込先・問合せ

徳島文理大学教育・研究支援グループ  
E-mail: kyoken@tokushima.bunri-u.ac.jp

## \*目標\*

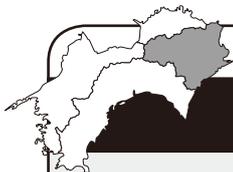
- (1) 学生の学ぶ意欲を高めるための理論的な枠組みを説明できる。
- (2) 学生の学ぶ意欲を引き出す授業計画を立てることができる。
- (3) 授業内の活動を通じて学生の学ぶ意欲を引き出し保持することができる。

## \*内容\*

学ぶ意欲は、学生の授業態度、授業外での自主学習の質や量、最終的に学習成果を決定する要因です。授業を通して学生のやる気を引き出すことは私たちの大切な役割です。DVD教材を使用する、グループ活動を行わせる、ゲーム的要素を盛り込む等、学生のやる気を引き出す方法は様々ですが、その場しのぎの活動になってしまうと学習成果は期待できません。学生のやる気を引き出し、そのやる気を保持するための理論的な枠組みを理解した上で、どのような授業活動を行うのかを考えていく必要があります。本プログラムを通して、参加者の皆さんに学生のやる気を引き出すための理論的な枠組みを理解していただき、授業に役立つ具体的なアイデアを互いに共有しましょう。

## ▶準備物

皆さんは、授業を魅力的で分かりやすいものにするためにどのような工夫をしていますか。具体的に挙げられるように準備した上で講座に参加してください。



プログラム番号 T-011

## クラスルームコントロール

## \*主な対象

教員

## \*対象校

SPOD全加盟校

## \*目標

右記参照

## \*講師

秦 敬治（愛媛大学教育企画室）

## \*日時

4月25日(金)14:00~15:30

## \*場所

徳島工業短期大学213教室

## \*受講定員

30名

## \*主催

徳島工業短期大学

## \*メー

要問い合わせ

## \*申込先・問合せ

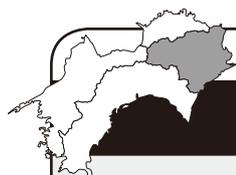
徳島工業短期大学 庶務課  
E-mail: y.yamawaki@  
tokuco.ac.jp

## \*目標\*

- ① 学生を授業に集中させることができる
- ② 学生のモチベーションを保つことができる
- ③ 学生とうまくコミュニケーションを取ることができる

## \*内容\*

「居眠りをさせないためのコツ」「私語をさせないためのコツ」といった、学生を授業にうまく引き込み、学生のモチベーションを最初から最後まで高く維持するための手法について学びます。とくに、授業の準備段階から、授業開始時、途中、終了時において、段階的に効果的な「しかけ」を活用することで、学生が集中して授業に取り組むようになる手法について、講師の実践例を紹介しながら学びます。



プログラム番号 T-012

## 教えないで成績を上げる TBL (チーム基盤型学習) という授業方法

FD

<b>*主な対象*</b> 全教員	<b>*目標*</b> TBLの流れが説明できる。
<b>*対象校*</b> SPOD加盟校 (高専のみ)	TBLの効果として期待できることが説明できる。 TBLのための良い問の3つの条件が説明できる。
<b>*目標*</b> 右記参照	
<b>*講師*</b> 立川明 (高知大学総合教育センター)	<b>*内容*</b>
<b>*日時*</b> 11月下旬(予定)	・なぜTBLが有効か? (レクチャー) Learning in Teaching (LiT) しよう
<b>*場所*</b> 阿南工業高等専門学校創造テクノ センター4階マルチメディア室	・TBLを体験してみよう! グループを作ろう! アイスブレイキングしよう! 個別準備確認試験~グループ準備確認試験~アピール 応用課題
<b>*受講定員*</b> 約70名	・良い問の条件 個人の責任を果たす World Cafe
<b>*主催*</b> 阿南工業高等専門学校点検・評 価委員会, SPOD	
<b>*メモ*</b> 要問い合わせ	
<b>*申込先・問合せ*</b> 阿南工業高等専門学校 総務課 E-mail : s-hosasoumu@ anan-nct.ac.jp	

プログラム番号 K-001

# 新任教員研修会「よりよい授業のためのFDワークショップ」

FD

## \*主な対象

新規採用された教員（大学での授業担当経験3年以上を除く）参加を希望する教員

## \*対象校

SPOD全加盟校

## \*目標

授業の構想・設計・実施・評価に関わる一連のプロセスをグループワーク形式で体験し、授業実施のために必要な能力を身につける

## \*講師

香川大学大学教育開発センター教員

## \*日時

9月18日(木)～19日(金)

## \*場所

休暇村讃岐五色台（香川県坂出市）

## \*受講定員

30名

## \*主催

香川大学大学教育開発センター

## \*メ切

8月27日(水)まで、先着順

## \*申込先・問合せ

香川大学教育・学生支援室修学支援グループ  
E-mail : gakusenm4@jim.  
ao.kagawa-u.ac.jp

## \*内容\*

### 1日目

1. オリエンテーション
2. アイスブレイク
3. グループワークⅠ「学生の考える良い授業と悪い授業」
4. 講義Ⅰ「シラバスの書き方」  
目標設定の仕方  
授業計画の立て方
5. グループワークⅡ「全学共通科目の開発Ⅰ」  
目標設定  
授業計画  
シラバス作成
6. 講義Ⅱ「様々な授業方法」  
講義形式のメリット・デメリット  
双方向型授業のコツ  
マイクロティーチング
7. 講義Ⅲ「よりよい成績評価の仕方」  
成績評価の目的  
評価の方法と評価対象
8. グループワークⅢ「全学共通科目の開発Ⅱ」  
授業計画と評価計画
9. グループ発表Ⅰ「中間発表」
10. グループワークⅣ「全学共通科目の開発Ⅲ」  
授業計画案作成



### 2日目

11. グループワークⅤ「全学共通科目の開発Ⅳ」  
役割決定  
授業の練習
12. グループ発表Ⅱ「ミニ授業」



(※宿泊研修です。1日だけの参加はできません。)

## ▶参考資料

『愛媛大学FDハンドブック もっと!! 授業を良くする』第1巻改訂第2版  
『愛媛大学FDハンドブック もっと!! 授業を良くする』第2巻改訂第2版

## ▶受講者の声

○大学において授業をすることの難しさとともに、面白さを感じられる2日間でした。私が学んだことは、大きく2点です。

1つめは、シラバスについてです。目的や目標を設定して、どのような名内容を、どのような方法で学びを深めていくかを考える作業が、まさにシラバスを作成することなのだと感じました。これまで、テキストの目次等を参考に、いわゆる「こなす仕事」として作成していたことを反省しました。後期の授業からは、シラバスをもう一度見直して、見直しをもった授業づくり、授業実践を進めたいと思っています。

2つ目は、グループワークの進め方です。これまで、安易に「さあ、グループで話し合いなさい」と言っていたけれど、目的を定めておくべきことをきちんと指示しないといけないと感じました。いろいろな方法を体験できたので、授業場面で活用してみたいと思っています。

○これまではシラバス作成や15回の授業の組み立てを自己流でおこなっていたが、本ワークショップで授業組み立て方法やシラバス作成方法のポイントを学ぶことができた。また、グループワークを適宜実施することで、授業構築の訓練になった。ここでは、様々なバックグラウンドをもった教員と話し合うことで、様々な視点を補うことができた。今後の教育実践では、早速、来年度のシラバス作成に適用してみたい。また、演習等でグループディスカッションの方法を取り入れられないか検討したい。

プログラム番号 K-002

## 授業へのグループワークの効果的な導入

FD

## \*主な対象

教員

## \*対象校

SPOD全加盟校

## \*目標

右記参照

## \*講師

清國祐二 (香川大学・生涯学習  
教育研究センター)

## \*日時

9月29日(月) 13:00~14:30

## \*場所

生涯学習教育研究センター第1  
講義室 (研究交流棟6階)

## \*受講定員

30名

## \*主催

香川大学大学教育開発センター

## \*メ切

開講日2週間前, 先着順

## \*申込先・問合せ先

香川大学教育・学生支援室修学支援グループ  
E-mail : gakusenm4@jim.  
ao.kagawa-u.ac.jp

## \*目標\*

- ・ 授業の目的にあったグループワークの手法が選べる。
- ・ 汎用性の高いグループワークの手法が理解できる。
- ・ ファシリテーションの基本が理解できる。
- ・ 授業にフィットするアイスブレイキングの手法が習得できる。

## \*内容\*

1. グループワークに適した授業とは？
2. グループワークで何ができる？
3. グループワークの基本とは？
4. 学生のコミュニケーション能力が高まる？
5. 汎用性の高いグループワークとその効果は？
6. 教員に求められるファシリテーション能力とは？
7. アイスブレイキングの基本とは？
8. 橋渡しとしてのアイスブレイキング
9. 授業設計とグループワーク

プログラム番号 K-003

## 学生の参加を促す授業方法

FD

## \*主な対象

教員

## \*対象校

SPOD全加盟校

## \*目標

右記参照

## \*講師

藤本佳奈 (香川大学・キャリア  
支援センター)

## \*日時

9月29日(月) 14:40~16:10

## \*場所

生涯学習教育研究センター第1  
講義室 (研究交流棟6階)

## \*受講定員

30名

## \*主催

香川大学大学教育開発センター

## \*メ切

開講日2週間前, 先着順

## \*申込先・問合せ先

香川大学教育・学生支援室修学支援グループ  
E-mail : gakusenm4@jim.  
ao.kagawa-u.ac.jp

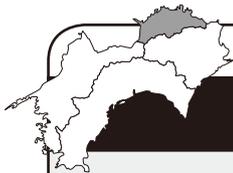
## \*目標\*

1. 学生の授業への参加を促す様々なツールや方法を理解し, 説明することができる。
2. 授業の目的・目標にあったツールや方法を選択し, 授業に導入することができる。

## \*内容\*

はじめに

1. 学生の「参加」とは
  2. 学生の「参加」の形
  3. 質問や発言を促すツール
  4. グループワークのコツ
  5. 学生の参加を促す授業方法アラカルト
- まとめ



プログラム番号 K-004

## 大人数講義を魅力的にするテクニック

FD

### \*主な対象\*

教員

### \*対象校\*

SPOD全加盟校

### \*目標\*

右記参照

### \*講師\*

葛城浩一 (香川大学・大学教育開発センター)

### \*日時\*

9月30日(火)13:00~14:30

### \*場所\*

生涯学習教育研究センター第1講義室 (研究交流棟6階)

### \*受講定員\*

50名

### \*主催\*

香川大学大学教育開発センター

### \*メ切\*

開講日2週間前, 先着順

### \*申込先・問合せ\*

香川大学教育・学生支援室修学支援グループ  
E-mail : gakusenm4@jim.  
ao.kagawa-u.ac.jp

### \*目標\*

自分の授業で応用可能なコツをひとつ以上持ち帰る。

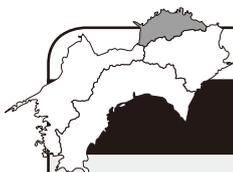
### \*内容\*

1. 大規模クラスの特異性
2. 構成をしっかり考える
3. 明確に話す
4. 匿名空間にしない
5. ペア/グループ・ワークを挿入する
6. 発問で刺激を
7. 資料配布・回収やテストを効率的に行う
8. 学習を阻害する行為を管理する
9. まとめ



### ▶受講者の声

- ・具体的な方法やコツを実際に体験も含めて知ることができました。
- ・発問のテクニック (オープン or クローズド・クエスチョン, 全体, 指名) うまく使ってみたいと思います。
- ・発問のスキルが学べた。
- ・学生に対する質問の方法を知ることができた。



プログラム番号 K-005

## 基礎から学ぶ学習評価法

FD

### \*主な対象\*

教員

### \*対象校\*

SPOD全加盟校

### \*目標\*

右記参照

### \*講師\*

佐藤慶太 (香川大学・大学教育開発センター)

### \*日時\*

12月25日(木)13:00~14:30

### \*場所\*

422講義室  
(幸町北キャンパス4号館2階)

### \*受講定員\*

50名

### \*主催\*

香川大学大学教育開発センター

### \*メ切\*

開講日2週間前, 先着順

### \*申込先・問合せ\*

香川大学教育・学生支援室修学支援グループ  
E-mail : gakusenm4@jim.  
ao.kagawa-u.ac.jp

### \*目標\*

1. 学習評価の意義と原則について説明することができる。
2. 多様な学習評価方法を知り, 自らの授業で活用できる。
3. 成績評価において注意すべき点を説明することができる。

### \*内容\*

1. **成績評価の意義・目的**  
どうして成績評価をするのか〔グループワーク1〕
2. **成績評価の原則**  
いつ, なにを, どのように評価するのか  
総括的評価と形成的評価
3. **さまざまな評価方法**  
学習目的に応じた評価方法〔グループワーク2〕  
よい成績評価の条件  
成績評価のための工夫  
ルーブリックを作ってみよう〔グループワーク3〕
4. **評価の際の注意点**  
成績点と合否判定  
GPA制度について  
不正行為防止のために

### ▶受講者の声

- ・ルーブリックなど知ってはいたが, 自分のレポート評価に具体的につながる観点がもてた。
- ・評価方法や基準について作業したり, 他の先生の考えを聞くことができた。

プログラム番号 K-006

## 学生の学びを促すシラバスの書き方

FD

## \*主な対象

教員

## \*対象校

SPOD全加盟校

## \*目標

右記参照

## \*講師

葛城浩一 (香川大学・大学教育開発センター)

## \*日時

12月25日(木) 14:40~16:10

## \*場所

生涯学習教育研究センター第1講義室 (研究交流棟6階)

## \*受講定員

50名

## \*主催

香川大学大学教育開発センター

## \*メ切

開講日2週間前, 先着順

## \*申込先・問合せ先

香川大学教育・学生支援室修学支援グループ  
E-mail : gakusenm4@jim.  
ao.kagawa-u.ac.jp

## \*目標\*

- ・シラバスの定義を説明することができる。
- ・適切な目的を書くことができる。
- ・適切な目標を書くことができる。
- ・効果的な学習を促すスケジュールをデザインできる。
- ・適切な評価方法を書くことができる。

## \*内容\*

1. シラバスとは何か
2. シラバスの項目例
3. 授業科目名の書き方
4. 目的の書き方
5. 目標の書き方
6. 評価に関わる情報の書き方
7. 授業計画の書き方
8. 教材に関わる情報の書き方
9. オフィスアワーの書き方
10. 受講のルールの書き方

## ▶準備物

ご自分の授業のシラバスをご持参ください。

プログラム番号 K-007

## 「プレゼンテーションの方法」の教え方

FD

## \*主な対象

教員

## \*対象校

SPOD全加盟校

## \*目標

右記参照

## \*講師

葛城浩一 (香川大学・大学教育開発センター)

## \*日時

3月上旬

## \*場所

422講義室  
(幸町北キャンパス4号館2階)

## \*受講定員

50名

## \*主催

香川大学大学教育開発センター

## \*メ切

開講日2週間前, 先着順

## \*申込先・問合せ先

香川大学教育・学生支援室修学支援グループ  
E-mail : gakusenm4@jim.  
ao.kagawa-u.ac.jp

## \*目標\*

1. プレゼンテーションの方法について学ぶ必要性を述べることができる。
2. わかりやすいプレゼンテーションにする方法を説明することができる。
3. わかりやすいプレゼンテーションを行うことができる。

## \*内容\*

1. はじめに
2. プレゼンテーションって何?
3. わかりやすいコンテンツ (内容)
4. わかりやすくするテクニック (技法)
5. わかりやすくするツール (道具)
6. プレゼンテーションの流れ
7. 聴き手の作法
8. もう一度発表してみよう!
9. まとめ

## ▶参考資料

香川大学大学教育開発センター編『大学入門ゼミハンドブック』  
(参加者には配布いたします。)

## ▶受講者の声

- ・プレゼンで重要なポイントと教え方を学ぶことが出来ました。
- ・実際に活用できるようなワークの内容が紹介されておりよかった。
- ・具体的な方法がよくわかった。
- ・実際に発表の準備をしてみても、授業のイメージを明確にもつことができた。
- ・プレゼンの姿勢、視線が必要なことが確認できた。(実際はむずかしいけれど)

プログラム番号 K-008

## 「レポートの書き方」の教え方

FD

## \*主な対象

教員

## \*対象校

SPOD全加盟校

## \*目標

右記参照

## \*講師

藤本佳奈 (香川大学・キャリア支援センター)

## \*日時

3月上旬

## \*場所

422講義室  
(幸町北キャンパス4号館2階)

## \*受講定員

50名

## \*主催

香川大学大学教育開発センター

## \*メ切

開講日2週間前, 先着順

## \*申込先・問合せ

香川大学教育・学生支援室修学支援グループ  
E-mail : gakusenm4@jim.  
ao.kagawa-u.ac.jp

## \*目標\*

1. レポートの書き方の手順について説明することができる。
2. 出された課題に沿ったレポートを学生に書かせることができる。

## \*内容\*

1. はじめに
  2. レポートと感想文との違い
  3. レポート作成の手順
  4. レポート作成のルール
  5. まとめ
- 補論. 文献検索の方法

## ▶参考資料

香川大学大学教育開発センター編『大学入門ゼミハンドブック』  
(参加者には配布いたします。)

## ▶受講者の声

- ・学生にさせるワークのイメージがつかめてよかった。
- ・ワークを交えて, 学生の視点で受講できたのでよかった。
- ・「レポートの書き方」を学生の視点からとらえなおすことができよかった。
- ・具体的な講義方法がわかった。
- ・具体的な進め方が学べて良かった。

プログラム番号 K-009

## 「日本語技法」の教え方①

FD

## \*主な対象

教員

## \*対象校

SPOD全加盟校

## \*目標

右記参照

## \*講師

高水 徹 (香川大学・インターナショナルオフィス)

## \*日時

3月上旬

## \*場所

422講義室  
(幸町北キャンパス4号館2階)

## \*受講定員

50名

## \*主催

香川大学大学教育開発センター

## \*メ切

開講日2週間前, 先着順

## \*申込先・問合せ

香川大学教育・学生支援室修学支援グループ  
E-mail : gakusenm4@jim.  
ao.kagawa-u.ac.jp

## \*目標\*

1. 大人としてのマナーを守り, 情報として過不足のない用件のメールを書くことができる。
2. 手順を言語化し, 聞き手にわかりやすく伝えることができる。
3. 文章を整理し, 理解しやすく, 誤りのない状態に仕上げることができる。

## \*内容\*

- 技法1: 教職員へのメールの書き方  
技法2: 書き言葉による手順の説明  
技法3: 推敲の技法
- ・これらの技法がなぜ必要か。
  - ・これらの技法のポイントは何か。

## ▶参考資料

香川大学大学教育開発センター編『大学入門ゼミハンドブック』  
(参加者には配布いたします。)

## ▶受講者の声

- ・メール文章の問題点を具体的に指摘するところが参考になってよかったです
- ・日本語技法は必要です
- ・日本語技法はバージョンアップしたので受講しました。前よりコンテンツがモジュール化されてつかいやすくなったと思います

プログラム番号 K-010

## 「日本語技法」の教え方②

FD

## \*主な対象

教員

## \*対象校

SPOD全加盟校

## \*目標

右記参照

## \*講師

高水 徹 (香川大学・インター  
ナショナルオフィス)

## \*日時

3月上旬

## \*場所

422講義室  
(幸町北キャンパス4号館2階)

## \*受講定員

50名

## \*主催

香川大学大学教育開発センター

## \*メ切

開講日2週間前, 先着順

## \*申込先・問合せ

香川大学教育・学生支援室修学支援グループ  
E-mail : gakusenm4@jim.  
ao.kagawa-u.ac.jp

## \*目標\*

(①からの続き)

- 適切な表現を用いて, 2つの物事を比較・対照し, 文章で表現できる。
- 文章のポイントを簡条書きでまとめることができる。
- 文章の内容を, 必要な情報を損なわずに要約することができる。

## \*内容\*

(①からの続き)

技法4: 比較・対照の技法

技法5: 簡条書きの技法

技法6: 要約の技法

- これらの技法がなぜ必要か。
- これらの技法のポイントは何か。

## ▶参考資料

香川大学大学教育開発センター編『大学入門ゼミハンドブック』  
(参加者には配布いたします。)

プログラム番号 K-011

## 協同学習の基本(入門編)

FD

## \*主な対象

教員

## \*対象校

SPOD全加盟校

## \*目標

右記参照

## \*講師

岩中貴裕 (香川大学・大学教育  
開発センター)

## \*日時

3月上旬

## \*場所

422講義室  
(幸町北キャンパス4号館2階)

## \*受講定員

24名

## \*主催

香川大学大学教育開発センター

## \*メ切

開講日2週間前, 先着順

## \*申込先・問合せ

香川大学教育・学生支援室修学支援グループ  
E-mail : gakusenm4@jim.  
ao.kagawa-u.ac.jp

## \*目標\*

- 協同学習の有用性について説明することができる。
- 協同学習の技法を3つ挙げて, その手順を説明することができる。
- 自らの授業に協同学習の技法を導入することができる。

## \*内容\*

下記の順序で講座を行います。

- アイスブレイキング
- 協同学習の技法体験

授業の中で簡単に導入できる協同学習の技法を, 3つ紹介します。紹介する技法は, ラウンド・ロビン, シンク・ペア・シェア, ペア学習の3つです。

- プロジェクト型協同学習の紹介
- 質疑応答・まとめ(10分程度)

## ▶参考資料

香川大学大学教育開発センター編『大学入門ゼミハンドブック』  
(参加者には配布いたします。)

## ▶受講者の声

- 新しい協同学習の手法を得ることができた。
- 自分で体験することで重要性がわかった。
- 協同学習の進め方の基本が理解できた。良い経験だと思う。
- 協同学習, グループワークの手法が具体的に示され, よく分かった。
- 協同学習の具体的な方法を教えていただき, 授業への応用の仕方をイメージすることができた。

プログラム番号 K-012

## 「情報整理の方法」の教え方

FD

## \*主な対象

教員

## \*対象校

SPOD全加盟校

## \*目標

右記参照

## \*講師

佐藤慶太 (香川大学・大学教育開発センター)

## \*日時

3月上旬

## \*場所

422講義室  
(幸町北キャンパス4号館2階)

## \*受講定員

50名

## \*主催

香川大学大学教育開発センター

## \*メ切

開講日2週間前, 先着順

## \*申込先・問合せ

香川大学教育・学生支援室修学支援グループ  
E-mail : gakusenm4@jim.  
ao.kagawa-u.ac.jp

## \*目標\*

1. よいノートとはどのようなものか, 説明することができる
2. うまくノートをとるためのコツを説明することができる

## \*内容\*

1. ノートをとるってどういうこと?
2. よいノートの条件
3. よいノートをとるためのコツ
  - ・講義のスタイルの違い
  - ・ノートの種類
  - ・授業前/授業中/授業後にすること
  - ・ノートのとり方サンプル紹介
4. もう一度ノートをとってみよう
5. まとめ

## ▶参考資料

香川大学大学教育開発センター編『大学入門ゼミハンドブック』  
(参加者には配布いたします。)

## ▶受講者の声

- ・ノートの取り方を教えることをしないとイケない時代なのだと思って受講しましたが, 納得できました。
- ・ノートの取り方は自身の役に立つと思いましたが, ノートを取りやすい授業の構成にも活かせると思いました。
- ・「ノートをとること」に対して無意識であったが, 学生にとっては重要なテーマであることを認識できた。

プログラム番号 K-013

## 教えないで成績を上げるTBL(チーム基盤型学習)という授業方法

FD

## \*主な対象

教員

## \*対象校

SPOD全加盟校

## \*目標

右記参照

## \*講師

立川明 (高知大学・総合教育センター)

## \*日時

未定

## \*場所

生涯学習教育研究センター第1  
講義室(研究交流棟6階)

## \*受講定員

50名

## \*主催

香川大学大学教育開発センター

## \*メ切

開講日2週間前, 先着順

## \*申込先・問合せ

香川大学教育・学生支援室修学支援グループ  
E-mail : gakusenm4@jim.  
ao.kagawa-u.ac.jp

## \*目標\*

- TBLの流れが説明できる。
- TBLの効果として期待できることが説明できる。
- TBLのためのよい問の3つの条件が説明できる。

## \*内容\*

- ・なぜTBLが有効か? (レクチャー)  
Learning in Teaching (LiT) しよう
- ・TBLを体験してみよう!  
グループを作ろう!  
アイスブレイキングしよう!  
個別準備確認試験~グループ準備確認試験~アピール  
応用課題
- ・良い問の条件  
個人の責任を果たす World Cafe

## ▶参考資料

「Tips 5」(高知大学総合教育センター)  
<https://olss.cc.kochi-u.ac.jp/create/publication/tips/>

プログラム番号 K-016

## 学生の学ぶ意欲を引き出す授業とは？

FD

### \*主な対象\*

教員

### \*対象校\*

SPOD全加盟校

### \*目標\*

右記参照

### \*講師\*

岩中貴裕 (香川大学・大学教育  
開発センター准教授)

### \*日時\*

8月19日(火) 15:00~17:00

### \*場所\*

香川県立保健医療大学

### \*受講定員\*

32名程度(4人組×8グループ)

### \*主催\*

SPOD, 香川県立保健医療大  
学FD委員会

### \*メモ\*

要問い合わせ

### \*申込先・問合せ\*

香川県立保健医療大学  
E-mail : hokeniryodaigaku@  
pref.kagawa.lg.jp

### \*目標\*

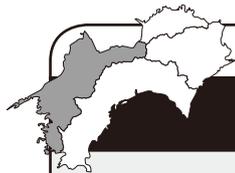
- (1) 学生の学ぶ意欲を高めるための理論的な枠組みを説明できる。
- (2) 学生の学ぶ意欲を引き出す授業計画を立てることができる。
- (3) 授業内の活動を通じて学生の学ぶ意欲を引き出し保持することができる。

### \*内容\*

学ぶ意欲は、学生の授業態度、授業外での自主学習の質や量、最終的に学習成果を決定する要因です。授業を通して学生のやる気を引き出すことは私たちの大切な役割です。DVD教材を使用する、グループ活動を行わせる、ゲーム的要素を盛り込む等、学生のやる気を引き出す方法は様々ですが、その場しのぎの活動になってしまうと学習成果は期待できません。学生のやる気を引き出し、そのやる気を保持するための理論的な枠組みを理解した上で、どのような授業活動を行うのかを考えていく必要があります。本プログラムを通して、参加者の皆さんに学生のやる気を引き出すための理論的な枠組みを理解していただき、授業に役立つ具体的なアイデアを互いに共有しましょう。

### ▶準備物

皆さんは、授業を魅力的で分かりやすいものにするためにどのような工夫をしていますか。具体的に挙げられるように準備した上で講座に参加してください。



プログラム番号 I-001

## 効果的なグループワークの進め方 (春期 FD・SD スキルアップ講座)

FD

## \*主な対象

授業でのグループワークやゼミでのディスカッションをより活性化させたい教員

## \*対象校

SPOD全加盟校

## \*目標

右記参照

## \*講師

小林直人 (愛媛大学教育企画室), 他

## \*日時

4月3日(木) 14:00~16:00

## \*場所

愛大ミュージアム1階アクティブラーニングスペース2

## \*受講定員

40名

## \*主催

愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室 (教職員能力開発拠点)

## \*メット

要問い合わせ

## \*申込先・問合せ

愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室  
E-mail: info@iec.ehime-u.ac.jp

## \*目標\*

1. 学生がいきいきとグループワークに参加できる仕組みについて説明することができる。
2. 現状よりも活発なグループワークをしかけることができるようになる。
3. グループワークを導入することのメリットとデメリット, 導入時に注意すべき点を列挙できる。

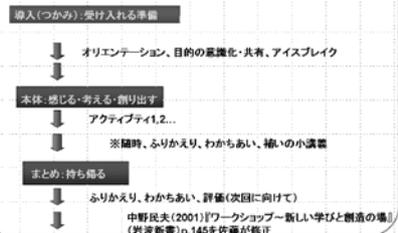
## \*内容\*

1. アイスブレイク
  - ・自己紹介
2. グループワークを体験する
3. 成功するグループワークのカギ
4. グループワークの進め方
  - ・グループワークの流れ
  - ・ファシリテーターの基本スキル
5. グループワークの必須アイテム
6. 振り返りと質疑応答

## ▶受講者の声

- 私にとっては目からうろこでした。グループワークだけでなく日頃の授業にも活かせる内容だったと思います。
- グループワークの具体的な進め方に関して理解することが出来た。

## 4. グループワークの進めかた



プログラム番号 I-002

## 学生の能力を高める評価法のコツ (春期 FD・SD スキルアップ講座)

遠隔

FD

## \*主な対象

学習評価に関わる教員

## \*対象校

SPOD全加盟校

## \*目標

右記参照

## \*講師

山田剛史 (愛媛大学教育企画室)

## \*日時

4月4日(金) 13:00~14:00

## \*場所

愛大ミュージアム1階アクティブラーニングスペース2

## \*受講定員

40名

## \*主催

愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室 (教職員能力開発拠点)

## \*メット

開講日2週間前, 先着順

## \*申込先・問合せ

愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室  
E-mail: info@iec.ehime-u.ac.jp

## \*目標\*

1. 学習評価の原則を説明することができる。
2. 形成的評価と総括的評価の違いと重要性を説明できる。
3. 多様な学習評価方法を知り, 自らの授業で活用できる。

## \*内容\*

1. 学習評価の基礎知識~目的・原則・方法~
2. よいテストのための条件
3. 様々な学習評価
  - ・ルーブリック評価
  - ・学生の自己評価・相互評価

## ▶参考資料

項目	レベルA	レベルB	レベルC
準備	すべての適切な材料が揃っており、シートに指定されているように配列されている。	すべての材料が揃っているが、すべてが配列されているわけではない。もしくは不足している。途中で補充しなくてはならない。	必要な材料がなく、レポートへの配列もいない。大きな手直しがある。
手順	手順は明確な順序により書かれており、手順が明確である。	手順はもっとも明確に記述されているが、手順が不明確である。	不適切な手順である。
安全性	安全に扱われていない。危険な材料が適切に扱われていない。	十分な安全性は確保されたが、リスクを伴った方法である。	危険な行為があった。
説明			
...			

プログラム番号 I-003 **New!!****会議マネジメント** 〈春期 FD・SD スキルアップ講座〉**FD****\*主な対象\***

教員

**\*対象校\***

SPOD全加盟校

**\*目標\***

右記参照

**\*講師\***

秦敬治, 阿部光伸, 丸山智子 (愛媛大学教育企画室)

**\*日時\***

4月4日(金) 15:00~17:00

**\*場所\***

愛大ミューズ1階アクティブ・ラーニングスペース2

**\*受講定員\***

40名

**\*主催\***

愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室(教職員能力開発拠点)

**\*大切\***

要問い合わせ

**\*申込先・問合せ\***愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室  
E-mail: info@iec.ehime-u.ac.jp**\*目標\***

1. ファシリテーションの重要性について説明することができる
2. ミーティングの意味・スキルについて説明することができる
3. メンバーの意見をうまく引き出すための手法を説明することができる
4. メンバーから引き出された意見を効果的・効率的に構造化(分類)する手法について説明することができる
5. 協力的ではないメンバーも含めて合意形成する手法について説明することができる

**\*内容\***

会議(ミーティング)は「意見の異なるもの同士が、議論の末に高次の合意点を見つけるもの」であることが望まれます。そのような会議を実現するために、会議を創造の場とするファシリテーションの重要性と、メンバーが主体的に参加し協力して会議を進めるための具体的なコツ(中立性、プロセス、チームワーク、傾聴、質問、記録、等)について学びます。

また、具体的な事例やグループワークを通して、本セミナー参加者とミーティングの在り方についての共通認識を行いながら、効率的・効果的なミーティングの意味・スキルを修得します。

プログラム番号 I-004, I-005

## 授業デザインワークショップ

FD

## \*主な対象

- ・愛媛大学教員のうち、下記のいずれかに該当する者
- ①新規採用された教員 (大学での授業担当経験5年以上を除く)
- ②新たに大学の授業を担当した教員
- ③昨年度対象者で都合により欠席した該当教員
- ④参加を希望する教職員
  - ・SPOD加盟校教職員のうち、参加を希望する者

## \*対象校

SPOD全加盟校

## \*目標

- 適切な目的・目標設定ができるようになる。
- わかりやすいシラバスを書けるようになる。
- 様々な授業方法を知り、目的・目標にあった方法を選択できるようになる。
- 様々な成績評価方法を知り、目的・目標にあった方法を選択できるようになる。
- 学習者の学習を促す要因を説明できる。
- グループ学習の手法を、自らの授業で導入するためのヒントを得る。

## \*講師

小林直人, 山田剛史, 清水栄子 (愛媛大学教育企画室), 仲雅輝 (愛媛大学総合メディアセンター兼教育企画室) 他

## \*日時

7月5日(土)~6日(日)(第22回)  
9月1日(月)~3日(水)(第23回)

## \*場所

久万高原ふるさと旅行村 (7月, 第22回)  
愛媛大学愛大ミュージアムアクティブ・ラーニングスペース2 (9月, 第23回)

## \*受講定員

7月 20名  
9月 30名

## \*主催

愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室 (教職員能力開発拠点)

## \*メッセ

要問い合わせ

## \*申込先・問合せ

愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室  
E-mail: info@iec.ehime-u.ac.jp

## \*内容\* (二日間ワークショップ場合)

## 1日目

- オリエンテーション
  - ・研修の目的・目標の確認
  - ・スタッフの紹介とお願い
- アイスブレイキング
  - ・自己紹介とグループワーク
  - ・アイスブレイキングの意義
- 講義 I
  - 「シラバスの書き方」
  - ・目的・目標の立て方
  - ・授業計画の立て方
- グループワーク I
  - 「共通教育科目の開発 I」
  - ・目的・目標設定
  - ・コースデザイン
- 講義 II
  - 「何が学生の学びを促進するのか？」
- 講義 III
  - 「様々な授業方法」
  - ・講義形式のメリット・デメリット
  - ・講義形式以外の授業方法
- 講義 IV
  - 「よりよい成績評価の仕方」
  - ・成績評価の目的
  - ・評価方法と評価対象
- グループワーク II
  - 「共通教育科目の開発 II」
  - ・コースデザイン
  - ・学習評価
- 中間発表
- グループワーク III, IV
  - 「共通教育科目の開発 III, IV」
  - ・授業計画案作成

## 2日目

- グループワーク V
  - 「共通教育科目の開発 IV」
  - ・ミニ授業練習
- ミニ授業
  - 「ミニ授業 (導入の10分)」
  - ・授業紹介
  - ・ミニ授業
  - ・討議・検討
- 振り返り



※第22回は1泊2日の宿泊研修。  
※第23回は3日間宿泊なしの研修。第22回と同じ内容となっております。

## ▶参考資料

『愛媛大学FDハンドブック もっと!!授業を良くする』第1巻 (オリジナルテキスト)  
『愛媛大学FDハンドブック もっと!!授業を良くする』第2巻 (オリジナルテキスト)  
佐藤浩章 編『大学教員のための授業手法とデザイン』(玉川大学出版部)

## ▶受講者の声

「当初はあまり乗り気ではなかったが、スタッフの教育に対する姿勢と知識に驚かされてとても有意義な時間が過ごせました。ありがとうございました。」

「専門を異にする他学部の教員と専門外のシラバスを作るという作業は、様々な考え方や物の見方に触れることができ、刺激に満ちたものだった。」

「キャンパスを離れた自然の豊かな高原で、日常の煩雑な業務で疲労した心身をリフレッシュすることができました。タイトスケジュールにより内容の充実した研修が展開されたことにより、参加したことに一層大きな意義を感じました。数多くのグループワークを通して、学生の立場から改めて授業運営を見つめ直すことができました。」

「研修を通じて、授業の意味や教員の役割を改めて考えることができ、学生の視点やレディネスについて意識するようになった点が良かったと思います。独り善がりな授業にしたいと強く思うようになりました。今回学んだことは、断続的に実践していきたいと思えます。私は授業経験がなく不安を感じながら参加しましたが、分かりやすい講義内容だし、グループワークにも参加しやすく、構えなくても参加できる研修でした。このような有意義なワークショップにもっと多くの教員が参加することを望みます。」

プログラム番号 I-006

## ティーチング・ポートフォリオ更新ワークショップ

FD

**\*主な対象\***  
TP作成後1年を経過している  
教員

**\*対象校\***  
SPOD全加盟校

**\*目標\***  
右記参照

**\*講師\***  
秦敬治, 清水栄子 (愛媛大学教育企画室) ほか

**\*日時\***  
7月7日(月)

**\*場所\***  
愛媛大学愛大ミュージアム

**\*受講定員\***  
約20名

**\*主催\***  
愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室(教職員能力開発拠点)

**\*メー**  
要問い合わせ

**\*申込先・問合せ\***  
愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室  
E-mail : info@iec.ehime-u.ac.jp

**\*目標\***  
ティーチング・ポートフォリオ (TP) を更新する。

**\*内容\***  
ティーチング・ポートフォリオの作成に終わりはありません。今回はティーチング・ポートフォリオの更新を目的として6時間30分のワークショップを実施し、参加者と一緒に、より良いティーチング・ポートフォリオの作成を行います。

1. オリエンテーション 全体説明・TPについてのおさらい
2. メンタリング・セッション (2人1組)
  - ・相互のTPを読む
  - ・相互メンタリング
3. ランチタイム・更新予定発表 (全体)
4. 更新タイム (個人)
5. メンタリングに関するディスカッション (全体)
6. 更新タイム (個人)
7. TP更新の感想と振り返り (全体)

**▶事前準備**  
事前にご自身のティーチング・ポートフォリオを読み返し、更新が必要な箇所の検討を付けておく。更新に必要なエビデンスを準備する。

プログラム番号 I-007

## 学習評価の基本〈夏期FD・SDスキルアップ講座〉

FD

**\*主な対象\***  
学習評価に関わる教員

**\*対象校\***  
SPOD全加盟校

**\*目標\***  
1. 学習評価の原則を説明することができる。  
2. 形成的評価と総括的評価の違いと重要性を説明できる。  
3. 多様な学習評価方法を知り、自らの授業で活用できる。

**\*講師\***  
山田剛史(愛媛大学教育企画室)

**\*日時\***  
8月19日(火) 13:00~15:00

**\*場所\***  
愛大ミュージアム1階アクティブ・ラーニングスペース2

**\*受講定員\***  
40名

**\*主催\***  
愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室(教職員能力開発拠点)

**\*メー**  
開講日2週間前、先着順

**\*申込先・問合せ\***  
愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室  
E-mail : info@iec.ehime-u.ac.jp

**\*内容\***

1. 学習評価の基礎知識～目的・原則・方法～
2. よいテストのための条件
3. 様々な学習評価
  - ・ルーブリック評価
  - ・学生の自己評価・相互評価
4. Q&A

## ▶参考資料

項目	レベルA	レベルB	レベルC
準備	すべての適切な材料が揃っており、レポートに配属されている。	すべての材料が揃っているが、すべてが配属されているわけではない。もしくは不足している。もしくは配属されていない。	必要な材料がなく、レポートへの配属がない。大きな手帳があり、大きい。
手順	手順は明確な手順書により考えられており、適切である。	手順はもっとも明確な手順書により考えられており、適切であるが、不適切な手順である。	不適切な手順である。
安全性	安全に保たれており、適切である。	たまたま安全性は保たれたが、リスクを伴った方法である。	危険な行為があった。
説明			
・			
・			

**▶受講者の声**  
○ヒントに満ちた内容でした。ルーブリックの評価への適用も興味深いだけでなく、学生の自主学習を促す工夫の実例なども参考にして、すぐにでも使えそうです。  
○具体例を多く挙げていただいたので、理解するだけでなく自分のフィールドを思い浮かべることが出来ました。  
○授業プログラム・計画・デザインの必要性を感じ、今後計画表の中に評価基準・方法を入れていきます。

**▶準備物について**  
可能であれば、ご自身の授業シラバスを持参ください



プログラム番号 I-008

## 英語で授業をしたい教員のためのワークショップ (夏期FD・SDスキルアップ講座)

FD

## \*主な対象

教職員

## \*対象校

SPOD全加盟校

## \*目標

右記参照

## \*講師

ルース・パーズン (愛媛大学国際教育支援センター) ボグダン・ディビッド (愛媛大学教育学部)

## \*日時

9月9日(火)13:00~15:00

## \*場所

愛大ミュージアム1階アクティブ・ラーニングスペース2

## \*受講定員

40名

## \*主催

愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室 (教職員能力開発拠点)

## \*メー

要問い合わせ

## \*申込先・問合せ先

愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室  
E-mail : info@iec.ehime-u.ac.jp

## \*目標\*

英語で授業をするときの一般的なガイドラインを説明できる。ロールプレイ形式のワークショップで、英語による授業を経験する。

To learn some general guidelines for teaching in English.

## \*内容\*

1. 創成授業「異文化のまなざし」での事例報告
2. 英語で授業をする際の一般的なガイドラインについて
3. 質疑応答と休憩時間
4. グループワーク
5. まとめと振り返り

1. Report on the Issues in Research classes
2. Go over general guidelines for teaching in English
3. Q&A/short break
4. Use of Moodle forums
5. Time management
6. Group work
7. Summing up

## ▶参加者の声

- 久しぶりにネイティブの英語を生で聴けた。
- グループディスカッションの重要性がよく分かった。
- 体験とレクチャーのバランスが良かった。



プログラム番号 I-009

New!!

## 効果的なeラーニングの活用方法 (超入門編) (夏期FD・SDスキルアップ講座)

FD

## \*主な対象

eラーニングを授業に取り入れてみたい。eラーニングをどのように活用したら良いのかわからないなど、eラーニングに興味をもっている教員

## \*対象校

SPOD全加盟校

## \*目標

右記参照

## \*講師

仲道雅輝 (愛媛大学総合メディアセンター兼教育企画室)

## \*日時

9月16日(火)13:00~15:00

## \*場所

愛大ミュージアム1階アクティブ・ラーニングスペース2

## \*受講定員

24名程度

## \*主催

愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室 (教職員能力開発拠点)

## \*メー

要問い合わせ

## \*申込先・問合せ先

愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室  
E-mail : info@iec.ehime-u.ac.jp

## \*目標\*

1. eラーニングとは何か説明できる。
2. 実践事例からeラーニングを授業に取り入れる際の効果的なポイントが説明できる。
3. eラーニング要素を活用して自身の授業での課題解決に向けた対策を考えることができる。
4. 自身の授業で使えるヒントやアイデア等を一つ以上持ち帰ることができる。

## \*内容\*

高等教育機関において、学習効果を上げるための方法としてeラーニングが注目されています。本プログラムでは、「eラーニングを授業に取り入れてみたい」「どのように活用するのが有効なのか知りたい」「自身の授業改善に役立てたい」「どこから始めるとよいかかわからない」「実はeラーニングとは何かがわからない」という方に対して、実際に授業で活用されている様々な事例を

紹介するとともに、ワークショップ形式にて自身の授業で、どう活用できるかを探っていきます。

※研修時にeラーニングソフト (Moodle) の操作等はいりません。

1. eラーニングとは
2. 広義・狭義のeラーニング
3. 実践事例の紹介 (動画教材・テスト機能・ディスカッション機能・課題提出機能 (振り返り) 等)
4. eラーニングを取り入れた授業計画案作成に向けて、グループワークによる検討を行う。

## ▶準備物について

筆記用具、ご自身のシラバスもしくは授業計画等をご持参ください。

プログラム番号 I-010

## ティーチング・ポートフォリオ作成ワークショップ（西四国対象）

FD

## \*主な対象

西四国加盟校教員

## \*対象校

SPOD全加盟校

## \*目標

右記参照

## \*講師

秦敬治、清水栄子（愛媛大学教育企画室）ほか

## \*日時

9月17日(水)～18日(木)  
(2日間)

## \*場所

愛媛大学愛大ミュージズ

## \*受講定員

約20名

## \*主催

愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室（教職員能力開発拠点）

## \*メ切

要問い合わせ

## \*申込先・問合せ

愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室  
E-mail : info@iec.ehime-u.ac.jp

## \*目標\*

- ティーチング・ポートフォリオ（TP）とは何かを理解する。
- ティーチング・ポートフォリオの必要性・有効性について知る。
- ティーチング・ポートフォリオ作成の要点と手順を理解する。
- ティーチング・ポートフォリオを作成する。

## ▶参考資料

TP完成サンプル

## \*内容\*

2日間を通しての参加となります。  
メンターによるメンタリングを行いながら作成します。

## &lt;1日目&gt;

1. オリエンテーション
2. 昼食会
3. 意見交換
4. メンタリング
5. TP作成作業  
(夜) 情報交換会（任意）

## &lt;2日目&gt;

1. TP作成作業
2. メンタリング
3. 昼食会・意見交換
4. TP作成作業
5. TP披露・修了式

プログラム番号 I-011

## アカデミック・ポートフォリオ作成ワークショップ

FD

## \*主な対象

教員（TP作成済み）

## \*対象校

SPOD全加盟校

## \*目標

右記参照

## \*講師

秦敬治、清水栄子（愛媛大学教育企画室）ほか

## \*日時

9月17日(水)～18日(木)

## \*場所

愛媛大学愛大ミュージズ

## \*受講定員

約20名

## \*主催

愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室（教職員能力開発拠点）

## \*メ切

要問い合わせ

## \*申込先・問合せ

愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室  
E-mail : info@iec.ehime-u.ac.jp

## \*目標\*

- アカデミック・ポートフォリオ（AP）とは何かを理解する。
- アカデミック・ポートフォリオの必要性・有効性について知る。
- アカデミック・ポートフォリオ作成の要点と手順を理解する。
- アカデミック・ポートフォリオを作成する。

## \*内容\*

2日間を通しての参加となります。  
メンターによるメンタリングを行いながら作成します。

## &lt;1日目&gt;

1. オリエンテーション
2. 昼食会
3. 意見交換
4. メンタリング
5. AP作成作業

## &lt;2日目&gt;

1. AP作成作業
2. メンタリング
3. 昼食会・意見交換
4. AP作成作業
5. AP披露・修了式  
(夜) 情報交換会（任意）

## ▶参考資料 AP完成サンプル

## ▶準備物 ご自身のティーチング・ポートフォリオ

プログラム番号 I-013

## ティーチング・ポートフォリオ作成ワークショップ〈高専対象〉

FD

## \*主な対象

教員 (教育力向上を目指し参加を希望する教員, 教育歴5年以上を目安とします)

## \*対象校

SPOD加盟校 (高専のみ)  
※高専を対象としていますが, SPOD加盟校からの希望者があれば, 参加状況により, 受け付ける場合がありますので, ご連絡ください。

## \*目標

右記参照

## \*講師

松本高志 (阿南工業高等専門学校), 清水栄子 (愛媛大学教育企画室)

## \*日時

10月31日(金)~11月2日(日)

## \*場所

愛媛大学愛大ミュージズ

## \*受講定員

15名

## \*主催

愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室 (教職員能力開発拠点)

## \*メー

要問い合わせ

## \*申込先・問合せ

愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室  
E-mail: info@iec.ehime-u.ac.jp

## \*目標\*

ティーチング・ポートフォリオ (以下, 「TP」という。) を用いて教員による主体的な教育力向上を目指します。TPは内省によって, 教育業績を整理するのみならず, 教員が抱えている教育への情熱を振り返り, その思いを授業改善, さらに教育力向上へ結びつける教員の意識改革 (主体性) を重視するものです。

TP作成者 (ワークショップ参加者) は次回メンター (助言者) として参加し, 他者をメンタリングすることにより更なる教育効果が上がり, TP作成者の増加のみならず, メンター養成によって相乗効果が生まれることが期待されます。

## \*内容\*

プログラムは以下のとおりです。3日間を通しての参加となります。

## &lt;1日目&gt;

12:00 ~ 12:30 オリエンテーション  
12:30 ~ 13:30 昼食会・意見交換  
13:30 ~ 14:30 第1回個人ミーティング  
14:30 ~ 17:00 TP作成作業  
18:30 ~ 20:30 情報交換会(任意)

## &lt;2日目&gt;

9:00 ~ 10:00 TP作成作業  
10:00 ~ 11:00 第2回個人ミーティング  
11:00 ~ 12:00 TP作成作業  
12:00 ~ 13:00 昼食会・意見交換  
13:00 ~ 17:00 TP作成作業

## &lt;3日目&gt;

9:00 ~ 10:00 TP作成作業  
10:00 ~ 11:00 第3回個人ミーティング  
11:00 ~ 12:00 TP作成作業  
12:00 ~ 13:00 昼食会・意見交換  
13:00 ~ 15:00 TP作成作業, プレゼンテーション準備  
15:00 ~ 16:30 TP披露・修了式, 修了証書の授与

## ▶研修風景



## ▶準備物について

事前に課題 (スタートアップシート) を作成・提出していただきます。

## ▶参考資料

『大学教育を変える教育業績記録 ティーチング・ポートフォリオ作成の手引』ピーター・セルディン/著 大学評価・学位授与機構/監訳 栗田佳代子/訳 (玉川大学出版)

## ▶受講者の声

- 日常的に意識しない, 自分の教育理念, 目的, 戦略を明らかにすることができ, 驚きました。
- 教育に対して, 漠然としていた自分の理念が少し分かったように思う。TP作成作業により, 教育内容が改善されていくであろう可能性を感じる事が出来た。過去の自分の教育経験を振り返り, 肯定的に捉えることができたように思う。

プログラム番号 I-012

## 学生の学ぶ意欲を引き出す授業とは？

FD

## \*主な対象

全教員

## \*対象校

SPOD全加盟校

## \*目標

右記参照

## \*講師

岩中貴裕（香川大学・大学教育開発センター准教授）

## \*日時

9月26日（金）13:30～15:30

## \*場所

愛媛大学城北キャンパス  
愛大ミュージアム1階アクティブ・ラーニングスペース2

## \*受講定員

40名

## \*主催

愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室  
（教職員能力開発拠点）, SPOD

## \*メー

要問い合わせ

## \*申込先・問合せ

愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室  
E-mail : info@iec.ehime-u.ac.jp

## \*目標\*

- (1) 学生の学ぶ意欲を高めるための理論的な枠組みを説明できる。
- (2) 学生の学ぶ意欲を引き出す授業計画を立てることができる。
- (3) 授業内の活動を通じて学生の学ぶ意欲を引き出し保持することができる。

## \*内容\*

学ぶ意欲は、学生の授業態度、授業外での自主学習の質や量、最終的に学習成果を決定する要因です。授業を通して学生のやる気を引き出すことは私たちの大切な役割です。DVD教材を使用する、グループ活動を行わせる、ゲーム的要素を盛り込む等、学生のやる気を引き出す方法は様々ですが、その場しのぎの活動になってしまうと学習成果は期待できません。学生のやる気を引き出し、そのやる気を保持するための理論的な枠組みを理解した上で、どのような授業活動を行うのかを考えていく必要があります。本プログラムを通して、参加者の皆さんに学生のやる気を引き出すための理論的な枠組みを理解していただき、授業に役立つ具体的なアイデアを互いに共有しましょう。

## ▶準備物

皆さんは、授業を魅力的で分かりやすいものにするためにどのような工夫をしていますか。具体的に挙げられるように準備した上で講座に参加してください。

プログラム番号 I-036 **New!!**

## 小グループ・ペア学習を取り入れた授業デザイン～考え方と進め方～

FD

## \*主な対象

学生の学びを向上させるために、グループ・ペア学習を授業の一部に取り入れたい教員

## \*対象校

SPOD全加盟校

## \*目標

右記参照

## \*講師

俣野秀典（高知大学・総合教育センター）

## \*日時

7月22日（火）13:00～15:00

## \*場所

愛媛県立医療技術大学

## \*受講定員

40名

## \*主催

SPOD, 愛媛県立医療技術大学

## \*メー

要問い合わせ

## \*申込先・問合せ

愛媛県立医療技術大学  
経営企画グループ  
E-mail : iryodai@epu.ac.jp

## \*目標\*

- (1) グループでの活動による学習の効果を説明できる
- (2) 協同的な学習活動を生産的なものにするための条件（要素）について二つ以上説明できる。
- (3) 学生を参加させるための技法を目的に応じて選択できる。

## ▶受講者の声

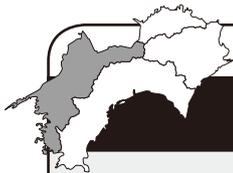
- ・協同学習の定義・効果・技法についてきちんと学ぶことができ、本当によかったと思います。
- ・ジグソー等の具体的手法や、それを取り入れた授業の実例を知ることができ、自分のものに取り入れる際の参考になりました。
- ・系統的な知識を得ることができたので、授業の改善に大変参考になりました。

## \*内容\*

“学びのプロセスに学生自身がどれだけ関わるのができたか”が学習成果を左右すると言われていています。ここ数年、学生参加型や双方向型授業といった名称の授業が増えてきていることの大きな理由がここにあります。

そこで本プログラムは、授業の活動性を高めるために、講義の一部にグループ学習やペア学習を取り入れてみたいと考えている教員を主な対象として、そのための考え方や方法を参加メンバーと共に学び、理解することを目的として実施されます。

1. アイスブレイクの基本
2. 小グループ・ペア学習/能動的学習の効果
3. 学生を参加させるための要素・技術
4. 授業等への適用例
5. 学習課題の組み立て方
6. 振り返り



プログラム番号 I-037

## 学生の学びを促すシラバスの書き方

FD

### \*主な対象\*

教員

### \*対象校\*

SPOD全加盟校

### \*目標\*

右記参照

### \*講師\*

葛城浩一 (香川大学大学教育開発センター)

### \*日時\*

未定

### \*場所\*

聖カタリナ大学 第1会議室

### \*受講定員\*

40名

### \*主催\*

聖カタリナ大学FD委員会, 聖カタリナ大学短期大学部FD委員会, SPOD

### \*メッセ\*

要問い合わせ

### \*申込先・問合せ\*

聖カタリナ大学FD委員会,  
 聖カタリナ大学短期大学部FD委員会  
 E-mail : kyomuka@catherine.ac.jp

### \*目標\*

- ・シラバスの定義を説明することができる。
- ・適切な目的を書くことができる。
- ・適切な目標を書くことができる。
- ・効果的な学習を促すスケジュールをデザインできる。
- ・適切な評価方法を書くことができる。

### \*内容\*

1. シラバスとは何か
2. シラバスの項目例
3. 授業科目名の書き方
4. 目的の書き方
5. 目標の書き方
6. 評価に関わる情報の書き方
7. 授業計画の書き方
8. 教材に関わる情報の書き方
9. オフィスアワーの書き方
10. 受講のルールの書き方

### ▶準備物について

ご自分の授業のシラバスをご持参ください。



プログラム番号 I-038

## 基礎から学ぶ学習評価法

FD

### \*主な対象\*

全教員, とりわけ講義を持つようになって間もない教員

### \*対象校\*

SPOD全加盟校

### \*目標\*

右記参照

### \*講師\*

山田剛史 (愛媛大学教育企画室)

### \*日時\*

6月19日(木)14:00~

### \*場所\*

松山大学本館6階ホール

### \*受講定員\*

60名

### \*主催\*

松山大学FD委員会, SPOD

### \*メッセ\*

要問い合わせ

### \*申込先・問合せ\*

松山大学教務部教務課  
 E-mail : abe@matsuyama-u.jp

### \*目標\*

学生の主体的な学びを育成するために, 学習評価の基礎知識や様々な方法を知るとともに自らの授業で活用できる。

### \*内容\*

学習評価の基礎知識である, 学習評価の原則, 学習評価の公平性, テストの作成法, 学習評価の厳密化と効率化のための評価ツールについて学びます。これまでの自己の学習評価方法を見直し, 公平性・厳密性と効率性の両方を満たすものにするためのヒントを持ち帰ることができます。シラバスを持参のうえ参加していただき, その場でブラッシュアップを行います。

プログラム番号 I-039

## ティーチング・ポートフォリオ入門～教育実践のリフレクション～

FD

## \*主な対象

授業改善に取り組みたい教員

## \*対象校

SPOD全加盟校

## \*目標

右記参照

## \*講師

清水 栄子（愛媛大学教育・学生支援機構）

## \*日時

9月25日（木）13:00～15:00

## \*場所

今治明德短期大学会議室または視聴覚室

## \*受講定員

40名

## \*主催

今治明德短期大学FD委員会、SPOD

## \*メ切

要問い合わせ

## \*申込先・問合せ先

今治明德短期大学FD委員会  
E-mail : kouti@meitan.ac.jp

## \*目標\*

1. ティーチング・ポートフォリオ（TP）とは何かを理解する
2. ティーチング・ポートフォリオ作成の意義と作成の手順について理解する

## \*内容\*

TP作成に向けた入門編として、気軽に参加できるプログラムです。TPとは何か、国内外のTPの活用状況を説明した後、ワークを通じて参加者自身の教育理念について考え、メンタリング体験も行います。

1. ティーチング・ポートフォリオとは何か
2. 業績評価とティーチング・ポートフォリオ
3. ティーチング・ポートフォリオによるリフレクション
4. ティーチング・ポートフォリオ作成の実際

プログラム番号 I-040 **New!!**

## 事例から見た、学生・保護者から信頼される高専教育

FD

## \*主な対象

高専教職員

## \*対象校

SPOD加盟校（高専のみ）

## \*目標

右記参照

## \*講師

坪井泰士（阿南工業高等専門学校、学生主事）

## \*日時

6月10日（火）13:00～14:30

## \*場所

新居浜工業高等専門学校第1会議室

## \*受講定員

60名

## \*主催

新居浜工業高等専門学校、SPOD

## \*メ切

要問い合わせ

## \*申込先・問合せ先

新居浜工業高等専門学校  
学生課教務係  
E-mail : kyoumu-c@  
off.niihama-nct.ac.jp

## \*目標\*

裁判事例をふまえて教育現場の観点から信頼される高専教育のあり方を確認し、各高専における信頼される教育活動を全学的に行うための検証・支援方法について考えます。

## \*内容\*

1. 学校裁判の事例から、教育活動の綻びを、確認できる。
2. 学生・保護者から信頼される教育活動の基本を、説明できる。
3. 信頼される教育活動の検証・支援方法について、説明できる。

## ▶参考資料

「高専におけるクラス経営・生活指導サポーターブック 2版」（講師作成）

## ▶受講者の声

（本プログラムの基礎編「担任教員に求められること～担任スキル開発ワーク～」より）  
○教員間の連携がとても大切であることが改めて理解できた。

- ふだん学生指導で悩んでいる内容について、いろいろと助言をもらえた。
- 事例紹介など、具体性があった。学生指導、講義のノウハウがちりばめられていた。

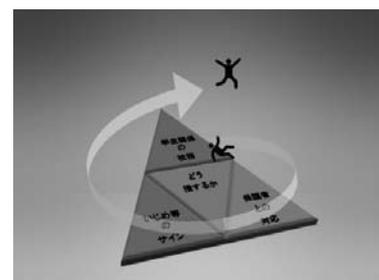
## ▶準備物について

[設備等]

- ・プロジェクタ、スクリーン（照明調整可能な部屋：カーテン等による調整も可）
- ・各椅子、4-6名1班のテーブル
- ・マイク設備

[各テーブル配置備品]

- ・A3用紙およびマジック×人数分
- ・模造紙×2枚（テーブル毎）
- ・添付用テープもしくはのり（テーブル毎）



プログラム番号 Y-001

# 学生の学びを支援する授業準備ワークショップ

FD

## \*主な対象\*

大学での授業担当経験5年未満の教員、新たに大学の授業を担当した教員および参加を希望する教員

## \*対象校\*

SPOD全加盟校

## \*目標\*

右記参照

## \*講師\*

塩崎俊彦, 立川明, 俣野秀典 (高知大学総合教育センター)

## \*日時\*

9月1日(月)~2日(火)(2日間)  
9:00~17:00

## \*場所\*

高知大学共通教育棟3号館  
1階310教室

## \*受講定員\*

40名

## \*主催\*

高知大学総合教育センター大学  
教育創造部門

## \*メ切\*

開講日2週間前, 先着順

## \*申込先・問合せ\*

高知大学学務部学務課  
E-mail: y-spod@kochi-u.ac.jp

## \*目標\*

1. 適切な授業の目的・目標設定ができるようになる。
2. わかりやすいシラバスを書けるようになる。
3. 学習成果(ラーニング・アウトカムズ)を意識して授業デザインができるようになる。
4. 学生参加型のグループ作業を自らの授業で導入することができるようになる。

## \*内容\*

### 1日目

1. オリエンテーション/アイスブレイク
2. グループワーク「良い授業とは?」
3. ミニレクチャー「目標設定と授業計画, シラバスの書き方」
4. グループワーク「共通教育科目の開発①(目標設定と授業計画)」
5. ミニレクチャー「様々な授業形態, それぞれのメリットとデメリット」
6. ミニレクチャー「様々な成績評価, その目的と方法」
7. グループワーク「共通教育科目の開発②(授業計画と評価の方法・スケジュール)」
8. グループ発表「グループワーク中間報告」
9. グループワーク「共通教育科目の開発③(授業の計画・指導案)」

### 2日目

10. グループワーク「共通教育科目の開発④(最終発表準備)」
11. グループ発表「新科目の紹介とミニ授業」
12. ふりかえり



## ▶参考資料

『大学教員のための授業方法とデザイン』(佐藤浩章編/玉川大学出版部)

『FDハンドブック Tips集 1~6』(高知大学総合教育センター)

『授業をもっと良くできる! 授業改善アンケート, ピア・レビュー, 授業参観の進め方』(高知大学総合教育センター)

## ▶受講者の声

- シラバスの作り方(目的・目標・成績評価の書き方など)や注意点がよくわかった。
- 「評価」も期末レポート(試験)の一発勝負だったので, 今後は工夫しようと思いました。
- 初めてグループワークを経験しましたが, メンバーと短時間で親密になることができたので良かったです。グループワークを自分の講義に活かそうと思いました。
- 他の大学の方とグループワークの中で話ができて, 授業の進め方や方法についてヒントを教わり, 各々が抱えている問題点も共有できて良かった。
- グループワーク等に具体的なコメントを返して下さっており, 今後に役に立つコメントを受講中多く頂きました。

プログラム番号 Y-002

## 講義に小グループ・ペア学習を取り入れた授業デザイン～考え方と進め方～（秋期FDセミナー）

FD

## \*主な対象

学生の学びを向上させるために、グループ・ペア学習を授業の一部に取り入れたい教員

## \*対象校

SPOD全加盟校

## \*目標

右記参照

## \*講師

俣野秀典（高知大学総合教育センター）

## \*日時

9月3日(水)13:30～15:30

## \*場所

高知大学共通教育棟3号館1階310教室

## \*受講定員

30名

## \*主催

高知大学総合教育センター大学教育創造部門

## \*メ切

開講日1週間前、先着順

## \*申込先・問合せ先

高知大学学務部学務課  
E-mail : y-spod@kochi-u.ac.jp

## \*目標\*

1. グループでの活動による学習の効果を説明できる。
2. 協同的な学習活動を生産的なものにするための条件（要素）について二つ以上説明できる。
3. 学生を参加させるための技法を目的に応じて選択できる。

## ▶受講者の声

- ・協同学習の定義・効果・技法についてきちんと学ぶことができ、本当によかったと思います。
- ・ジグソー等の具体的手法や、それを取り入れた授業の実例を知ることができ、自分のものに取り入れる際の参考になりました。
- ・系統的な知識を得ることができたので、授業の改善に大変参考になりました。

## \*内容\*

“学びのプロセスに学生自身がどれだけ関わることができたか”が学習成果を左右すると言われています。ここ数年、学生参加型や双方向型授業といった名称の授業が増えてきていることの大きな理由がここにあります。

そこで本プログラムは、授業の活動性を高めるために、講義の一部にグループ学習やペア学習を取り入れてみたいと考えている教員を主な対象として、そのための考え方や方法を参加メンバーと共に学び、理解することを目的として実施されます。

1. アイスブレイクの基本
2. 小グループ・ペア学習／能動的学習の効果
3. 学生を参加させるための要素・技法
4. 授業等への適用例
5. 学習課題の組み立て方
6. 振り返り

プログラム番号 Y-003

## コミュニケーションで知識を蓄えるTBL チーム基盤型学習法（秋期FDセミナー）

FD\*

## \*主な対象

授業で知識をたくさん扱いたい、効率よく学生に記憶させたい、学生を元気にしたい教職員と教員志望の学生。

## \*対象校

SPOD全加盟校

## \*目標

右記参照

## \*講師

立川明（高知大学総合教育センター）

## \*日時

9月4日(木)13:30～16:30

## \*場所

高知大学共通教育棟3号館1階310教室

## \*受講定員

40名

## \*主催

高知大学総合教育センター大学教育創造部門

## \*メ切

開講日1週間前、先着順

## \*申込先・問合せ先

高知大学学務部学務課  
E-mail : y-spod@kochi-u.ac.jp

## \*目標\*

- TBLの流れが説明できる。
- TBLの効果として期待できることが説明できる。
- TBLのための良い問の3つの条件が説明できる。

## \*内容\*

- ・なぜTBLが有効か？（レクチャー）  
Learning in Teaching (LiT) しよう
- ・TBLを体験してみよう！  
グループを作ろう！  
アイスブレイキングしよう！  
個別準備確認試験～グループ準備確認試験～アピール  
応用課題
- ・良い問の条件  
個人の責任を果たす World Cafe

## ▶参考資料

「Tips 5」（高知大学総合教育センター）  
<https://olss.cc.kochi-u.ac.jp/create/publication/tips/>

プログラム番号 Y-004

## 学生の学びを引き出すためのシラバスの書き方 (春期FDセミナー)

FD

## \*主な対象

授業改善をしたい教員

## \*対象校

SPOD全加盟校

## \*目標

右記参照

## \*講師

塩崎俊彦, 立川明, 俣野秀典 (高知大学総合教育センター)

## \*日時

1月21日(水) 13:30~16:00

## \*場所

高知大学共通教育棟3号館1階310教室 (予定)

## \*受講定員

30名

## \*主催

高知大学総合教育センター大学教育創造部門

## \*メー

開講日1週間前, 先着順

## \*申込先・問合せ

高知大学学務部学務課  
E-mail: y-spod@kochi-u.ac.jp

## \*目標\*

- ・学習成果(ラーニングアウトカムズ)を意識してシラバスを書くことができる。
- ・時間外学習を意識したシラバスを書くことができる。

## \*内容\*

- ・ミニ講義「なぜ良いシラバスを書く必要があるか？」
- ・このワークショップの目標とプログラム
- ・レクチャーおよびワークショップ
  - ・良い目標の書き方
  - ・目標にリンクした成績評価の書き方
  - ・目標にリンクした授業計画の書き方
  - ・その他の項目の書き方

## ▶準備物について

ご自身のシラバス(印刷したもの)

## ▶参考資料

「Faculty Development Handbook Vol.1 第二版 ~もっと! 授業を良くするために~」愛媛大学教育企画室

プログラム番号 Y-005

## 授業効果をもとめるために授業の最初にすべきこと ~質問が出る教室づくり~ (春期FDセミナー)

FD\*

## \*主な対象

学生の学び意識を高めたい講義型授業担当教員。講義型授業をアクティブにしたい教員。教員志望の学生。

## \*対象校

SPOD全加盟校

## \*目標

右記参照

## \*講師

立川明 (高知大学総合教育センター)

## \*日時

3月24日(火) 13:30~15:30

## \*場所

高知大学共通教育棟3号館1階310教室

## \*受講定員

60名

## \*主催

高知大学総合教育センター大学教育創造部門

## \*メー

開講日1週間前, 先着順

## \*申込先・問合せ

高知大学学務部学務課  
E-mail: y-spod@kochi-u.ac.jp

## \*目標\*

- 各回の授業の最初に何をなすべきか言える。
- 授業の最初につかう良い問の条件が3つ言える。
- 授業の最初に使う問を作ることができる。

## \*内容\*

- ・グループを作ろう!
- ・アイスブレイキングしよう!
- ・学生参加を促す工夫・まずはじめにすること
  - ・サンデル教授の秘密
  - ・問を作る!
  - ・良い問の条件
  - ・World Caféでブラッシュアップ

プログラム番号 Y-006

## 初年次科目のためのグループワークの技法 (春期 FD セミナー)

FD

## \*主な対象

課題探求実践セミナー担当教員、グループワーク型授業担当教員

## \*対象校

SPOD全加盟校

## \*目標

右記参照

## \*講師

塩崎俊彦、立川明、俣野秀典 (高知大学総合教育センター)

## \*日時

3月25日(水) 13:30~17:00

## \*場所

高知大学 (朝倉キャンパス) 教室 未定

## \*受講定員

30名

## \*主催

高知大学総合教育センター大学教育創造部門

## \*メ切

開講日1週間前、先着順

## \*申込先・問合せ先

高知大学学務部学務課

E-mail : y-spod@kochi-u.ac.jp

## \*目標\*

- ・2つのタイプのグループワーク授業のねらいが説明できる。
- ・グループワーク授業において、学習者の能動的な姿勢を引き出すための手法を、実際に体験しながら理解する。
- ・グループワークに関与する際に教員が注意すべき事柄を理解する。

## \*内容\*

- ・ミニ講義 グループワーク授業 / 2つのねらいをもって

## ・ワークショップ

- ① アイスブレイクの手法
- ② チームビルディングの手法
- ③ さまざまなグループワーク  
ZIGZAG・ワールドカフェなど
- ④ プレゼンテーションの工夫

模擬的にグループワークを行うことで、その運営方法を理解します。

## ・振り返り

ワークショップで得た知見をグループで振り返ります。

プログラム番号 Y-007

## 能動的学習支援者必須! グループワークのためのファシリテーション入門 (春期 FD セミナー)

FD\*

## \*主な対象

グループワークを取り入れている授業担当教員およびTA等として授業の補助を行う学生

## \*対象校

SPOD全加盟校

## \*目標

右記参照

## \*講師

塩崎俊彦・立川明・俣野秀典 (高知大学総合教育センター)

## \*日時

3月26日(木) 10:00~18:00

## \*場所

高知大学 (朝倉キャンパス) 教室 未定

## \*受講定員

30名

## \*主催

高知大学総合教育センター大学教育創造部門

## \*メ切

開講日1週間前、先着順

## \*申込先・問合せ先

高知大学学務部学務課

E-mail : y-spod@kochi-u.ac.jp

## \*目標\*

- ・グループワークを主とする授業担当者にとって必須となる能力：ファシリテーション力を身につける。
- ・グループ活動支援に必要なチームビルディングの方法を知る。
- ・チームビルディングゲームの進め方を知る。
- ・場の構築の重要性を理解する。
- ・フィードバックの重要性を理解する。
- ・ファシリテーションにおける注意点を知る。

## \*内容\*

一方的な講義形式の授業から学生参加型 / 双方向型授業への展開に対応する形で、授業のファシリテーター (学習支援・促進者) としての教員の役割の重要性が顕著になってきています。そこで本プログラムは、グループワークを多用した授業において教員が知っておきたい授業ファシリテーションについてのマインドとスキルについて、特にチームビルディングを重点的に取り上げ、実際に体験しながら習得することを目的として実施されます。

- ・オリエンテーション
- ・導入エクササイズ「グループの作り方とアイスブレイク」
- ・グループ演習「体験学習を体験する」～振り返りと解説
- ・ファシリテーターとしての行動・姿勢
- ・全体の振り返り、分かち合い

※グループ演習 (チームビルディングゲーム) は、参加者のニーズ・人数に応じて、下記より3~4種類をピックアップの予定。

- ・記者会見・総当たりインタビュー・学習スタイル・コンセンサスを求めて・私の価値観 / ライフポジション
- ・パスは待ってられない・グループプロセスの観察

## ▶受講者の声

- ・チームビルディングやチームを深めるための方法が分かった。
- ・他の人の意見を聞くという体験ができ、その重要性に気づいた。

プログラム番号 Y-012

## 大人数講義を魅力的にするテクニック

FD

## \*主な対象

教員

## \*対象校

SPOD全加盟校

## \*目標

右記参照

## \*講師

徳島大学 川野卓二

## \*日時

9月(予定)

## \*場所

高知県立大学 池キャンパス

## \*受講定員

40名

## \*主催

高知県立大学・高知短期大学・SPOD

## \*メ切

開講日2週間前, 先着順

## \*申込先・問合せ

高知県立大学法人

法人経営室

E-mail: houjin@

cc.u-kochi.ac.jp

## \*目標\*

昨今の高等教育に強く求められている参加体験型授業「アクティブ・ラーニング型」について理解を深める。

## \*内容\*

大講義室において受講生とコミュニケーションを取る方法, 学生を積極的に講義に参加させる方法や授業効果を高める方法などの様々な授業スキルを学ぶことに加え, 参加体験型授業/アクティブ・ラーニング型授業について学ぶ。

プログラム番号 Y-015

New!!

## 小グループ・ペア学習を取り入れた授業デザイン ~考え方と進め方~

FD

## \*主な対象

学生の学びを向上させるために、グループ・ペア学習を授業の一部に取り入れたい教員

## \*対象校

SPOD全加盟校

## \*目標

右記参照

## \*講師

侯野秀典 (高知大学総合教育センター)

## \*日時

7月29日(火) 13:30~

## \*場所

高知工業高等専門学校

## \*受講定員

30名

## \*主催

高知工業高等専門学校, SPOD

## \*メ切

要問い合わせ

## \*申込先・問合せ

高知工業高等専門学校総務課

E-mail: s-hosa@

jm.kochi-ct.ac.jp

## \*目標\*

1. グループでの活動による学習の効果を説明できる。
2. 協同的な学習活動を生産的なものにするための条件(要素)について二つ以上説明できる。
3. 学生を参加させるための技法を目的に応じて選択できる。

## \*内容\*

“学びのプロセスに学生自身がどれだけ関わることができたか”が学習成果を左右すると言われています。ここ数年、学生参加型や双方向型授業といった名称の授業が増えてきていることの大きな理由がここにあります。

そこで本プログラムは、授業の活動性を高めるために、講義の一部にグループ学習やペア学習を取り入れてみたいと考えている教員を主な対象として、そのための考え方や方法を参加メンバーと共に学び、理解することを目的として実施されます。

1. アイスブレイクの基本
2. 小グループ・ペア学習/能動的学習の効果
3. 学生を参加させるための要素・技法
4. 授業等への適用例
5. 学習課題の組み立て方
6. 振り返り

## ▶受講者の声

- ・協同学習の定義・効果・技法についてきちんと学ぶことができて、本当によかったと思います。
- ・ジグソー等の具体的手法や、それを取り入れた授業の実例を知ることができ、自分のものに取り入れる際の参考になりました。
- ・系統的な知識を得ることができたので、授業の改善に大変参考になりました。



# FD/SDプログラム

(教職員対象)

プログラム番号 T-008

## 学生の自立を促す学生支援のコツ

FD/SD

### \*主な対象\*

学生支援に意欲のある教職員

### \*対象校\*

SPOD全加盟校

### \*目標\*

右記参照

### \*講師\*

吉田 博（徳島大学 総合教育センター）

### \*日時\*

9月中旬

### \*場所\*

未定

### \*受講定員\*

50名

### \*主催\*

四国大学FD委員会

### \*メッセ\*

要問い合わせ

### \*申込先・問合せ\*

四国大学  
学部運営支援課  
E-mail : kugatakeshi@shikoku-u.ac.jp

### \*目標\*

近年の学生支援の動向、ピア・サポートの広がりや課題、他大学の活動事例とコツを学び、自大学での取り組み案のたたき台を構築することを目指します。

### \*内容\*

- ・学生支援が求められる背景
- ・近年の学生支援の動向
- ・学生による学生支援（ピア・サポート活動）の事例紹介
- ・事例大学での教職員の関わりのコツ（学生を自立させるためのコツ）
- ・質疑応答
- ・自大学で取り組むためのたたき台作成

プログラム番号 K-014

## クリッカーで教育・研究が変わる!

FD/SD

### \*主な対象\*

教員

### \*対象校\*

SPOD全加盟校

### \*目標\*

右記参照

### \*講師\*

真鍋芳樹（香川大学・アドミッションセンター）

### \*日時\*

9月1日(月)13:30~15:30

### \*場所\*

422講義室（幸町北キャンパス4号館2階）

### \*受講定員\*

30名

### \*主催\*

香川大学大学教育開発センター

### \*メッセ\*

開講日1週間前、先着順

### \*申込先・問合せ\*

香川大学教育・学生支援室学修支援グループ  
E-mail : gakusenm4@jim.ao.kagawa-u.ac.jp

### \*目標\*

- ・クリッカー&制御ソフト（TurningPoint）の使用方法を習得し、実際に使用できるようにする。
- ・クリッカーを用いた教育方法ならびに研究方法の展開を考えることができる。

### \*内容\*

1. TurningPointのインストール
2. プレゼンテーション資料作成
  - 2-1.新規にスライドを作成する
  - 2-2.既存のPowerPointスライドを利用する
3. プレゼンテーション事前確認
4. プレゼンテーション実行
5. 集計結果の保存
6. 集計結果の利用

### ▶受講者の声

- クリッカーと言うものを、研修の案内があるまで知らなかったもので、興味を引く、また、すぐに理解度を知る方法があることが分かりよかった。
- 教員にすぐ理解度などがフィードバックされること
- 使い方をわかりやすく解説されていたので、非常に用いる気持ちが湧いた。
- 実際の授業場面に則して、使い方を理解することができる。

### ▶準備物

TurningPointをインストールしたノートパソコンをご持参ください。



プログラム番号 I-014

## 学生を眠らせない講義法のコツ (春期 FD・SD スキルアップ講座)



## \*主な対象

講義を受け持つようになって間もない教員。また、受講を希望される職員の参加も歓迎します。

## \*対象校

SPOD全加盟校

## \*目標

右記参照

## \*講師

小林直人 (愛媛大学教育企画室)

## \*日時

4月3日(木) 11:00~12:00

## \*場所

愛大ミュージアムアクティブ・ラーニングスペース2

## \*受講定員

40名

## \*主催

愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室 (教職員能力開発拠点)

## \*メロ

要問い合わせ

## \*申込先・問合せ

愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室  
E-mail : info@iec.ehime-u.ac.jp

## \*目標\*

- 1 講義中に学生の集中力を維持するための様々な講義スキルを説明できる。
- 2 自分が担当する講義で活用できる講義の“パーツ”を列挙できる。
- 3 自分の講義中に複数の“シーン”を切り替えることができる。

## \*内容\*

大教室でも可能なアクティブ・ラーニング (能動的学習法) の具体的な方法について皆さんと考えます。

(この講習自体が授業のメタファーです。授業の“シーン”が切り替わる様子を体験してください。)

- 1 小テストを体験してみる：「授業の“パーツ”」を列挙する
- 2 学生に質問を投げかける方法を体験してみる：大教室でのコミュニケーション
- 3 「Think, Pair, Share」の手法を体験してみる：小規模のグループワーク
- 4 質疑応答
- 5 アクティブ・ラーニングについて考えてみる：得るものと失うもの
- 6 宿題を出すことについて：授業時間外学習を促すために
- 7 まとめ

## ▶参考資料

「大学教員のための授業方法とデザイン」  
佐藤 (編), 玉川大学出版部, 2010

## ▶準備物について

自分が担当する授業のシラバス (もしあれば)



プログラム番号 I-015

## メンタルヘルス研修



## \*主な対象

教員, 事務系職員

## \*対象校

SPOD全加盟校

## \*目標

右記参照

## \*講師

外部講師

## \*日時

6月上旬

## \*場所

愛媛大学会議室

## \*受講定員

40名

## \*主催

愛媛大学総務部人事課

## \*メロ

要問い合わせ

## \*申込先・問合せ

愛媛大学総務部人事課  
E-mail : jinshoku@stu.ehime-u.ac.jp

## \*目標\*

・教員及び事務系職員に対し、不調者の早期発見・早期対処方法等についての基礎知識を習得させることにより、学生・教職員の心の健康保持増進を図る。

## \*内容\*

- ・メンタルヘルスの意義
- ・ストレスおよびメンタルヘルスの基礎知識
- ・職員の不調を防ぐ方法と自身のケア
- ・不調が見受けられる職員への対応

## ▶受講者の声

- ・管理職によるケアの知識・スキルの基礎を学べた
- ・丁度、身に覚えある事柄であり、我が身に置き換え、その時点であるべき姿と上司のあり方について、目標とする情報が得られた
- ・メンタル不調者への具体的な対応を知ることができた

プログラム番号 I-016

New!!

## プロジェクトマネジメント〈夏期 FD・SD スキルアップ講座〉

FD/SD

## \*主な対象\*

教職員

## \*対象校\*

SPOD全加盟校

## \*目標\*

右記参照

## \*講師\*

丸山智子 (愛媛大学教育企画室)、  
仲道雅輝 (愛媛大学総合メディア  
センター兼愛媛大学教育企画室)

## \*日時\*

8月19日(火)10:00~12:00

## \*場所\*

愛大ミュージアム階アクティブ・ラーニングスペース2

## \*受講定員\*

40名

## \*主催\*

愛媛大学教育・学生支援機構教育  
企画室 (教職員能力開発拠点)

## \*メー切\*

要問い合わせ

## \*申込先・問合せ\*

愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室  
E-mail : info@iec.ehime-u.ac.jp

## \*目標\*

- ・プロジェクトマネジメントとは何かを説明できる
- ・プロジェクトマネジメントの考え方やプロセスを説明できる

## \*内容\*

1. プロジェクトとは
2. プロジェクトマネジメントとは
3. プロジェクトの成功とは
4. プロジェクトのライフサイクル
5. プロジェクトの目的の共有
6. 9つの知識エリアとプロセス
  - プロジェクト憲章
  - Work breakdown structure (WBS)
  - スコープ定義
  - リスクマネジメント
  - ステークホルダーマネジメント
7. プロジェクトマネジャーに求められる条件
8. チームの育成
9. プロジェクトの終結

## ▶参考資料

プロジェクトマネジメント知識体系&lt;PMBOK&gt; (PMI)

## ▶受講者の声

- ・プロジェクトマネジメントについて必要な能力、資質について知ることができた
- ・日常の業務に生かせる内容が多く含まれていた
- ・過去にうまくいかなかったことに対して、どうして失敗したのかその手がかりを得ることができた
- ・受け身でなく能動的な研修で良かった

プログラム番号 I-017

## ルーブリック評価入門-ブレない・速い・楽チン成績評価のススメ- (夏期 FD・SD スキルアップ講座)

遠隔

FD/SD

## \*主な対象\*

成績評価の厳密化と効率化を進めたい教員、カリキュラム・プログラム評価に関心のある教職員、人事評価に関心のある教職員

## \*対象校\*

SPOD全加盟校

## \*目標\*

右記参照

## \*講師\*

山田剛史 (愛媛大学教育企画室)

## \*日時\*

8月22日(金)13:00~15:00

## \*場所\*

愛大ミュージアム階アクティブ・ラーニングスペース2

## \*受講定員\*

40名

## \*主催\*

愛媛大学教育・学生支援機構教育  
企画室 (教職員能力開発拠点)

## \*メー切\*

要問い合わせ

## \*申込先・問合せ\*

愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室  
E-mail : info@iec.ehime-u.ac.jp

## \*目標\*

1. ルーブリック評価のメリットを説明することができる。
2. 自らの授業で活用できるルーブリックを作成する。

※ルーブリックとは、教育・学習成果の評価の厳密化と効率化を進めるために使われる評価ツールです。

## \*内容\*

ルーブリックの作成手続きと様々な事例を紹介しながら、時間内に自らの授業で活用できるルーブリックを作成します。作成し

## ▶参考資料

ダネル・スティーブンス+アントニア・レビ (著) 佐藤浩章 (監訳) 2014『大学教員のためのルーブリック評価入門』玉川大学出版部 (購入の必要はありません)

項目	レベルA	レベルB	レベルC
理解	すべての重要なポイントが理解でき、説明が正確である。	ほとんどの重要なポイントが理解でき、説明がほぼ正確である。	一部の重要なポイントが理解でき、説明が不正確である。
分析	すべての重要なポイントが分析でき、論理的な結論が導き出されている。	ほとんどの重要なポイントが分析でき、論理的な結論がほぼ導き出されている。	一部の重要なポイントが分析でき、論理的な結論が不正確である。
評価	すべての重要なポイントが評価でき、適切な基準が適用されている。	ほとんどの重要なポイントが評価でき、適切な基準がほぼ適用されている。	一部の重要なポイントが評価でき、適切な基準が不正確である。
創造性	独自の視点から新しいアイデアを生み出し、それを効果的に説明している。	独自の視点から新しいアイデアを生み出し、それをほぼ効果的に説明している。	独自の視点から新しいアイデアを生み出し、それを不正確に説明している。

## ▶準備物について

各自パソコンを持参してください。持参出来ない方は、貸出可能ですので、愛媛大学教育企画室までお問い合わせください (数量限定)。

たルーブリックは、他者と共有することができます。

1. ルーブリックとは何か?
2. なぜルーブリックを使うのか?
3. ルーブリックをどうやって作成するか?  
ルーブリック作成の4段階  
第1段階: 振り返り  
第2段階: リストの作成  
第3段階: グループ化と見出し付け  
第4段階: 表の作成
4. ルーブリック作成 (個人ワーク)
5. ブラッシュアップ (ペアワーク)

## ▶受講者の声

- ルーブリックとは、どのようなものであるべきか、深く理解することができました。学生・教員双方のためのルーブリック作りを行うことで、学習意欲を引き出せるのではないかと思います。
- これまでレポートや授業記録を提出させた後、教員コメントを書くのに手間・時間をかけていたので、今後は効率よく評価できると思います。また、授業態度の評価基準もきちんとしたものではなかったので、学生との合意でやれるのが双方のメリットになると思います。

プログラム番号 I-018

## 講義のための話し方入門〈夏期 FD・SD スキルアップ講座〉

遠隔 FD/SD

## \*主な対象

教員、とりわけ講義を受け持つようになって間もない教員 (I-020とセットで受講することが推奨されますが、単独受講も大歓迎です)。また、職員の参加も歓迎します。

## \*対象校

SPOD全加盟校

## \*目標

右記参照

## \*講師

小林直人 (愛媛大学教育企画室)、  
飯島永津子 (愛媛大学医学部教育協力者)

## \*日時

8月22日(金) 15:30~17:30

## \*場所

愛大ミュージアム階アクティブ・ラーニングスペース2

## \*受講定員

40名

## \*主催

愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室 (教職員能力開発拠点)

## \*メロ

要問い合わせ

## \*申込先・問合せ

愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室  
E-mail : info@iec.ehime-u.ac.jp

## \*目標\*

1. 「学生中心の大学」の実現のために「よい」授業ができるようになる。  
⇒ 「良い」授業とは？
  - ・ わかりやすい授業
  - ・ 知的な緊張感のある授業
  - ・ 学生が積極的に参加し自ら考える授業
2. 講義をするときに注意が必要な話し方のコツを、講習中の実習を通して習得し、習得したことを自分の授業に生かすことができる。

## \*内容\*

1. イントロダクション
  - ・ 本日のメニュー
  - ・ 本日の目的と目標

## ▶受講者の声

- 子音でわかりにくい言葉の事例を聞いて納得。
- 自分では声は大きいし、大丈夫と思ってましたが、話し方には話す内容も大事だということを再認識しました。

## ▶参考資料

「大学教員のための授業方法とデザイン」  
佐藤 (編)、玉川大学出版部、2010

## 2. 講師が気をつけていること

- ・ 学生にとってわかりやすい話し方とは？
- ・ どうしたらわかりやすい話し方ができるか？
- ・ 発音しにくい言葉
- ・ 区別しにくい言葉

## 3. 実例を元に演習

- ・ 聞き手が理解しやすい話し方
- ・ どう話すか？の前に何を話すか？

## 4. 休憩とストレッチ

## 5. 外部講師 (教育協力者) による発声練習

- ・ 大きな声を出すためには？
- ・ はっきりと発音するためには？

## 6. まとめ・セルフアセスメント

- ・ あらためて、「良い」授業とは？

## 7. 質疑応答

どうしたら  
分かりやすい話し方ができるか？

—小林が気をつけていること—

- ・ ゆっくり話す・大きな声で話す
- ・ 子音をはっきり話す
- ・ 否定後や文末を強調する
- ・ アイ・コンタクトして話す
- ・ 聞き手に近寄って行って話す
- ・ 特に抑揚をつけて前後に間を入れて何度も繰り返して
- ・ キーワードを強調して話す
- ・ 粉らわしい言い方は避ける
- ・ 板書やプリントを併用する



プログラム番号 I-019

学習者の学習意欲を高める授業設計を行うためのインストラクショナル・デザイン (ID) 入門  
—ARCS 動機づけモデルの活用— (夏期 FD・SD スキルアップ講座)

FD/SD

## \*主な対象

授業等において、改善したい課題を持っている教員もしくは、インストラクショナルデザインに関心がある教職員。

## \*対象校

SPOD全加盟校

## \*目標

右記参照

## \*講師

仲道雅輝 (愛媛大学総合メディアセンター兼教育企画室)

## \*日時

9月5日(金) 15:30~17:30

## \*場所

愛大ミュージアム階アクティブ・ラーニングスペース2

## \*受講定員

24名

## \*主催

愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室 (教職員能力開発拠点)

## \*メロ

要問い合わせ

## \*申込先・問合せ

愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室  
E-mail : info@iec.ehime-u.ac.jp

## \*目標\*

1. 「インストラクショナル・デザイン (ID / 教育設計)」が課題解決の方法論であることを説明できる。
2. 自分の授業を振り返り、到達目標を明確化するためのポイントが説明できる。
3. 学習者を動機づけるための一つの手法 (ARCS 動機づけモデル) を活用し、授業設計のヒントを得ることができる。

## \*内容\*

本プログラムでは、これまで自身が実施してきた教育に対する考え方や実施方法について見つめ直し、何が課題であるかについて考えるところからはじめ、教育をより効果的・効率的・魅力的にするための方法論であるインストラクショナルデザイン (教育設計) (以下、ID という) の中から、学習者を動機づけるための手法 (ARCS 動機づけモデル) や学習者の学びを支援するための働きかけに関する理論を事例とともに学び、ワークショップ形式にて課題解決策の糸口を探っていきます。

## ▶準備物について

筆記用具、具体的に改善したい課題がある場合はご自身のシラバスもしくは授業計画等

プログラム番号 I-020

## 大人数講義法の基本 (夏期 FD・SD スキルアップ講座)

遠隔のみ

FD/SD

## \*主な対象

教員、とりわけ講義を受け持つようになって間もない教員 (I-018とセットで受講することが推奨されますが、単独受講も大歓迎です)。また、職員の参加も歓迎します。

## \*対象校

SPOD全加盟校 (愛媛大学からの遠隔配信を受信できること、または受信できる施設にて受講すること)、ただし、愛媛大学内では受講できません。

## \*目標

右記参照

## \*講師

小林直人 (愛媛大学教育企画室)

## \*日時

9月9日(火)15:30~17:30

## \*主催

愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室 (教職員能力開発拠点)

## \*メ切

要問い合わせ

## \*申込先・問合せ

愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室  
E-mail: info@iec.ehime-u.ac.jp

## \*目標\*

1. 「学生中心の大学」の実現のために「よい」授業ができるようになる。  
⇒ 「良い」授業とは？  
・ わかりやすい授業  
・ 知的な緊張感のある授業  
・ 学生が積極的に参加し能動的に考える授業
2. 様々な授業スキルを、実際の体験を通して習得し、習得したことを自分の授業に生かすことができる。

## ▶参考資料

「大学教員のための授業方法とデザイン」佐藤 (編), 玉川大学出版社, 2010  
「成長するティップス先生」池田ら (著), 玉川大学出版社, 2001

## ▶受講者の声

- 遠隔でこのような授業が可能であることを知ることができた点。
- 時間外学習についての考え方やツールがあることを知ることができた。
- 学生の反応を知る方法を獲得できた。
- 大教室でのコミュニケーションの手法が学べた。授業時間外学習を促すことが大事だということがわかった。

## \*内容\*

1. はじめに 敵を知り己を知る
2. 「授業スキル」のいろいろ
3. 参加/体験型授業の例: グループワークを経験する
4. 「キーワード」を明示する
5. 休憩と質疑応答
6. 「板書」「プリント」の基本テクニック
7. 学生との「コミュニケーション」の基本テクニック
8. まとめとセルフアセスメント: あらためて、「よい」授業とは？

プログラム番号 I-021

## 障がい学生支援 (夏期 FD・SD スキルアップ講座)

FD/SD

## \*主な対象

教職員 (特に障がい学生が在籍している学部の教職員)

## \*対象校

SPOD全加盟校

## \*目標

右記参照

## \*講師

平尾智隆 (愛媛大学学生支援センター) ほか

## \*日時

9月16日(火)13:30~15:30

## \*場所

愛大ミューズ1階アクティブラーニングスペース2

## \*受講定員

30名

## \*主催

教育・学生支援機構学生支援センター、教育学生支援部バリアフリー推進室

## \*メ切

要問い合わせ

## \*申込先・問合せ

愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室  
E-mail: info@iec.ehime-u.ac.jp

## \*目標\*

1. 障がい学生支援をめぐる行政の動きや法的根拠を理解する。
2. 障がい学生支援における基本的な視点を理解する。
3. 合理的な配慮のあり方について理解する。

## ▶参考資料

<http://www.ehime-u.ac.jp/section/bfree/>

## \*内容\*

障がい学生の高等教育進学者の増加していく中、愛媛大学を含めたいくつかの先駆的な大学では、障がい学生への支援体制を率先して構築してきました。そしてそうした大学が全国の大学を牽引していく形で、全国的にも支援体制の整った大学が増えつつあります。その一方で、障害者差別解消法が平成28年4月1日に施行されることに伴い、大学においては、障害のある学生に対する合理的配慮の提供が義務づけられるようになります。これまで先進的に支援体制を構築してきた大学も含め、「ボランティアによる障がい学生支援」から、法に基づく「権利としての障がい学生支援」への意識の転換が求められています。では、「権利としての障がい学生支援」の視点に立った場合、実際の障がい学生支援においてどのような合理的配慮が求められるのでしょうか。本講座では、この問題について、皆様とともに考えていきたいと思います。

## プログラム番号 I-022

eラーニング活用(入門編) - Moodle ソフトを活用して  
きめ細やかな学習支援を実現しよう(夏期 FD・SD スキルアップ講座)

FD/SD

## \*主な対象

Moodleを使ってみたい、  
Moodleで何ができるのか、操  
作できるようになりたい教員

## \*対象校

SPOD全加盟校

## \*目標

右記参照

## \*講師

佐々木隆志(愛媛大学総合情報メ  
ディアセンター)、仲道雅輝(愛媛大学総  
合メディアセンター兼教育企画室)

## \*日時

9月19日(金) 13:00~15:00

## \*場所

総合メディアセンター演習室 1

## \*受講定員

40名

## \*主催

愛媛大学教育・学生支援機構教  
育企画室(教職員能力開発拠点)\*メ  
切

要問い合わせ

## \*申込先・問合先

愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室  
E-mail: info@iec.ehime-u.ac.jp

## \*目標\*

1. eラーニングソフト Moodleを操作できるようになる。
2. eラーニングでの学習方法やLMS機能について説明ができる。
3. eラーニングのコースを作成できる。

## \*内容\*

1. Moodleコースが開設されるまで(登録方法)
2. Moodleとは
3. コースへのログイン
4. コンテンツ(文書&動画)のアップロード
5. フォーラム(掲示板)によるディスカッション
6. レポート課題の提出
7. 小テストの作成と実施
8. アンケート機能
9. 採点と成績(評定)の管理
10. メールの送信(クイックメール)
11. 受講ログの確認



## ▶受講者の声

「資料が充実していて、わかりやすく受講できました。」

「学生とのコミュニケーションが出来き、細かい指導が可能だと思いました。」

## プログラム番号 I-023

## パワーポイント2010 基本技・便利技(夏期 FD・SD スキルアップ講座)

FD/SD

## \*主な対象

パワーポイントの基本から、図形・  
写真・グラフ・動画の挿入・アニメ  
ーションについて学びたい方

## \*対象校

SPOD全加盟校

## \*目標

右記参照

## \*講師

都築和宏(愛媛大学総合情報メ  
ディアセンター)

## \*日時

9月24日(水) 14:00~16:00

## \*場所

総合メディアセンター演習室 1

## \*受講定員

40名

## \*主催

愛媛大学教育・学生支援機構教  
育企画室(教職員能力開発拠点)\*メ  
切

要問い合わせ

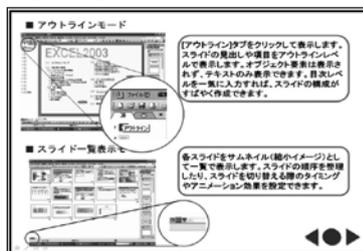
## \*申込先・問合先

愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室  
E-mail: info@iec.ehime-u.ac.jp

## \*目標\*

1. プレゼンテーションと基本操作の習得
2. 図形・写真・表やグラフの作成・挿入
3. 動画の挿入・ハイパーリンクの活用
4. 各種アニメーションの設定と実行

## ▶参考資料



## ▶受講者の声

「今まで適当に使っていた機能の効率的  
な使い方が良く分かった。」「基本的なものから、とても分かりやす  
く学べてよかったです。」

## \*内容\*

1. 基本操作編
  - ・効果的なプレゼンとは
  - ・Power Point2010 の基本
  - ・スライド作成の基本
2. 図形・写真・表やグラフの作成・挿入
  - ・図形を描こう
  - ・写真の加工
  - ・表を作成しよう
  - ・グラフを作成しよう
  - ・パワーポイントへの挿入
3. 動画の挿入・ハイパーリンクの活用
  - ・ハイパーリンクとは
  - ・動画の挿入
4. 最終調整、資料準備編
  - ・スライドのデザイン
  - ・スライドショーの設定
  - ・配布資料の作成
5. プレゼンテーション実行編
  - ・スライドショー
  - ・動作設定ボタンの利用
  - ・アニメーション

プログラム番号 I-024

## 動画教材作成法〈夏期FD・SDスキルアップ講座〉

FD/SD

## \*主な対象

動画編集の基礎と動画を取り入れた研究発表を行いたい方

## \*対象校

SPOD全加盟校

## \*目標

右記参照

## \*講師

池住元秀, 都築和宏 (愛媛大学総合メディアセンター)

## \*日時

9月25日(木) 14:00~16:00

## \*場所

総合メディアセンター第1演習室

## \*受講定員

40名

## \*主催

愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室(教職員能力開発拠点)

## \*メッセ

要問い合わせ

## \*申込先・問合せ

愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室  
E-mail: info@iec.ehime-u.ac.jp

## \*目標\*

1. Windowsムービーメーカーの基本操作の習得
2. 動画編集の習得
3. PowerPointで動画を表示



## \*内容\*

1. 効果的なプレゼンテーション
2. Windowsムービーメーカーとは
3. 動画編集 (カット, 並び替え, 長さの調整など)
4. テロップの表示
5. 音を聴きやすくする加工
6. 各種形式ファイルへの書き出し
7. ムービーの再生
8. PowerPointでの表示

## ▶受講者の声

「授業で、例えば実験操作を映像にとって学生に示すことに役立てようと思っている。」  
「初めて動画の取り込みを経験したので是非講義に試してみた。」

プログラム番号 I-025

New!!

## アクティブラーニング入門

FD/SD

## \*主な対象

教育経験の浅い教員, 大学職員全般

## \*対象校

SPOD全加盟校

## \*目標

右記参照

## \*講師

小林直人, 山田剛史 (愛媛大学教育企画室)

## \*日時

12月中

## \*場所

総合メディアセンター第1演習室

## \*受講定員

40名

## \*主催

愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室(教職員能力開発拠点)

## \*メッセ

要問い合わせ

## \*申込先・問合せ

愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室  
E-mail: info@iec.ehime-u.ac.jp

## \*目標\*

- (1) アクティブラーニングが必要な理由を述べるができる。
- (2) アクティブラーニングの教育手法のメリット・デメリットを具体的に説明できる。
- (3) 自ら担当する授業で活用できる(できそうな)アクティブラーニングの教育手法を列挙できる。
- (4) アクティブラーニングの教育手法を実践できる。

## \*内容\*

アクティブラーニングの基本的な考え方について学び、学生が授業に能動的に参加できるような様々な講義法の紹介を通して、ご自身の授業に取り込めるアイデアを考えることを目的としています。教員・学生間の双方向性を高める教育手法について、ご自身の授業で導入できるアクティブラーニングについて一緒に考えていきます。このセミナーの構成自体も、アクティブラーニングの考え方に基づいています。

## 学習項目

- (1) アクティブラーニングとは (10分)
- (2) 深い学びに関するミニ講義&ワーク (25分)
- (3) 多様な教育手法に関する双方向レクチャー (25分)
- (4) 教育手法を体験する「ペア・リーディング」 (10分)
- (5) ワーク「90分の授業をデザインしてみよう」 (40分)
  - ・ワークの説明
  - ・自身のシラバスを参考に1回の授業を抜き出す
  - ・多様な教育手法, クラスデザイン例を参考に1回の授業案を作成
  - ・ペアでシェア→全体でシェア
- (6) ラップアップ~学びの振り返り~ (10分)

▶準備物 自分が担当する授業のシラバス(もしあれば)

プログラム番号 I-026

## 学生の授業時間外学習を促すシラバス作成法 FD/SD

**\*主な対象**

これから授業を担当する教員、  
これまで作ったシラバスをより  
よいものにしたい教員

**\*対象校**

SPOD全加盟校

**\*目標**

右記参照

**\*講師**

仲道雅輝 (愛媛大学総合メディア  
センター兼教育企画室)

**\*日時**

1月14日(水) 13:00~15:00

**\*場所**

愛大ミュージアムアクティブ・ラーニングスペース2

**\*受講定員**

40名

**\*主催**

愛媛大学教育・学生支援機構教育  
企画室(教職員能力開発拠点)

**\*メロ**

要問い合わせ

**\*申込先・問合せ**

愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室  
E-mail : info@iec.ehime-u.ac.jp

**\*目標\***

- ①シラバスの役割を説明できる。
- ②授業の「目的」と「目標」との違いを説明できる。
- ③適切な「目的」と「目標」を書くことができる。
- ④学習者が自学自習に励むようなシラバスを書くことができるようになる。

**\*内容\***

1. 授業デザインの考え方
2. シラバスとは何か?
  - ・定義
3. 授業題目・キーワードの書き方
  - ・わかりやすく書く
4. 目的の書き方
  - ・授業の目的の書き方
5. 目標の書き方
  - ・到達目標の書き方
6. 授業内容・スケジュールの書き方
  - ・無理のない進み具合
7. 授業時間外での学習を促す戦略
  - ・外発的・内発的動機づけによる学習課題に取り組みさせるコツ
  - ・eラーニングを活用した課題への取り組みせ方

**8. 受講条件の書き方**

- ・ニーズと授業内容のミスマッチ防止

**9. 受講ルールの書き方**

- ・受講のマナー

**10. 教材に関わる情報の書き方****11. 評価情報の書き方****▶準備物**

ご自分の授業のシラバスをご持参下さい

**▶参考資料**

『FDハンドブック第1巻』『FDハンドブック第2巻』(愛媛大学教育企画室作成)  
鈴木克明著『教材設計マニュアル-独学を支援するために-』(北大路書房)

**▶受講者の声**

- ・具体例が提示されており、自分のシラバス作成における対策がよくわかった。
- ・目標が成績評価項目になるという点が実感できた。
- ・自分が作成していたシラバスの良い点、改善点がわかった。
- ・評価の記述方法がわかった。
- ・個別の質問に丁寧に答えていただけた。

プログラム番号 Y-013

## 教職員のための PowerPoint -分かりやすい話の組み立て方・資料作成・分かり易い話し方- FD/SD

**\*主な対象**

PowerPointを仕事で使いたい  
教職員  
分かり易い話し方と聴き出し方  
を身につけたい教職員

**\*対象校**

SPOD全加盟校

**\*目標**

右記参照

**\*講師**

立川明 (高知大学総合教育センター)

**\*日時**

9月24日(水) 13:30~16:30

**\*場所**

高知工科大学 K-HALL

**\*受講定員**

30名

**\*主催**

高知工科大学

**\*メロ**

要問い合わせ

**\*申込先・問合せ**

高知工科大学総務部人事課  
E-mail : personnel@  
ml.kochi-tech.ac.jp

**\*目標\***

PowerPointを使った資料作成の操作を同僚に教えられる。  
分かり易く伝えるための話の組み立て方が説明できる。  
分かり易い自己紹介ができる。

**\*内容\***

- ・グループを作ろう!
- ・自己紹介しよう!
- ・PowerPointで資料を作ってみよう!
- ・自己紹介しよう!
- ・CUEの理論を学んでみる。
- ・CUEを使って自己紹介してみよう!

**▶準備物について**

\*PC (WindowsまたはMacでプレゼンウェアインストール済み) 必携で参加下さい。

電源ケーブル, 延長ケーブルもご持参下さい。

\*動画撮影できるデジカメ, 携帯等を持参してください。

デジカメ, 携帯の充電と録画容量の確認を忘れずに!

プログラム番号 Y-014

New!!

## マインドマップ入門講座

FD/SD

**\*主な対象\***

マインドマップを自身の能力開発や仕事に活かしたいと考えている教職員

**\*対象校\***

SOPD全加盟校

**\*目標\***

右記参照

**\*講師\***

俣野秀典 (高知大学総合教育センター)

**\*日時\***

9月9日(火) 13:00~15:00

**\*場所\***

高知学園短期大学7号館大講義室

**\*受講定員\***

50名

**\*主催\***

高知学園短期大学FD委員会/高知学園短期大学SD委員会

**\*その他\***

要問い合わせ

**\*申込先・問合せ\***

高知学園短期大学教務課  
E-mail : kyoumu@kochi-gc.ac.jp

**\*目標\***

1. マインドマップの効果を説明できる。
2. ミニマインドマップを描くことができる。
3. マインドマップの活用方法を二つ以上挙げることができる。

**\*内容\***

マインドマップは、Tony Buzanによって開発された思考法・ノート術で、記憶力・理解力・集中力・創造的思考力・問題解決力などの様々な能力を高めるとされています。イメージと連想をもとに放射状に思考を広げるところに特徴があり、ビジネスや教育現場において注目されています。

本プログラムは、実際に頭と手を動かしながらMind Mappingを体験することを通して、参加者自身の日々の実践へのヒントを持ち帰ることを目的として実施されます。

1. マインドマップとは?
2. イメージと連想
3. マインドマップの基本ルール
4. ミニ/フル/グループ・マインドマップ
5. 振り返り



# SDプログラム

(職員対象)

プログラム番号 I-027, T-004, I-034, K-015

## 次世代リーダー養成ゼミナール

SD

**\*主な対象\***

- 以下の条件を満たす者。
- ・40歳以下を原則とする
  - ・各機関の長が推薦する者
  - ・SPOD加盟校の職員
  - ・次世代リーダー養成ゼミナール受講希望者は、スタッフ・ポートフォリオWSを受講し、受講申し込み時に提出すること
  - ・受講にあたっての抱負が明確であり、受講申込時に文書(400文字程度)で提出できる者
  - ・SPODが実施するプログラムのレベルⅡを修了した者、または、それと同等の能力があると認められた者

**\*対象校\***

SPOD全加盟校

**\*目標\***

右記参照

**\*講師\***

外部講師、SPOD内講師

**\*日時\***

- 第1回 5月22日(木)~24日(土)  
第2回 7月17日(木)~19日(土)  
第3回 11月6日(木)~8日(土)  
第4回 1月22日(木)~23日(金)

**\*場所\***

- 第1回 愛媛  
第2回 徳島  
第3回 愛媛  
第4回 香川

**\*受講定員\***

15名

**\*主催\***

SPOD

**\*メ切\***

要問い合わせ

**\*申込先・問合せ\***

愛媛大学教育企画課  
E-mail: spod@stu.ehime-u.ac.jp

**\*目的\***

将来、事務職員がトップリーダー(経営者・管理者)として、大学等の経営を担うために必要な知識(理論)・技能(実践力)・態度を段階的に養成する。

**\*目標\*****【知識(理論)】**

大学等の経営に必要な以下のことができる。

- ・高等教育に関する知識・理論(高等教育論、高等教育史、高等教育政策・行政、教育関係法、教育財政)を応用する。
- ・経営管理・戦略、財政管理・戦略、危機管理に関する知識・理論を応用する。
- ・リーダーシップに関する知識・理論を応用する。

**【技能(実践力)】**

上記の知識を利用して、大学等の大局的な運営に必要な以下のことができる。

- ・情報収集・分析を行う。
- ・企画策定・提案を行う。
- ・判断を行う。
- ・折衝・調整を行う。
- ・後継者育成を行う。

**【態度】**

- ・学生を中心とした教育活動に積極的に働きかけることができる。
- ・立場の違う構成員と協力して働くことができる。
- ・地域や高等教育界のニーズに応えることができる。
- ・リーダーとしてふさわしい言動をとることができる。

※講義については、SPODへ開放する予定

**\*内容\***

■修了生(3期生)が2年間で受講したプログラム

**【1年目】※H24年度3期生受講科目****第1回 1日目**

- ・オリエンテーション
- ・アイスブレイク
- ・二年目受講生とのメンタリング実践Ⅰ
- ・リーダーシップ論&実践Ⅰ
- ・E L S

**2日目**

- ・高等教育ⅠR
- ・高等教育政策論
- ・自大学プレゼンテーション

**3日目**

- ・高等教育史

**第2回 1日目**

- ・課題プレゼンテーション
- ・トップリーダーとの対談準備

**2日目**

- ・トップリーダーとの対談
- ・ワールド・カフェ「リーダーシップについて語ろう！」
- ・大学のガバナンスとマネジメント

**3日目**

- ・二年目受講生によるSPODフォーラムプログラム講義と講評
- ・トップリーダーとの対談振り返り

**第3回 1日目**

- ・一年目受講生と南大阪コンソーシアム受講生による課題プレゼンテーション
- ・講話
- ・大学職員になろうキャンペーン・企画

**2日目**

- ・危機管理論&実践
- ・リーダーシップ論&実践Ⅱ





- 第4回 1日目**  
 ・二年目受講生による終了プロジェクト発表
- 2日目**  
 ・課題プレゼンテーション  
 ・フォローアップ実践  
 ・インストラクショナルデザイン（ID）を活用した職員による企画・立案マネジメント
- 3日目**  
 ・二年目受講生とのメンタリング実践Ⅱ  
 ・大学職員になろうキャンペーン・企画 発表  
 ・2年目に向けての意見交換  
 ・講話  
 ・二年目受講生による発表「次世代リーダー養成研修を振り返って」  
 ・修了式

**【2年目】※ H25年度3期生受講科目**

- 第5回 1日目**  
 ・メンター入門  
 ・一年目受講生へのメンタリング実践Ⅰ  
 ・プロジェクト進捗報告  
 ・E L S
- 2日目**  
 ・SPODフォーラム用シラバス作成  
 ・愛媛大学見学
- 3日目**  
 ・SD論  
 ・一年目受講生による自大学プレゼンテーション
- 第6回 1日目**  
 ・SPODフォーラムプログラム講義と講評
- 2日目**  
 ・プロジェクト進捗報告  
 ・SPODフォーラムプログラム準備
- 3日目**  
 ・高等教育戦略論
- 第7回 1日目**  
 ・一年目受講生へのメンタリング実践Ⅱ  
 ・一年目受講生による課題プレゼンテーション
- 2日目**  
 ・講師養成講座  
 ・SPOD-SDプログラム講師を目指して  
 ・プロジェクト進捗報告  
 ・プロジェクト論文の書き方
- 第8回 1日目**  
 ・修了プロジェクト発表
- 2日目**  
 ・一年目受講生による課題プレゼンテーション  
 ・最終口頭試問  
 ・発表「次世代リーダー養成ゼミナールを振り返って」  
 ・講話  
 ・終了式

**\* 修了要件 \***

- ・全日程の9割以上出席。
- ・全ての課題（レポート、プレゼンテーション、ディスカッション、実践等）をこなし、合格すること。
- ・最終口頭試問で合格すること。
- ・全てのプログラムについてA～Dの4段階で評価し、総合判定A～Cの評価を得ること。
- ・修了後は、SPODのSD講師に登録すること。

**▶ 受講者の声**

- ・高等教育に関する政策・制度史等について、体系立てて、かつ、一流の講師陣から学び、習得することができた。
- ・受講者の自立性を重視している点（講師陣からの「指示」ではなく「アドバイス」をいただきながら進める形式）が良かった。
- ・長期間の研修だったため、人とのつながりも濃密になったし、自分自身を振り返り考える時間も長く続いたことは有益だった。

プログラム番号 T-003

# SD 大学人・社会人としての基礎力養成プログラム研修 (レベルI) [新任職員研修] 第1回

**\*主な対象\***

新任職員 (H25年4月2日～  
H26年4月1日採用の職員)

**\*対象校\***

SPOD全加盟校

**\*目標\***

高等教育機関の職員として一般的に求められている広汎な素養を習得することができる。

**\*講師\***

秦敬治, 阿部光伸, 吉田一恵,  
上甲功治, 大塚陽介 (愛媛大学)  
根ヶ山須美子 (徳島大学),  
平野法子 (四国大学),  
藤巻晃 (徳島文理大学)

**\*日時\***

5月14日(水)～16日(金)  
(2泊3日)

**\*場所\***

徳島大学

**\*受講定員\***

80名

**\*主催\***

徳島大学, 愛媛大学 (教職員能力開発拠点), SPOD

**\*その他\***

要問い合わせ

**\*申込先・問合せ\***

愛媛大学教育企画課  
E-mail : spod@stu.ehime-u.ac.jp

**\*内容\***

・大学人・社会人としての基礎力養成プログラム (レベルI) のうち, 3つの研修科目を実施する。(原則として全部受講とするが, 部分受講も可。)

**■ビジネスマナー入門編****\*目標\***

- ・ビジネスマナーの基本を実践することができる
- ・一般的なビジネス文書を作成することができる
- ・議事録を作成することができる
- ・基本的な電話対応, 接客対応を行うことができる

**\*内容\***

- ・ビジネス文書とは ～基礎知識
- ・ビジネス文書作成時のポイント
- ・文書作成スキルを向上させるヒント
- ・議事録作成のポイント
- ・ビジネスマナーの基本
- ・来客応対・訪問のマナー
- ・電話応対
- ・「ホウ・レン・ソウ」の重要性

**■コミュニケーション入門****\*目標\***

- ・傾聴することができる
- ・周囲の者と積極的に会話することができる
- ・上司, 同僚に相談することができる

**\*内容\***

- ・コミュニケーションのスタートライン
- ・職場のコミュニケーション～周囲の気持ちを理解する
- ・「聴く」スキル＝「傾聴力」のポイント
- ・「訊く」スキル＝「質問力」のポイント
- ・言いたいことをわかりやすく伝えるスキル

**■職員キャリア形成入門****\*目標\***

- ・自分のキャリアを話すことができる
- ・自分のキャリアプランニングを作成することができる
- ・自己管理を行うことができる

**\*内容\***

- ・キャリアとは
- ・個人の特性を把握する
- ・これからの考える ～この2年, 10年を主体的に生きる

**▶受講者の声**

- ・大学人としての自覚が芽生えた。
- ・普段の業務の中ではなかなか感じる事の出来ない自分の目標や意識が改めて明確になった。
- ・ビジネスマナーやコミュニケーションの大切さを再認識することができた。

**▶準備物について**

未定

プログラム番号 I-033

# 大学人・社会人としての基礎力養成プログラム研修（レベルI）第2回 SD

**\*主な対象**

係員相当級の職員

**\*対象校**

SPOD全加盟校

**\*目標**

高等教育機関の職員として一般的に求められている広汎な素養を習得することができる

**\*講師**

SPOD内講師

**\*日時**

10月23日(木)～24日(金)  
(1泊2日)

**\*場所**

愛媛大学会議室

**\*受講定員**

30名

**\*主催**

愛媛大学（教職員能力開発拠点）、SPOD

**\*メー**

要問い合わせ

**\*申込先・問合せ先**

愛媛大学教育企画課  
E-mail : spod@stu.ehime-u.ac.jp

**\*内容\***

・大学人・社会人としての基礎力養成プログラム（レベルI）のうち、3つの研修科目を実施する。（原則として全部受講とするが、部分受講も可。）

**■プレゼンテーション入門****\*目標\***

- ・相手に分かりやすい資料を作成することができる
- ・相手に分かりやすい説明をすることができる

**\*内容\***

- ・プレゼンテーションの基礎
- ・誰でも簡単にプレゼンテーションを成功させるコツ
- ・プレゼンテーション資料の作成
- ・分かりやすい話しの組み立て方
- ・分かりやすい話し方
- ・「ヒアリング」スキルとは？

**■タイムマネジメント論****\*目標\***

- ・上手な時間の使い方を説明することができる
- ・スケジュールの優先順位をつけることができる
- ・業務上の個人・係レベルのスケジュール計画・管理を行うことができる

**\*内容\***

- ・時間管理について
- ・タイムマネジメントの原則
- ・優先順位のつけ方
- ・仕事を円滑に進めるためには？

**■リーダーシップ入門****\*目標\***

- ・リーダーシップ（必要性、スタイル等）について述べるができる
- ・フォロアーシップ（必要性、手法等）について述べるができる
- ・自己の仕事レベルでリーダーシップを発揮することができる
- ・自己の仕事レベルでフォロアーシップを発揮することができる

**\*内容\***

- ・リーダーシップとは
- ・リーダーシップを発揮するための仕事力
- ・リーダーシップを発揮するための人間力

**▶受講者の声**

- ・プレゼンの練習は、少人数で短い時間だったので、とても分かりやすく楽しく学べた。
- ・タイムマネジメント論を受講し、改めて自分の業務について反省し、改善していかうと感じた。
- ・周りが求めるリーダー像について学べた。

**▶準備物について**

未定

プログラム番号 I-032

## 大学人・社会人としての基礎力養成プログラム研修 (レベルⅡ)

SD

### \*主な対象\*

係長・主任相当級の職員

### \*対象校\*

SPOD全加盟校

### \*目標\*

右記参照

### \*講師\*

秋谷恵子, 兒玉直子, ほか  
(愛媛大学)

### \*日時\*

10月上旬  
(1泊2日)

### \*場所\*

愛媛大学会議室

### \*受講定員\*

30名

### \*主催\*

愛媛大学 (教職員能力開発拠点), SPOD

### \*メー切\*

要問い合わせ

### \*申込先・問合先\*

愛媛大学教育企画課  
E-mail: spod@stu.ehime-u.ac.jp

### \*目標\*

・高等教育機関の職員として一般的に求められている広汎な素養を習得することができる。

### \*内容\*

大学人・社会人としての基礎力養成プログラム (レベルⅡ) のうち、2つの研修科目を実施する。(原則として全部受講とするが、部分受講も可。)

### ■コミュニケーション実践

#### \*目標\*

- ・周囲に協力を依頼することができる
- ・複数の部署にまたがる案件を調整することができる
- ・事前調整の必要性を説明することができる
- ・事前調整を行うことができる
- ・適切な部署に報告・連絡・相談することができる
- ・立場の違いや意見の違いを調整することができる
- ・自分の意見を整理し、性格に相手に伝えることができる
- ・適切なクレーム対応の手法を説明することができる
- ・適切なクレーム対応の手法を実践することができる
- ・部課に仕事の必要性・重要性を説くことができる
- ・部課に的確な指示を出すことができる

### ■プレゼンテーション実践

#### \*目標\*

- ・効果的な資料を作成することができる
- ・効果的に説明することができる
- ・論理的に説明することができる

#### \*内容\*

・詳しい内容については、愛媛大学総務部人事課にお問い合わせください。  
詳細は決まり次第、SPODホームページ (<http://www.spod.ehime-u.ac.jp/>) に掲載しますので、ご参照ください。

### ▶受講者の声

- ・すぐに必要となるクレーム対応の知識が身に付いてよかった。
- ・プレゼンテーション時の自分の短所・改善点をチェックしてもらうことができた。

### ▶準備物について

未定



プログラム番号 I-029

## 大学人・社会人としての基礎力養成プログラム研修（レベルⅢ）

SD

### \*主な対象\*

課長，課長補佐相当級の職員

### \*対象校\*

SPOD全加盟校

### \*目標\*

右記参照

### \*講師\*

仲道雅輝，吉田一恵（愛媛大学）

### \*日時\*

7月3日（木）～4日（金）  
（1泊2日）

### \*場所\*

愛媛大学会議室

### \*受講定員\*

30名

### \*主催\*

愛媛大学（教職員能力開発拠点），SPOD

### \*大切\*

要問い合わせ

### \*申込先・問合せ\*

愛媛大学教育企画課  
E-mail : spod@stu.ehime-u.ac.jp

### \*目標\*

- ・高等教育機関の職員として一般的に求められている広汎な素養を習得することができる。

### \*内容\*

大学人・社会人としての基礎力養成プログラム（レベルⅢ）のうち，人材育成論・実践論（育成論）区分3（実践論）区分1，2，大学政策論区分4を実施する。（原則として全部受講とするが，部分受講も可。）

### ■人材育成論・実践論

#### \*目標\*

- ・業務マニュアルの作成指導を行うことができる
- ・職場や仕事の改善を行うことができる
- ・問題解決に向けた交渉・調整を行うことができる

### ■大学政策論

#### \*目標\*

- ・業務目標の進行管理（進捗状況を把握）を行うことができる

#### \*内容\*

詳しい内容については，愛媛大学総務部人事課にお問い合わせください。  
詳細は決まり次第，SPODホームページ（<http://www.spod.ehime-u.ac.jp/>）に掲載しますので，ご参照ください。

### ▶受講者の声

- ・他大学の方との交流や情報交換することができ，参考になる意見を伺うことができた。
- ・問題点改善をグループ→全体で討議するやり方が自分も直接参加できて良かった。

### ▶準備物について

未定



プログラム番号 I-030

## 大学人・社会人としての基礎力養成プログラム研修 (共通科目)

SD

### \*主な対象\*

情報科学応用編「Access」基礎を受講済みの職員、Accessの基礎操作（テーブルの作成、選択クエリの作成、テンプレートによるフォームおよびレポートの作成）ができる職員

### \*対象校\*

SPOD全加盟校

### \*目標\*

右記参照

### \*講師\*

SPOD内講師

### \*日時\*

9月11日(木)～12日(金)  
(会場都合により日程変更の可能性あり)

### \*場所\*

愛媛大学総合メディアセンター  
内演習室

### \*受講定員\*

40名

### \*主催\*

愛媛大学（教職員能力開発拠点）、SPOD

### \*その他\*

要問い合わせ

### \*申込先・問合せ\*

愛媛大学教育企画課  
E-mail : spod@stu.ehime-u.ac.jp

### \*目標\*

・高等教育機関の職員として一般的に求められている広汎な素養を習得することができる。

### \*内容\*

大学人・社会人としての基礎力養成プログラム（共通科目）のうち、情報科学応用編 区分2「Access」を実施する。（原則として全部受講とするが、部分受講も可。）

### ■情報科学応用編「Access」応用

（Microsoft Office Access2013 の活用方法をパソコンを用いた演習を交えて習得します。）

### \*目標\*

- ・テーブルを活用し、リレーションシップの定義ができる
- ・クエリの活用と編集ができる
- ・フォームの活用と編集ができる
- ・レポートの活用と編集ができる

### \*内容\*

- ・データベースの概要
- ・テーブルの活用
- ・リレーションシップと参照整合性
- ・クエリの活用  
関数、フィールドプロパティの設定方法など
- ・アクションクエリの作成
- ・フォームの活用
- ・メイン・サブフォームの作成
- ・メイン・サブレポートの作成
- ・レポートの活用
- ・便利な機能

### ▶受講者の声

- ・今回の研修は、すぐに業務に活かそうと効率よく仕事ができるようになると思う。
- ・実務で使用はしていたが、研修を受けたことで内容の改善に着手できそうである。
- ・大変わかりやすく、スタッフのサポートも良かった。

### ▶準備物について

未定

プログラム番号 T-006

## 若手・中堅職員のための判断力・決断力養成講座

SD

## \*主な対象

自らが若手・中堅職員であると思われる方であればどなたでもOKです！

## \*対象校

SPOD全加盟校

## \*目標

右記参照

## \*講師

仲道雅輝（愛媛大学総合情報メディアセンター教育デザイン室兼教育企画室）

## \*日時

6月26日(木) 13:15～17:00

## \*場所

徳島大学地域・国際交流プラザ  
(通称:日亜会館)

## \*受講定員

60名

## \*主催

徳島大学人事課, SPOD

## \*メモ

要問い合わせ

## \*申込先・問合せ先

徳島大学総務部人事課

E-mail: jinjihosak@

tokushima-u.ac.jp

## \*目的\*

1. 判断力と決断力の違いを説明することができる。
2. 組織の中で判断力・決断力が何のために必要なのかについて、説明することができる。
3. 効果的な判断・決断を行うためのコツを説明することができる。
4. 様々な場面で効果的な判断と決断を下すことができる。

## \*内容\*

判断・決断は、上司や役職者だけが行うものだと思っていませんか。若手・中堅職員でも業務の中で、リーダーとして判断・決断を行う機会が多々あると思います。どのように判断・決断を行っていますか？判断と決断の違いとは何でしょうか？また、判断を速やかに行うには何が必要であり、決断を下すには何をもとに行えば良いのでしょうか？判断や決断が速やかな人は好感を持たれますが、その判断や決断が誤っていると信頼を失います。さらに、賛成者が多い、意見が出ない提案は必ずしも良いことだとは限りません。本セミナーでは、判断力と決断力の違い、それらを効果的に行うために必要な条件を理解した上で、判断・決断を行う場面を設定した上で、実践トレーニングを行うことでスキルの向上を図ります。当日は、レクチャーやグループワーク、ディベートなどを組み合わせ、進めていきます。

## ▶準備物について

筆記用具

## ▶受講者の声

- ・判断力と決断力の違いに気付けて良かった。
- ・ディベートする機会があり、異なる意見に対しても耳を傾けるトレーニングになりました。など

プログラム番号 T-009

## 学務系職員養成プログラム研修(レベルI)

SD

## \*主な対象

現在、学務系業務を担当している係員相当級の職員  
今後、学務系業務に携わる意欲のある係員相当級の職員

## \*対象校

SPOD全加盟校

## \*目標

右記参照

## \*講師

SPOD内講師

## \*日時

7月24日(木)～25日(金)

## \*場所

四国大学本館 大会議室, 第1小会議室

## \*受講定員

各30名

## \*主催

四国大学, SPOD, 愛媛大学(教職員能力開発拠点)

## \*メモ

要問い合わせ

## \*申込先・問合せ先

愛媛大学教育企画課

E-mail: spod@stu.ehime-u.ac.jp

## \*目標\*

- ・高等教育機関の学務系業務担当職員として求められる専門的な素養を習得することができる

## \*内容\*

学務系職員養成プログラム(レベルI)のうち、5つの研修科目を実施する。(原則として全部受講とするが、部分受講も可。)

## ■「対学生コミュニケーション入門」

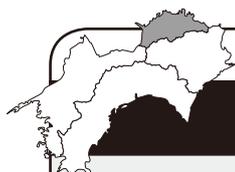
## ■「学生危機管理対応入門」など

## \*内容\*

※受講者募集時の募集要項参照。

## ▶準備物について

未定



プログラム番号 K-017

## 大学職員のための企画力養成講座

SD

### \*主な対象\*

職員

### \*対象校\*

SPOD全加盟校

### \*目標\*

右記参照

### \*講師\*

阿部光伸(愛媛大学教育企画室)・

丸山智子(愛媛大学教育企画室)

### \*日時\*

9月3日(水)13:00~17:00

### \*場所\*

図書館3階閲覧室

### \*受講定員\*

50名

### \*主催\*

高松大学・高松短期大学, SPOD

### \*その他\*

開講日2週間前, 先着順

### \*申込先・問合せ先\*

高松大学・高松短期大学

総務部企画課

E-mail: kikaku@

takamatsu-u.ac.jp

### \*目標\*

- ・問題発見手法を実践できる。
- ・多くの情報をグループ化することができる。
- ・問題解決提案を行うことができる。
- ・企画を効果的にプレゼンテーションすることができる。

### \*内容\*

大学職員に必要な能力として「問題発見・解決能力」がよく取り上げられています。本プログラムは、大学改革、業務改善を行っていく上での、「問題発見・解決能力」と「企画提案力」の手法を学びます。このプログラムで身につけた手法や企画書を実際に職場に持ち帰り、上司や大学に提案できるよう、実践に即したスタイルで行います。

プログラム番号 I-028, I-031

## 職員のための講師養成講座

SD

## \*主な対象

## 【1回目】

- ・説明会、プレゼンテーション等、人前で話すときに自信を持ちたい職員
- ・将来SPOD-SD講師を目指す職員

## 【2回目】

平成22年度～平成26年度職員のための講師養成講座を受講したSPOD加盟校の職員、次世代リーダー養成研修の修了者（1期生・2期生・3期生）

## \*対象校

SPOD全加盟校

## \*目標

右記参照

## \*講師

阿部光伸, 丸山智子（愛媛大学）

## \*日時

1回目:6月12日(木)～13日(金)

2回目:9月18日(木)～19日(金)

## \*場所

愛媛大学会議室

## \*受講定員

20名

## \*主催

愛媛大学（教職員能力開発拠点）、SPOD

## \*メ切

要問い合わせ

## \*申込先・問合せ

愛媛大学総務部人事課

E-mail: jinshoku@stu.

ehime-u.ac.jp

## \*目標\*

- ・SPOD-SD講師としての心構えを持つことができる
- ・研修プログラムをデザインすることができる
- ・研修技法を述べることができる

## \*内容\*

## 【1回目】

講師として総合的に必要な心構え、知識、技法について研修を実施する。

## \*内容\*

- ・研修講師の役割と心構え
- ・研修プログラムデザイン
- ・レッスンプラン作成
- ・インストラクションの技術
- ・研修技法
- ・インストラクション演習

## 【2回目】

大学人・社会人としての基礎力養成プログラム（レベルⅠ）の講師をすることに特化したマイクロティーチングを実施する。

※マイクロティーチングとは、教え方を学ぶ方法で、少人数で順番に短時間の講義とフィードバックを繰り返しながら、講義・説明・プレゼンのスキルアップを行う研修。教える技術だけでなく、学習者心理を経験し、フィードバック法を学ぶ。

## ▶準備物について

未定

## ▶受講者の声

- ・人前で話す際の注意・技術を学ぶことができた。
- ・人前で話すことの苦手意識が薄れた。
- ・人前で話すことに対する不安感がだいぶなくなり、少し自信がついた。



プログラム番号 Y-011

New!!

## 職員が輝く SD の実践事例

SD

**\*主な対象**

SDを担当する職員

**\*対象校**

SPOD全加盟校

**\*目標**

右記参照

**\*講師**阿部光伸(愛媛大学教育企画室),  
丸山智子(愛媛大学教育企画室)**\*日時**

6月10日(火)13:30~16:30

**\*場所**

高知大学(教室は未定)

**\*受講定員**

25名程度

**\*主催**

高知大学総務部人事課

**\*メー**

要問い合わせ

**\*申込先・問合せ先**高知大学  
総務部人事課労務管理係  
E-mail : kj08@kochi-u.ac.jp**\*目的\***

- 1) 職場における能力開発の意義について説明できる。
- 2) 職場における能力開発の3類型を説明できる。
- 3) 職場において必要な能力を説明できる。
- 4) SPOD及び他大学の取組を説明できる。

**\*内容\***

各大学で実施されている人材育成の取組をワークショップ形式で情報交換することにより、問題点や課題を整理し、自大学における人材育成ビジョンを構築する手法を学ぶ。また、継続してSD研修(自己啓発、OJT含)を実施するマネジメント手法を学ぶ。

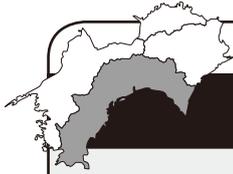
**▶準備物について**

自大学の「建学の精神・理念等が記載されているパンフレット」及び自大学・自部署の業務・目標が分かる「業務分掌」「中長期計画」等資料(各1部)



# プレFDプログラム

(大学院生対象)



プログラム番号 Y-008, Y-010

## TA講習

プレFD

### \*主な対象\*

2014年度第二学期および2015年度第一学期にTA、SA、FTを担当予定の学生および将来担当希望の学生

### \*対象校\*

SPOD全加盟校

### \*目標\*

右記参照

### \*講師\*

立川明(高知大学総合教育センター)

### \*日時\*

2014年9月30日(火)13:30~17:30

2015年3月30日(月)13:30~17:30

### \*場所\*

2014年9月30日(火)

高知大学農学部

2015年3月30日(月)

高知大学共通教育棟3号館1階310教室

### \*受講定員\*

TA担当予定の高知大生は制限無し

### \*主催\*

高知大学総合教育センター大学教育創造部門

### \*メ切\*

開講日1週間前

### \*申込先・問合せ先\*

高知大学学務部学務課

E-mail : y-spod@kochi-u.ac.jp

### \*目標\*

TAを担当する上で注意すべき事が3つ言える。

TAの職務内容を3つ説明できる。

ホウ・レン・ソウの重要性が分かる。

### \*内容\*

・グループ作り

・アイスブレイキング

・事務手続きについて（説明）

・TAとしての心得・注意点等（説明とグループワーク）

・職務内容（説明）

・社会人としての心得、ホウ・レン・ソウの重要性

・ふりかえり

プログラム番号 Y-009

# ファシリテーション力養成道場

ブレFD

## \*主な対象

話し合いの質を高めたい学部生・院生、実際の授業でファシリテーターを経験したい学生

## \*対象校

SPOD全加盟校

## \*目標

1. ファシリテーターらしい言動について自分の言葉で説明できる。
2. 話し合いのコンテンツとプロセスを区別できる。
3. 話し合いの場のデザインのポイントを挙げられる。
4. 意識的に傾聴と質問ができる。
5. 話し合いの時にボードの横に立つことができる。
6. ファシリテーションについてさらに勉強しようと思える。

## \*講師

俣野秀典・塩崎俊彦  
(高知大学総合教育センター)

## \*日時

2月中

## \*場所

未定

## \*受講定員

36名

## \*主催

高知大学コラボレーション・サポート・パーク

## \*メー切

開講日1週間前、先着順

## \*申込先・問合せ先

高知大学学務部学務課  
E-mail : y-spod@kochi-u.ac.jp

本プログラムは、ファシリテーションの考え方を知り、必要最低限の知識・技術を習得することにより、話し合いのファシリテーションを実践できるようになることを目的に開催されます。

ミニレクチャーとワークを交互に織り交ぜながら進みますので、参加者全員がファシリテーションを体感することができます。

## \*内容\*

### 1日目

1. オープニング：趣旨の理解／アイスブレイク
2. FT（ファシリテーション）の考え方と基本を身につけるⅠ
3. FTの考え方と基本を身につけるⅡ
4. グループプロセスを観察する

### 2日目

1. アイスブレイク～模造紙にイロイロ書いてみよう
2. FG（ファシリテーション・グラフィック）の基本を身につける
3. FGのための図解の方法と板面の使い方
4. 総合演習

## ▶参考資料

畠中智子（2008）『つぶやきの育て方』南の風社  
堀公俊（2004）『ファシリテーション入門』日経文庫

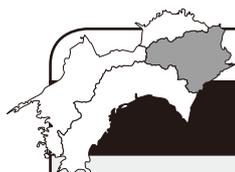
## ▶参加者の声

- ・難しい内容かと思って構えていましたが、2日とも楽しく仲良く過ごせました。
- ・学んだことをすぐに体験しながら行うスタイルが良かったです。
- ・想像していたよりはるかに楽しく、何倍もためになると思った。
- ・新しい発見がたくさんありました。これからの生活などに必ず役立つと思う。
- ・何よりも楽しい要素が多かった。かつ、悩めた。
- ・いままでの話し合いの方法と全く違う方法で、うまく話し合いができるということを知った。
- ・基礎的なことを学べたことは非常に満足ですが、これからの努力がもっと必要だと感じました。





# 総合プログラム



プログラム番号 T-005

# 大学教育カンファレンス in 徳島

FD/SD

## \*主な対象\*

教職員、学生、一般市民

## \*対象校\*

SPOD加盟校、その他高等教育機関

## \*目標\*

特色ある授業実践・授業改善例や学生支援、FD・SDの実践例を発表し、教育改善に生かすためその情報を共有する。

## \*発表者\*

教職員、学生

## \*日時\*

年（度）末（12月～1月の間の1日を予定しているが、詳細は未定）

## \*場所\*

徳島大学 大学開放実践センター 1階講義室等

## \*受講定員\*

特になし

## \*主催\*

徳島大学、FD委員会、四国地区大学教職員能力開発ネットワーク

## \*メッセ\*

要問い合わせ

## \*申込先・問合せ\*

徳島大学  
総合教育センター  
E-mail: t-spod@cue.  
tokushima-u.ac.jp

## \*内容\*

- ・特色ある授業実践例や授業改善例の発表と意見交換
- ・FD・SD実践例の口頭発表・ポスター発表と意見交換
- ・ワークショップによる模擬授業
- ・ラウンドテーブルによる課題の共有と意見交換
- ・教育・FD・SDに関する特別講演

## ○開催概要

- ・1年間の教育活動を総括する場で、四国の高等教育機関で行なわれている教育実践の先駆的な取り組みを共有し、大学教育の質的向上に向けた努力の成果を確認することを目的に開催する。
- ・各プログラムでは、各大学・部局における特色ある授業実践例や授業改善例などの報告・討議が行われ、その場で担当者と質疑応答ができ、より詳しい情報収集をすることができる。
- ・発表の形式には、口頭発表、ポスター発表があり、学外からの発表もできる。また、学生も発表筆頭者となることできる。
- ・特別講演として、昨年は、同志社大学PBL推進支援センター長の山田和久教授による講演が「PBL (Project-Based Learning) の学習効果と質的向上を目指して一同志社大学プロジェクト科目（公募制・教養教育）の試みから」と題して行われた。また、ラウンドテーブル形式による発表のテーマは、「徳島県内の高等教育機関におけるアクティブ・ラーニングの取り組み」、話題提供者として、学外から2名（鳴門教育大学の山森直人准教授、阿南工業高等専門学校長の長谷川竜生准教授）と、本学の大学開放実践センターの金西計英教授の3名により行った。それぞれの発表のあと全体での質疑応答があった。このように、1日を通してさまざまな形態のプログラムが実施され、高等教育に関する情報交換が行われる。

## ○研究発表について（2014年度）

- ・発表者は、常勤・非常勤を問わず、SPOD加盟校の教職員・学生・院生から募集する。
- ・発表内容：全学共通(教養)教育、学部専門教育、大学院教育、公開講座等の授業に関わるもの、また、職員や学生の能力開発に関わるものであること。教育改善・授業改善や、職能開発に関する実践報告にとどまらず、実践成果の評価の分析、および考察を含む発表を歓迎する。

## ▶準備物

特になし。当日、発表抄録の配布あり。



【研修風景】（2013年度大学教育カンファレンスin徳島より）

## ▶参加者の声（2013年度大学教育カンファレンスin徳島より）

- 今の大学教育の現状を知ることが出来た。
- 豊富な実践報告により、具体的なイメージがふくらみました。
- 他大学の方が多く参加されていて刺激になりました。
- 学生の教養課程の学習過程を知ることが出来ました。専門教育との連携、どう活かすかという事を考えさせられました。

プログラム番号 I-035

## 愛媛大学教育改革シンポジウム

FD/SD

## \*主な対象

愛媛大学の教育内容・方法の改善について興味を持っている教職員、学生等

## \*対象校

SPOD 全加盟校

## \*目標

ポスターセッションでの質疑応答や講演の傍聴を通じ、現在、愛媛大学で進めている教育内容・方法の改善に関する取組について理解を深める。

## \*講師

愛媛大学教員（愛大GP取組担当者）

## \*日時

3月中

## \*場所

愛媛大学城北キャンパス

## \*受講定員

特になし。入場自由。

## \*主催

愛媛大学教育改革諮問委員会

## \*大切

要問い合わせ

## \*申込先・問合先

愛媛大学教育企画課  
E-mail : spod@stu.ehime-u.ac.jp

## \*内容\*

愛媛大学では、平成18年度から、学内での優れた教育取組に支援を行う「教育改革促進事業」（愛媛大学GP）を行っており、採択取組の進捗状況と成果について情報発信することを目的に、毎年「教育改革シンポジウム」を開催しています。主に、採択取組のポスターセッションと講演を中心に行っており、特にポスターセッションでは、その場での質疑応答を通じて、取組担当者の生の声をきくことができます。



## ▶参考：愛媛大学GPとは

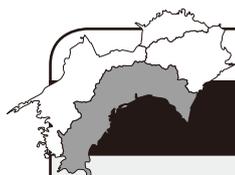
愛媛大学における優れた教育改革の取組を取り上げ、教育経費の重点配分を行い、教育の高度化・活性化を図る事業。学士課程及び大学院課程における組織基盤的な教育改革プログラムや組織横断的な教員グループによる創生的な教育開発プロジェクトを学内から公募。事業期間は2年間で、毎年10件程度の取組を採択。採択された取組の中には、さらに内容を発展させ、文部科学省のGPに応募、採択された例もある。

## ▶参考資料

平成25年度 採択プログラム・プロジェクト名	
理 学 部	理学部アクティブラーニングスペース活用による学士汎用能力育成の取組み
理 学 部	大型望遠鏡を利用した観測天文学実習の推進
医 学 部	愛媛大学の医学教育ミッションに基づいた準正課教育の充実と拡充
工 学 部	学部専門教育における文章作成の実践的演習と追跡評価システムの構築
附 属 高 校	大学生、高校生、中学生が共に学びあう中高大連携システムの構築 ～ピア・サポートを活用した進路指導システム～
教 育 学 部	伝統の継承プログラムを通じたグローバルマインドの育成
教 育 学 部	重症心身障害児に適切に対応できる特別支援教育教員養成カリキュラムの開発 －医療的ケアを中心とした学際的知識・技能の養成－
工 学 部	教養英語に接続するESPに基づいた革新的工学英語教育プログラムの開発 －共通教育英語教員と工学部教員および工学部母語英語教員との協働－
農 学 部	学士課程における国際的に通用する安全衛生教育プログラム及び教育法の開発
学生支援センター	愛大学生コンピテンシーの涵養に向けた「正課外活動」教育支援の推進

## ▶受講者の声

- 事例発表が参考になり、色々な可能性を自分で考えることができました。
- 学部学科を越えて取り組みを知ることができるのが、とてもよかったです。
- 共通教育と専門教育との連動性があり、一貫した教育につながられると思った。



# SPOD フォーラム 2014

FD/SD

## \*主な対象

教育改善に関心のある教職員

## \*対象校

SPOD 全加盟校

## \*日時

8月27日(水)～29日(金)

## \*場所

高知大学朝倉キャンパス

## \*主催

四国地区大学教職員能力開発ネットワーク (SPOD),  
愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室 (教職員能力開発拠点), 高知大学

## \*問い合わせ先

四国地区大学教職員能力開発ネットワーク事務局 (愛媛大学教育学生支援部教育企画課)  
TEL 089-927-9154  
E-mail : spod@stu.ehime-u.ac.jp

## SPODフォーラムは…

大学等の教職員が自らの能力開発のために役立つ、多種多様で質の高いFD/SDプログラム、ならびに組織を超えた持続的な相互交流・関係づくりの場を提供します。

## 【SPODフォーラムの特徴】

### 特徴1. 多彩な講師陣

先進的な教育改革で知られる大学のトップ、各大学のFDやSDの第一線で活躍する教職員やディベロッパー、職場の人材育成・能力開発分野で活躍するプロフェッショナルなど、多彩かつ魅力的な講師陣をそろえます。

### 特徴2. 職場で使える実践型プログラム

講師と受講者の間でのインタラクティブなワークショップ形式のプログラムを数多く開講します。参加者には意見を出し合い、知を共同で作り上げることが求められると同時に、職場ですぐに使える実践的なノウハウを持ち帰ることができます。

### 特徴3. SDプログラムも多数開講

SPODでは、FD (教員の能力開発) 同様にSD (職員の能力開発) に力を入れており、他では体験できないプログラムを数多く開講します。

## 【SPODフォーラム 2014 のテーマ】

大学が大きく変わろうとしている節目にあって、“気づき”と“振り返り”の重要性が注目されています。学習成果や教育業績、業務実績の向上のためのポートフォリオも、より質の高い“振り返り”とそれによって得られる“気づき”をもとにして次のステップをめざすという考え方のもとに普及しつつあります。

SPODフォーラム 2014 では、シンポジウムや関連プログラムをはじめ、多彩な研修プログラムを通じて、参加者に“気づき”と“振り返り”の場を提供し、学生、教職員の成長、ひいては大学・短期大学・高等専門学校の組織としての成長を確かなものとしていくことをめざしています。

最新情報は、WEB で随時更新していきますので、ご確認ください (昨年同様、WEB 上のみでの申込みを予定)

<http://www.spod.ehime-u.ac.jp/>





# 学内向け研修プログラム

# 学内向け研修プログラム

## 徳島大学

総合教育センター TEL : 088-656-9865 FAX : 088-656-9865  
E-mail : t-spod@cue.tokushima-u.ac.jp 担当者 / 吉田

研修名	対象者	開催時期	目的・内容
授業コンサルティング	「授業設計ワークショップ」受講者+希望者	随時	総合教育センターの教員が中心となり授業改善のためのコンサルティングを行う。方法としては、授業参観(ビデオ録画・学生アンケートを含む)を行い、それらのデータをもとに授業記録を作成し、授業研究会を行う。学部FD委員会と共催で開催する。

※ここに記載されているプログラムは、他大学の方は参加できませんので、ご了承下さい。なお、詳細については各大学にお問い合わせ下さい。

## 鳴門教育大学

経営企画本部 人事課 人事労務チーム TEL : 088-687-6265 FAX : 088-687-6072  
E-mail : jinji@naruto-u.ac.jp 担当者 / 林

研修名	対象者	開催時期	目的・内容
新任職員研修	新規採用者(教職員)	4月上旬	新任職員に対し、本学の中期目標・中期計画を基に本学が達成すべき諸課題等について研修を行い、本学の職員として必要な基礎的知識を養うことを目的とする。
放送大学研修	事務系職員	第1学期：4月上旬～ 第2学期：10月上旬～	長期的な視点から業務への活用効果も考慮に入れた上で、選択した放送大学の授業科目を本学の事務系職員に履修させることにより、職務遂行に必要な幅広い知識を身に付けさせ、職員としての資質の向上を図ることを目的とする。

※ここに記載されているプログラムは、他大学の方は参加できませんので、ご了承下さい。なお、詳細については各大学にお問い合わせ下さい。

## 香川大学

教育・学生支援室 修学支援グループ TEL : 087-832-1153 FAX : 087-832-1155  
E-mail : gakusenm4@jim.ao.kagawa-u.ac.jp 担当者 / 石井

研修名	対象者	開催時期	目的・内容
放送大学研修	事務系・技術系職員	第1学期：4月上旬～ 第2学期：10月上旬～	職務の遂行に必要な最新の知識の習得及び幅広い視野と見識を養うことによって、職員の資質の向上を図ることを目的とする。
新任教員研修会	新規採用者(全学教員)	4月中旬	本学の新任教員を対象に、国立大学法人を取り巻く諸情勢と本学の今後の課題及び大学教育等について、理解を深めることを目的とする。
全学共通教育の平成27年度実施に向けた研修会	全教員(特に平成27年度全学共通教育担当予定の教員)	12月上旬	全学共通科目担当にあたって、第1部では全学共通教育における現状と課題を把握し、現在取り組んでいる事業及び事務的な手続について知る。第2部では、各分科会に分かれ、授業改善に関する具体的な事例紹介と設定したテーマについての意見交換を行い、全学共通教育に関する理解を深める。

※ここに記載されているプログラムは、他大学の方は参加できませんので、ご了承下さい。なお、詳細については各大学にお問い合わせ下さい。

## 愛媛大学

教育学生支援部 教育企画課 能力開発室 TEL : 089-927-8922 FAX : 089-927-8922  
E-mail : info@iec.ehime-u.ac.jp 担当者 / 猪崎, 秋山

研修名	対象者	開催時期	目的・内容
新任教職員研修	新規採用者(教職員)	4月2日(水)～3日(木)	新たに採用になった教職員に対し、本校職員としての使命と心構えを自覚させるとともに、業務遂行に必要な基礎知識、能力及び資質等を養成することを目的とする。
放送大学研修	事務系・技術系職員	第1学期：4月上旬～ 第2学期：10月上旬～	放送大学の授業受講を通じて職務遂行に必要な知識を修得させ、その資質の向上を図ることを目的とする。
有期契約職員研修	有期契約職員(事務系)	4月下旬	新たに採用になった有期契約職員(事務系)に対し、本学職員としての使命と心構えを自覚させるとともに、業務遂行に必要な基礎知識、能力及び資質等を養成することを目的とする。
英語研修	教職員, 有期契約職員	前期：5月上旬～ 後期：11月上旬～	職員の英語によるコミュニケーション能力の向上を図ることを目的とする。
会計系実務研修	事務系職員(主に会計系以外)	7月下旬	大学改革の推進等により、大学の会計系事務も複雑多岐にわたることから、会計系TL等が講師となり、担当チームの事務分掌等について講義することにより、本学事務系職員に会計系事務の必要な知識を修得させるとともに、事務系職員のプレゼンテーション能力の向上を図ることを目的とし、職員相互の意識及び資質の向上を図る。

総務系実務研修	事務系職員 (主に総務系以外)	9月上旬	大学改革の推進等により、大学の総務系事務も複雑多岐にわたることから、総務系TL等が講師となり、担当チームの事務分掌等について講義することにより、本学事務系職員に総務系事務の必要な知識を修得させるとともに、事務系職員のプレゼンテーション能力の向上を図ることを目的とし、職員相互の意識及び資質の向上を図る。
研究支援・社会連携・国際連携系実務研修	事務系職員 (主に研究支援・社会連携・国際連携系以外)	11月下旬	大学改革の推進等により、大学の研究支援・社会連携・国際連携系事務も複雑多岐にわたることから、研究支援・社会連携・国際連携系TL等が講師となり、担当チームの事務分掌等について講義することにより、本学事務系職員に研究支援・社会連携・国際連携系事務の必要な知識を修得させるとともに、事務系職員のプレゼンテーション能力の向上を図ることを目的とし、職員相互の意識及び資質の向上を図る。
人権啓発研修	教員及び事務系職員	12月中	教職員に対し、人権問題についての正しい認識を養うとともに、人権侵害を防止し、より一層快適な教育環境及び職場環境を整えることを目的とする。
教育学学生支援実務研修	事務系職員 (主に学務系以外)	12月上旬	大学改革の推進等により、大学の学務系事務も複雑多岐にわたることから、学務系TL等が講師となり、担当チームの事務分掌等について講義することにより、本学事務系職員に学務系事務の必要な知識を修得させるとともに、事務系職員のプレゼンテーション能力の向上を図ることを目的とし、職員相互の意識及び資質の向上を図る。
愛媛大学TA・SA研修会	TA・SAを活用する教員及び新TA・SA採用予定者	4月9日(水)	TA・SAの心構えや業務に就く際の注意事項を学び、わかりやすく教える技術を習得することを目的とする。
教育コーディネーター研修会	各学部の教育コーディネーター	年5回程度	教育コーディネーター間での意思疎通を図り、教育改革の方向性について共通認識を持つことを目的としている。研修会テーマは毎回、全学的かつ重要な教育課題となるものを採りあげている。

※ここに記載されているプログラムは、他大学の方は参加できませんので、ご了承下さい。なお、詳細については各大学にお問い合わせ下さい。

<b>高知大学</b> 学務部学務課 TEL: 088-844-8652・8140 FAX: 088-844-8367 E-mail: y-spod@kochi-u.ac.jp 担当者/武内, 石川			
研修名	対象者	開催時期	目的・内容
全学新任教職員研修	新規採用の教職員	4月上旬	新たに採用になった教職員に対し、本学職員としての使命と心構えを自覚させるとともに、業務遂行に必要な基礎知識、能力及び資質等を養成することを目的とする。
新任職員研修	新規採用の事務職員(施設系技術職員含む)	4月下旬	新たに採用となった事務職員に対し、本学の理念・目標など大学運営の基礎となる事項について理解させるとともに、新規採用職員として業務遂行に必要な基本的知識を習得させる。
放送大学研修	附属学校教員、看護師等医療職員、事務職員(技術職員含む)	第1学期 4月上旬～ 第2学期 10月上旬～	本学職員に対し、自己啓発意欲の高揚と能力開発のために、放送大学の授業科目を受講して自己研鑽を行う機会を与えることにより、大学職員としての資質の向上を図る。
語学研修 (英語、中国語)	窓口業務など職務上外国語能力を必要とする職員等	未定	語学力の向上を図るとともに、国際感覚を養う。
パソコン研修	パソコンのスキルアップを希望する職員	未定	スキルアップの機会を提供し、日常業務の効率化に繋げることを目的とする。
事務職員研修報告会	全事務職員	各部(課) 随時 全学主催 12月	事務職員を対象に、研修受講者の発表能力(プレゼンテーション)の向上、受講しなかった者への情報提供等を目的とする。
学務系初任者研修	学務部(学務経験者を除く)に新たに勤務することになった職員	5月	学務をめぐる諸課題と学務部業務全般に関わる基礎的知識を習得させることを目的とする。

学務系事務実務研修	学務部職員	年度内数回	学務関係の学外研修において得た情報や最新の学務をめぐる情報などの共有を図るとともに、講師となった学務部職員のプレゼンテーション能力の向上を図ることを目的とする。
研究国際部 SD研修会	研究国際部 職員	年度内数回	研究国際部職員の幅広い知識を習得するとともに職員の連携を図ることを目的とする。
フィールド技術室 勉強会	フィールド 技術職員	毎月一回	フィールド技術職員の技術の継承、資質の向上。職員がテーマを決め持ち回りで発表を行う形式で行う。

※ここに記載されているプログラムは、他大学の方は参加できませんので、ご了承下さい。なお、詳細については各大学にお問い合わせ下さい。

## 四国大学・四国大学短期大学部

総務・企画部総務課 TEL:088-665-9900 FAX:088-665-8037  
E-mail:soumu@shikoku-u.ac.jp 担当者/大恵

研修名	対象者	開催時期	目的・内容
新規採用教職員研修	新規採用者 (教職員)	4月上旬	本学教職員としての心構え並びに勤務にあたってこれからの教育や職務に対する必要な知識等を習得することを目的とする。
ポートフォリオ研修会	全教職員	4月・9月・ 2月	ポートフォリオシステムの更なる周知、徹底を図り、利用促進に繋げることを目的に実施する。
就業力育成セミナー	全教職員	8月	学生への「就業力育成」に関する意識の向上やノウハウを学ぶことを目的に実施する。
パソコン研修	教職員	8月・9月	情報セキュリティ対策の研修、ワード、エクセル等の練習問題に取り組みながら様々なテクニックを確認し、事務処理能力を向上していくことを目的とする。
大学事務運営懇話会	職員	9月	事務を本務とする職員が自らの研修と情報交換を行うことで、大学職員としての資質向上を図ることを目的とする。
人権啓発問題研修会	教職員	9月中旬	人権尊重の徹底と人権啓発の充実及び人権への意識を高めることを目的とする。
キャリア相談研修会	全教職員	9月・2月	学生のキャリア相談に応じる力量を向上させることを目的に実施する。
ハラスメント研修会	教職員	2月	セクハラ、アカハラ、パワハラについての認識を深めるとともに、修学、教育研究、就労上のすべてのハラスメントの防止及び排除することを目的とする。
教育問題懇話会	教職員	未定	これからの教育諸問題に対する適切な対応や指導の在り方についてお互いに意見交換を行い、解決策を探っていく。
外国語研修	職員	9月・2月	大学の国際化に対応し、職員の外国語によるコミュニケーション能力を向上させることを目的に実施する。
部門別職員研修	職員	9月	職員としての専門性を高めるため、自大学において開発した研修プログラムにより、各部門における業務理解や自大学理解に繋げ、職員の能力向上を目的として実施する。

※ここに記載されているプログラムは、他大学の方は参加できませんので、ご了承下さい。なお、詳細については各大学にお問い合わせ下さい。

## 徳島文理大学・徳島文理大学短期大学部

教育・研究支援グループ TEL:088-602-8670 FAX:088-602-8781  
E-mail:kyokeng@tokushima.bunri-u.ac.jp 担当者/新見

研修名	対象者	開催時期	目的・内容
新任教職員研修会	新任教職員	4月4日(金)	新任教職員に対し、本学の教職員としての使命と心構えについて自覚させるとともに、服務及び学務について理解させ、業務遂行に必要な基礎知識と能力等を養成することを目的とする。
研究授業	全教員	前期及び後期	授業改善を目的とし、教員相互の授業参観を実施する。
防災研修・避難訓練	全教職員・ 全学生	12月初旬	火災・地震・津波に対応する知識の習得、防災担当の役割等の研修を通して災害時の対応の仕方を身につけることを目的とする。

セクシャルハラスメント防止研修会	全教職員	2月中旬	セクシャルハラスメント防止の講演会を開催する。
学内人権教育研修会	全教職員	2月中旬	人権教育の視点から、講演会を開催する。
AED（自動体外式除細動器）講習会	全教職員	2月下旬	救急体制強化のためのAED講習会を開催する。

※ここに記載されているプログラムは、他大学の方は参加できませんので、ご了承下さい。なお、詳細については各大学にお問い合わせ下さい。

高松大学・高松短期大学			
総務部企画課 TEL: 087-841-2164 FAX: 087-841-3064 E-mail: kikaku@takamatsu-u.ac.jp 担当者/大芝			
研修名	対象者	開催時期	目的・内容
新任教職員研修	新規採用者(教職員)	4月1日	新たに採用になった教職員に対し、本学職員としての使命と心構えを自覚させるとともに、業務遂行に必要な基礎知識、能力及び資質等を養成することを目的とする。
F D 研修会	専任教員、非常勤講師	9月中旬、2月中旬	全教員を対象に、本学における教育の現状と課題について理解を深め、具体的な対策を講じることを目的に、年2回実施する。
研究授業	専任教員、非常勤講師	6月、12月	授業の改善のために、各学部、学科で年2回研究授業を実施する。授業後には検討会を行い、互いの授業改善に活かすことを目的とする。
S D 研修会	専任職員	8月上旬・1月上旬	活気のある事務局づくりを目指し、大学職員としての意識、知識、資質向上を目的に、年2回実施する。
放送大学研修	専任職員	第1学期: 4月上旬~ 第2学期: 10月上旬~	放送大学の科目を履修することで、職員の資質向上及び自己啓発を目的とする。

※ここに記載されているプログラムは、他大学の方は参加できませんので、ご了承下さい。なお、詳細については各大学にお問い合わせ下さい。

聖カタリナ大学・聖カタリナ大学短期大学部			
学生部教務課 TEL: 089-993-1082 FAX: 089-993-0900 E-mail: kyoumuka@catherine.ac.jp 担当者/矢野			
研修名	対象者	開催時期	目的・内容
新任教員研修	新規採用者(教員)	4月2日(水)	新たに採用になった教員に対して、本学教員としての使命と心構えを自覚させるとともに、本学の建学の精神、教育理念、業務遂行に必要な基礎知識を養成することを目的とする。
F D 研修会	専任教員	未定	全専任教員を対象に、授業・教授法の改善、カリキュラム改善、組織の整備・改善等、更なる教育力向上を図ることを目的として実施する。
事務職員研修会	事務職員	8月、12月	時宜に応じたテーマの選定により、事務職員として必要な知識、情報、技術の習得を図る。また、学外研修において得た知識や情報の報告を行うことにより、その共有化を図るとともに、報告者のプレゼンテーション能力の向上を図る。

※ここに記載されているプログラムは、他大学の方は参加できませんので、ご了承下さい。なお、詳細については各大学にお問い合わせ下さい。

松山東雲女子大学・松山東雲短期大学			
TEL: 089-931-6211 FAX: 089-934-9055 E-mail: tnaka@shinonome.ac.jp 担当者/中島			
研修名	対象者	開催時期	目的・内容
新任教職員研修	新規採用者(教職員)	4月2日(水)	新任教職員に対し、本学の建学の精神、学園の沿革および教育体制等について理解を深める。
F D 研修会	教職員	年2回	全教職員を対象とし、外部の講師を招いて、ワークショップ形式の研修会を開催する。
S D 研修会	事務職員	8月・3月	事務職員の能力向上を目的とする。

※ここに記載されているプログラムは、他大学の方は参加できませんので、ご了承下さい。なお、詳細については各大学にお問い合わせ下さい。

## 今治明德短期大学

TEL : 0898-22-7279 FAX : 0898-22-7857  
E-mail : smori@meitan.ac.jp 担当者/原

研修名	対象者	開催時期	目的・内容
H26年度新任教職員研修会	新任教職員	4月初旬	本学に対する理解を深め、教職員としての自覚を醸成する。
大学職員のICT入門	全教職員	5月	昨年に続き、職務遂行に必要なICT技術を学ぶ。
公開授業	全教員	6～7月	学科から選出された授業を公開し、参観後にディスカッションして、授業の質の向上に繋げる。
学内FD研修会	全教員	9月	学外のSPOD講師による、教育方法の改善を目的とした研修をおこなう。
学生に対する授業評価	全学生	7月	在学生に対して、授業の満足度調査をおこない、授業の質の向上に繋げる。
卒業生に対する授業評価	2年生	H27年3月	2年生に対し、卒業直前に満足度調査をおこない、授業の質の向上に繋げる。

※ここに記載されているプログラムは、他大学の方は参加できませんので、ご了承下さい。なお、詳細については各大学にお問い合わせ下さい。

## 環太平洋大学短期大学部

総務課 TEL : 0895-22-0274 FAX : 0895-22-0274  
E-mail : fujita@aitan.ac.jp 担当者/藤田

研修名	対象者	開催時期	目的・内容
新任教職員研修	新規採用者(教職員)	4月上旬	新任教職員を対象に、本学の建学の精神・学園の沿革及び教育体制等について理解を深め、業務遂行の基礎知識を習得することを目的とする。
FD研修会	全教員	9月中旬～下旬頃	全教員の資質向上を図ることを目的とし、「学生の学び意欲を引き出す授業」に関する研修を行う。

※ここに記載されているプログラムは、他大学の方は参加できませんので、ご了承下さい。なお、詳細については各大学にお問い合わせ下さい。

## 阿南工業高等専門学校

総務課 TEL : 0884-23-7212 FAX : 0884-22-5424  
E-mail : s-hosasoumu@anan-nct.ac.jp 担当者/天羽

研修名	対象者	開催時期	目的・内容
新任教員研修	新任教員	4月	本校の目的や当面する諸課題等について研修を行い、本校の教員として必要な基礎的知識を養うことを目的とする。
夏季教員研修会	全教員	9月下旬	教員の資質向上を目的として、年2回、時機にあったテーマを選び、講演会・分科会・ワークショップ等の形式による研修会を実施する。
冬季教員研修会	全教員	11月下旬	

※ここに記載されているプログラムは、他大学の方は参加できませんので、ご了承下さい。なお、詳細については各大学にお問い合わせ下さい。

## 香川高等専門学校

総務課 TEL : 087-869-3864 FAX : 087-869-3819  
E-mail : s-hosa@t.kagawa-nct.ac.jp 担当者 / 笹嶋

研修名	対象者	開催時期	目的・内容
新任教員研修	新任教員	4月・6月・10月	本学の新任教員に対して、教員としての心構えを自覚させるとともに、学校運営上必要な基礎知識の習得及び資質の向上を図ることを目的とする。
FD・SD研修会	全教職員	9月	香川高専の課題とその対応を討議することにより、全教職員がそれらを共有する機会とすることを目的とする。
事例から見た、学生・保護者から信頼される高専教育	全教職員	9月	裁判事例をふまえて教育現場の観点から信頼される高専教育のあり方を確認し、各高専における信頼される教育活動を全学的に行うための検証・支援方法について考えることを目的とする。
教育実践事例報告会	全教職員	未定	学生の教育意欲を増進させる教育実践事例や創意工夫などFDに寄与する事項を公開することにより、教職員のFDに対する意識高揚を目的とする。
ハラスメント防止講習会	全教職員	未定	ハラスメント事案が発生した場合の対応や再発防止措置を実施するための講演会を開催する。

※ここに記載されているプログラムは、他大学の方は参加できませんので、ご了承下さい。なお、詳細については各大学にお問い合わせ下さい。

## 弓削商船高等専門学校

学生課教務係 TEL : 0897-77-4620 FAX : 0897-77-4693  
E-mail : kyoumu@yuge.ac.jp 担当者 / 衣川、篠原

研修名	対象者	開催時期	目的・内容
新任教職員研修	新規採用者(教職員)	4月1日(火)	新たに採用になった教職員に対し、本校教職員としての使命と心構えを自覚させるとともに、業務遂行に必要な基礎知識、能力及び資質等を養成することを目的とする。
担任教員に求められること ～担任スキル開発ワーク～	全教員	6月5日(木)	担任教員に求められるスキル(学生との接し方、自殺や不登校およびいじめのサイン、教育連携の方法、保護者対応、学生関係校務)を共有するケーススタディにより開発することを目的とする。

※ここに記載されているプログラムは、他大学の方は参加できませんので、ご了承下さい。なお、詳細については各大学にお問い合わせ下さい。

## 高知工業高等専門学校

総務課 TEL : 088-864-5601 FAX : 088-864-5606  
E-mail : s-hosa@jm-kochi-ct.ac.jp 担当者 / 三宮

研修名	対象者	開催時期	目的・内容
新任教職員研修	新規採用者(教職員)	採用時	新たに採用になった教職員に対し、本校教職員としての使命と心構えを自覚させるとともに、業務遂行に必要な基礎知識、能力及び資質等を養成することを目的とする。
放送大学研修	教職員	1学期・2学期	放送大学高知地域学習センターの協力のもとに、職務遂行に必要な幅広い知識及び視野、基本的な社会知識を習得させ、教職員の資質の向上を図ることを目的とする。
ハラスメント防止講習会	教職員	12月上旬	職場におけるハラスメント防止に対する正しい理解と学生に接する際に留意すべきことについてのさらなる認識を高めることを目的とする。
心身の健康管理に関する講習会	教職員	未定	教職員の心身の健康管理について毎回テーマを絞り、正しい理解と対処方法についての知識を高めることを目的とする。
新任教員FD研修	本校に新採用となった教員	通年	通年にわたり、指導教員との相互授業参観や指導教員からの授業方法等に関するアドバイス等を受けることで、授業力や教育力を向上させ、学生によりよい授業が提供できる教員育成を目的とする。
FD研修会	全教員	8月、12月頃	テーマを絞った教育改善のための研修会を実施する。 (例) 学生の学ぶ意欲を引き出す授業とは?
教員の相互授業参観	全教員	7月～8月初旬	教員が相互に授業を参観し、授業改善への意識の向上を図るとともに、学生が授業に取り組む姿勢を見学して授業改善の必要性を感じてもらうことを目的とする。
学生による授業評価アンケート	全教員	6月、12月	学生による全科目の授業評価を実施し、その結果に対して、教員の振り返りコメントを入力させることにより授業改善への意識の向上を図るとともに、授業改善や工夫を喚起させることを目的とする。

※ここに記載されているプログラムは、他大学の方は参加できませんので、ご了承下さい。なお、詳細については各大学にお問い合わせ下さい。

# 各種研修プログラムのお申し込み・お問い合わせについて

**徳島大学** 〒770-8502 徳島県徳島市南常三島町1-1

**徳島大学 総合教育センター (担当/吉田)**

TEL : 088-656-9865 FAX : 088-656-9865 E-mail : t-spod@cue.tokushima-u.ac.jp  
ホームページ <http://www.tokushima-u.ac.jp/>

**鳴門教育大学** 〒772-8502 徳島県鳴門市鳴門町高島字中島748番地

**鳴門教育大学 教務企画課学部教務係 (担当/新居)**

TEL : 088-687-6093 FAX : 088-687-6107 E-mail : gakubu@naruto-u.ac.jp  
ホームページ <http://www.naruto-u.ac.jp/>

**香川大学** 〒760-8521 香川県高松市幸町1-1

**香川大学 教育・学生支援室修学支援グループ (担当/石井)**

TEL : 087-832-1153 FAX : 087-832-1155 E-mail : gakusenm4@jim.aokagawa-u.ac.jp  
ホームページ <http://www.kagawa-u.ac.jp/>

**愛媛大学** 〒790-8577 愛媛県松山市文京町3番

**【FDプログラム】愛媛大学 教育学生支援部教育企画課能力開発室 (担当/猪崎, 秋山)**

TEL : 089-927-8922 FAX : 089-927-8922 E-mail : info@iec.ehime-u.ac.jp

**【SDプログラム】愛媛大学 教育学生支援部教育企画課 (担当/神谷, 川井)**

TEL : 089-927-9154 FAX : 089-927-8100 E-mail : spod@stu.ehime-u.ac.jp  
ホームページ <http://www.ehime-u.ac.jp/>

**高知大学** 〒780-8520 高知県高知市曙町二丁目5-1

**【FDプログラム】高知大学 学務部学務課 (担当/武内, 石川)**

TEL : 088-844-8652 FAX : 088-844-8367 E-mail : y-spod@kochi-u.ac.jp

**【SDプログラム】高知大学 総務部人事課SD担当 (担当/川崎)**

TEL : 088-844-8140 FAX : 088-844-8367 E-mail : y-spod@kochi-u.ac.jp  
ホームページ <http://www.kochi-u.ac.jp/JA/>

**香川県立保健医療大学** 〒761-0123 香川県高松市牟礼町原281番地1

**香川県立保健医療大学 (担当/山口, 吉田)**

TEL : 087-870-1212 FAX : 087-870-1212 E-mail : hokeniryodaigaku@pref.kagawa.lg.jp  
ホームページ <http://www.pref.kagawa.lg.jp/daigaku/>

**愛媛県立医療技術大学** 〒791-2101 愛媛県伊予郡砥部町高尾田543

**愛媛県立医療技術大学事務局経営企画グループ (担当/石原)**

TEL : 089-958-2111 FAX : 089-958-2177 E-mail : iryodai@epu.ac.jp  
ホームページ <http://www.epu.ac.jp/>

**高知県立大学・高知短期大学** 〒781-8515 高知県高知市池2751-1

**高知県立大学法人 法人経営室 (担当/岡山, 石田)**

TEL : 088-847-8574 FAX : 088-847-8670 E-mail : houjin@cc.u-kochi.ac.jp  
ホームページ <http://www.u-kochi.ac.jp/>

**高知工科大学** 〒782-8502 高知県香美市土佐山田町宮ノ口185

**高知工科大学総務部 (担当/上田, 片山)**

TEL : 0887-53-1112 FAX : 0887-57-2000 E-mail : personnel@ml.kochi-tech.ac.jp  
ホームページ <http://www.kochi-tech.ac.jp/>

**四国大学・四国大学短期大学部** 〒771-1192 徳島市応神町古川

**四国大学学部運営支援課 (担当/久我)**

TEL : 088-665-9909 FAX : 088-665-9958 E-mail : kugatakeshi@shikoku-u.ac.jp  
ホームページ <http://www.shikoku-u.ac.jp/>

**徳島文理大学・徳島文理大学短期大学部** 〒770-8514 徳島市山城町西浜傍180

**徳島文理大学教育・研究支援グループ** (担当/新見, 藤本)

TEL : 088-602-8670・088-602-8664 FAX : 088-602-8781 E-mail : kyoken@tokushima.bunri-u.ac.jp  
ホームページ <http://www.bunri-u.ac.jp/>

**高松大学・高松短期大学** 〒761-0194 香川県高松市春日町960番地

**高松大学・高松短期大学 総務部企画課** (担当/大芝)

TEL : 087-841-2164 FAX : 087-841-3064 E-mail : kikaku@takamatsu-u.ac.jp  
ホームページ <http://www.takamatsu-u.ac.jp>

**聖カタリナ大学・聖カタリナ大学短期大学部** 〒799-2496 愛媛県松山市北条660番地

**聖カタリナ大学・聖カタリナ大学短期大学部 総務課** (担当/大浦)

TEL : 089-993-0702 FAX : 089-993-0900 E-mail : soumu@catherine.ac.jp  
ホームページ <http://www.catherine.ac.jp/>

**松山大学** 〒790-8578 愛媛県松山市文京町4-2

**松山大学教務部教務課** (担当/阿部)

TEL : 089-926-7137 FAX : 089-923-8920 E-mail : abe@matsuyama.jp  
ホームページ <http://www.matsuyama-u.ac.jp/>

**徳島工業短期大学** 〒779-0108 徳島県板野郡板野町犬伏字蓮花谷100番地

**徳島工業短期大学庶務課** (担当/山脇)

TEL : 088-672-2311 FAX : 088-672-2162 E-mail : y.yamawaki@tokuco.ac.jp  
ホームページ <http://www.tokuco.ac.jp>

**今治明德短期大学** 〒794-0073 愛媛県今治市矢田甲688番地

**今治明德短期大学FD委員会** (担当/河内)

TEL : 0898-22-7279 FAX : 0898-22-7857 E-mail : kouti@meitan.ac.jp  
ホームページ <http://www.meitan.ac.jp>

**高知学園短期大学** 〒780-0955 高知県高知市旭天神町292-26

**高知学園短期大学教務課** (担当/森原)

TEL : 088-840-1121 FAX : 088-840-1123 E-mail : kyoumu@kochi-gc.ac.jp  
ホームページ <http://www.kochi-gc.ac.jp>

**阿南工業高等専門学校** 〒774-0017 徳島県阿南市見能林町青木265

**阿南工業高等専門学校総務課** (担当/天羽)

TEL : 0884-23-7212 FAX : 0884-22-5424 E-mail : s-hosasoumu@anan-nct.ac.jp  
ホームページ <http://www01.anan-nct.ac.jp/>

**香川高等専門学校** 〒761-8058 香川県高松市勅使町355

**香川高等専門学校総務課** (担当/笹嶋)

TEL : 087-869-3864 FAX : 087-869-3819 E-mail : s\_hosa@t.kagawa-nct.ac.jp  
ホームページ <http://www.kagawa-nct.ac.jp/>

**新居浜工業高等専門学校** 〒792-8580 愛媛県新居浜市八雲町7-1

**新居浜工業高等専門学校学生課教務係** (担当/井上, 高倉)

TEL : 0897-37-7724 FAX : 0897-37-7844 E-mail : kyoumu-c@off.niihama-nct.ac.jp  
ホームページ <http://www.niihama-nct.ac.jp/>

**高知工業高等専門学校** 〒783-8508 高知県南国市物部乙200-1

**高知工業高等専門学校総務課** (担当/三宮)

TEL : 088-864-5601 FAX : 088-864-5606 E-mail : s-hosa@jm.kochi-ct.ac.jp  
ホームページ <http://www.kochi-ct.ac.jp/>

## ■お申し込み方法■

下記の内容を開催大学の申し込み先にメールで送付ください。

- ①氏名
- ②所属大学
- ③所属学部，所属部署など
- ④職種（教員，職員等）
- ⑤プログラム番号
- ⑥プログラム名

※遠隔配信プログラムをご希望の場合は，その旨も一緒にお知らせください。

各プログラムには受講定員があります。そのため，申し込み受付は先着順とさせていただきます。

SPODは，加盟校の皆様の会費によって運営しています。そのため，原則としてSPOD加盟校以外の教職員の皆様が研修プログラムを受講する場合には，研修料を徴収させていただきます。（研修料については下の表をご参照ください。）

区 分	2時間以下のプログラム	1日で終了するプログラム	1泊2日のプログラム	2泊3日以上プログラム	左記に関わらず外部委託する研修プログラムの研修料は，委託費の総額を受講定員で除した金額とする。
研修料	2,000円	3,000円	5,000円	7,000円	

【研修料に関するお問い合わせ先】

SPOD事務局（愛媛大学教育企画課）

TEL：089-927-9154 E-mail：spod@stu.ehime-u.ac.jp

## ■SPODホームページについて■

SPODホームページでは、研修プログラムやSPODフォーラムの内容を随時更新し公表しています。また、これまでのSPODの取組についても掲載しておりますので、是非ご参照ください。

SPODホームページアドレス <http://www.spod.ehime-u.ac.jp/>

## 研修プログラムガイド 2014

平成26年5月 発行

発 行 四国地区大学教職員能力開発ネットワーク

(事務局：愛媛大学教育学生支援部教育企画課)

〒790-8577 愛媛県松山市文京町3番

TEL/FAX 089-927-9154

E-mail [spod@stu.ehime-u.ac.jp](mailto:spod@stu.ehime-u.ac.jp)

ホームページ <http://www.spod.ehime-u.ac.jp/>

「四国地区大学教職員能力開発ネットワーク (SPOD)」は、  
加盟校の共同事業として運営しています。



SPOD=Shikoku

Professional and  
Organizational

Development Network in Higher Education

